



# 千葉大学における両立支援ニーズ調査報告書

千葉大学 両立支援企画室



本調査は、平成 19 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」  
千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業の一環で実施したものです。

## 両立支援ニーズ調査報告書の発行にあたって

千葉大学長 齋藤 康

大学における働く環境はどの人にとっても教育、研究が発展できるものでなければならぬ、そのためには心身ともに健康を維持し、経済的な裏づけが常に必要である。

特に女性にとっては従来の社会的な習慣の中での不利な環境、そして出産、育児などの育児する側にかかる問題点など大きな負担をかかえてきた。これは一大学、一個人の問題ではなく、大学も含め、地域、国の行政、そして社会などきわめて多様な問題から生じている。しかし現場では常に何が、どのように問題であるかということを一一人ひとりが認識することが必要であり、そのために現場の意見を集約することはきわめて重要である。

そのような意味でこの調査書は大きな問題の一側面ではあるが、きわめて正確な今を表現しているように思える。両立支援企画室のこのような努力は過去にも行われている。それは本学における女性教官の比率が上昇しているという結果をもたらしており、本学は女性の才能がより発揮できる大学へと発展していることを示している。このような成果を生み出している両立支援企画室のご努力に感謝するとともに、この報告書がまた新たないい環境を作り出すことを祈念している。

## 目次

|   |    |
|---|----|
| 1. はじめに.....                                | 4  |
| 2. 千葉大学における両立支援ニーズ調査実施概要.....               | 7  |
| 3. 調査結果—回答者プロフィール— .....                    | 8  |
| (1) 性別・身分 .....                             | 8  |
| (2) 所属キャンパス（主に就業・就学しているキャンパス） .....         | 9  |
| (3) 年齢.....                                 | 9  |
| (4) 勤務形態（大学院生以外） .....                      | 9  |
| (5) 本学での勤続年数（大学院生以外） .....                  | 10 |
| (6) 配偶者の有無と就業状況.....                        | 10 |
| (7) 子どもの有無と年齢層 .....                        | 11 |
| (8) 子どもの人数.....                             | 11 |
| (9) 妊娠の予定 .....                             | 12 |
| (10) 介護が必要な家族の有無.....                       | 12 |
| 4. 仕事・研究と家庭生活の両立について .....                  | 13 |
| (1) 大学院生 研究と家庭生活の両立の現状.....                 | 13 |
| (2) 大学院生 課程別の研究と家庭生活の両立の現状 .....            | 16 |
| (3) 教職員 仕事と家庭生活両立の現状.....                   | 18 |
| (4) 教職員 職種別の仕事と家庭生活両立の現状.....               | 21 |
| (5) 仕事や研究と家庭生活の両立に対する認識 .....               | 31 |
| 5. 本学両立支援企画室について .....                      | 32 |
| (1) 各種制度の認知度 .....                          | 32 |
| (2) 本学の両立支援制度に関する意見・要望.....                 | 33 |
| 6. 小学校就学前のお子様を持つ方 現在の保育・育児状況 .....          | 53 |
| (1) 平日の保育方法について.....                        | 53 |
| (2) 休日の保育方法について.....                        | 54 |
| 7. 現在妊娠中の方 今後の育児方法の予定.....                  | 55 |
| 8. 病後児保育・病児病気保育の利用 ～小学校就学前のお子様をお持ちの方～ ..... | 56 |
| (1) 現在の病後児保育・病児病気保育の利用状況.....               | 56 |
| (2) 病後児保育・病児病気保育の利用希望 .....                 | 58 |
| (3) 病後児保育・病児病気保育に関する意見・要望 .....             | 59 |

|   |    |
|---|----|
| <b>9. 病後児保育・病児病気保育の利用 ～小学生のお子様をお持ちの方～</b> ..... | 64 |
| (1) 現在の病後児保育・病児病気保育の利用状況.....                   | 64 |
| (2) 病後児保育・病児病気保育の利用希望 .....                     | 65 |
| (3) 小学校のお子様をお持ちの方 病後児保育・病児病気保育に関する意見・要望 .....   | 66 |
| <b>10. まとめ</b> .....                            | 68 |
| <b>付録1 調査票</b> .....                            | 71 |
| <b>付録2 千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業</b> .....   | 82 |
| <b>付録3 本学における女性研究者比率</b> .....                  | 83 |

## 1. はじめに

千葉大学では、平成 17 年度より、千葉大学憲章に基づき、女性研究者育成の強化を学長のリーダーシップによる重点実施施策として取り組み、既に次の事項を実施して参りました。

### (1) 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定

子育てを行う教職員の仕事と家庭生活の両立支援等に係わる雇用環境を整備するため、平成 17 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの 5 年間にわたる行動計画を策定し、それに基づく行動を展開しました。

### (2) キャンパスにおける 2 つ目の学内保育園の設置（平成 18 年 4 月に開所）と整備

本学には現在 2 つの学内保育園を設置しています。1 つ目のさつき保育園は、平成 15 年 4 月に亥鼻キャンパスの医学部附属病院内に設置され、医学部附属病院に勤務する教職員（但し、定員に余裕がある場合は病院以外の千葉大学亥鼻キャンパスの教職員、大学院生及び学生等のお子様も可）を対象に、「24 時間保育」、「病後児保育」を実施しています。

さらに本学 2 つ目となるやよい保育園は、平成 18 年 4 月に西千葉キャンパスに設置され、本学教職員及び学生のお子様を対象に、「22 時までの延長保育」、「センター入試時の臨時保育」を実施しています。またこの保育所では、本学学生や留学生に対する保育料減額を導入しています。

### (3) ワーク・ライフ・バランスを支援する「両立支援企画室」の設置

教職員の仕事と家庭生活の両立支援に関する総合的施策の樹立と実施を目的として、平成 18 年度当初に、学長直属の「両立支援企画室」を設置しました。

行動の柱として、①個人の意識啓発と能力開発、②大学内の雇用環境整備、③両立支援のための制度改革の 3 項目を掲げ、平成 19 年度に企画室員を増員。現在は、下部組織である各部局の両立支援室とも連携しながら事業を推進しています。

### (4) 男女共同参画や両立支援に関する問題分析

平成 18 年度には、女性研究者（教員、大学院生）を対象に調査を実施しました。調査結果から、妊娠・出産や育児、介護に対する職場での支援体制の不備が大きな課題として挙げられ、研究分野や個々が抱えている育児や介護の問題状況の異なりなどにより、必要な支援の優先度が異なることも示されました。さらに女性大学院生からは、モデルとなる女性研究者像が乏しいため、研究と結婚生活との両立に対する不安を感じていることが明らかになりました。また最近増加しているポスドクや任期付き教員の着任時期と育児期が重なる点も、大きな問題として指摘されました。

支援を阻む要因としては、職場における両立支援への意識や雰囲気により部局間格差があり、両立支援の必要性が十分に認識されていない部局では、両立支援に対する周囲の反発を危惧する声や、同僚に迷惑をかけることを遠慮する声もありました。また実際に本学においては、育児・介護休業制度が整備され

ているものの、その利用率は極めて低く、女性研究者の個人的な努力でキャリアを継続している場合が多い実態が浮き彫りになりました。さらに部局によっては、「研究は女性には困難な職業」「将来は育児や介護の問題を抱える」といった先入観が横溢し、女性教員や女性大学院生の研究者としての成長に期待しないという阻害要因が存在することも指摘されました。

#### (5) 平成 19 年度文部科学省科学振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業の推進

本学におけるこれまでの取り組みが認められ、平成 19 年度文部科学省科学振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業に採択されました。現在は両立支援企画室が中心となって、3 つの柱 ①両立支援基盤体制の整備 ②支援循環型体制の構築 ③意識改革 により、女性研究者育成のための支援循環型体制を強化しています。

これまでの取り組みにより、「勤務制度改革」や「女性専用休憩室」、「学内 2 ヲ所にベビーシート新設」、「研究支援要員配置」など、女性研究者を支援する環境整備が進んでいます。

#### 【これまでの取り組み成果】

##### ① 両立支援基盤体制の整備

- ・女性研究者比率の向上！ 平成 21 年度 17.9%
- ・テレビ会議システムの設置と運用
- ・勤務制度改革の実施（平成 21 年度より）

#### 「短時間勤務制度」導入、「育児部分休業制度」改正、「不妊治療にかかる休暇」新設

- ・育児負担のある女性研究者への研究支援要員配置
- ・育児クーポン、介護クーポン発行
- ・学会開催時の保育室無料貸出
- ・女性専用休憩室・マタニティコーナーの整備、学内 2 か所にベビーシート新設

##### ② 支援循環型体制の構築

- ・女性研究者の能力育成（マネジメントセミナーの開催）
- ・メンターの育成、制度実施（コーチングセミナー、メンター交流会など）
- ・ロールモデル紹介冊子、キャリアプランシートの発行
- ・みる・ふいーゆ（研究者を目指す女性大学院生）メンバーによるロールモデルの取材、発表

##### ③ 意識改革

- ・ホームページ、ニュースレター発行による広報活動
- ・男女共同参画やワーク・ライフ・バランスをテーマとしたシンポジウムやセミナーの実施
- ・各部局に両立支援室を設置し、部局の状況に合った女性研究者支援やワーク・ライフ・バランス取り組みを実施。また学内に広く周知するため、「千葉大学におけるワーク・ライフ・バランス支援活動認証・表彰取扱要領」を策定。
- ・リーフレット「千葉大学におけるワーク・ライフ・バランス」を全教職員に配布
- ・啓発 DVD「キャンパスにおけるワーク・ライフ・バランス」作成

以上の取り組みを踏まえ、このたび本学における今後の両立支援施策に必要な基礎資料を得ることを目的に、全教職員・大学院生を対象に、仕事（教育研究等）や研究と家庭生活（子育てや介護などを含む）支援のニーズ把握のための『両立支援に関するニーズ調査』を実施いたしました。

本調査は年末年始の忙しい時期にWEB調査（大学病院教職員は病院内のインターネット環境の問題から調査用紙による）にて実施することとなりましたが、教職員 957 名、大学院生 247 名、計 1,204 名の方々から回答を頂きました。また自由回答には、多くの貴重な意見をお寄せ頂きました。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。今後は、頂いたご意見・ご要望にこたえられるよう、本学のさらなる両立支援の推進に努めて参ります。

平成 21 年 5 月

<調査ワーキング・グループ>

千葉大学 両立支援企画室

室 長 森 恵美（看護学研究科 教授）

副室長 寺崎 朝子（融合科学研究科 助教）

室 員 貞広 斎子（教育学部 准教授）

小林カオル（薬学研究院 准教授）

丁 志映（工学研究科 助教）

小玉 小百合（特任研究員）

## 2. 千葉大学における両立支援ニーズ調査実施概要

### 1. 調査目的

本調査の目的は、本学に勤務する教職員および大学院学生を対象に、仕事（教育研究等）や研究と子育てや介護などを含めた家庭生活の両立支援・子育て支援のニーズを把握し、本学における今後の両立支援施策に必要な基礎資料を得ることである。

### 2. 調査概要

(1) 調査対象者 本学に勤務する全教職員（非常勤を含む男女）および在籍する全大学院生（男女）

(2) 調査時期 平成 20 年 12 月 22 日～平成 21 年 2 月 7 日まで

(3) 調査方法 平成 20 年 12 月 1 日時点の各自の様子について、次のいずれかの方法で回答を求めた。

#### ① WEB 調査（病院勤務者を除く調査対象者）

調査対象者が本学内からのみアクセスできる WEB サイト（URL）にアクセスし、調査画面から回答する方法。

#### ② 質問紙調査（本学大学病院勤務者）<sup>1</sup>

各対象者に質問紙を配布し、対象者が回答を記入した質問紙を回収ボックスに投函する方法。

(4) 調査結果の取り扱い

本調査の結果は、回答者個人が特定されないよう統計的に集計・分析し、本学の両立支援のための基礎資料として活用する。

(5) 本調査に関する問合せ先

千葉大学 両立支援企画室

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL : 043-290-2020（内線 4043） E-mail: [youritsu@office.chiba-u.jp](mailto:youritsu@office.chiba-u.jp)

#### 【凡 例】

1. 図表中の N は回答者の実数を示す。
2. 自由回答は、基本的に原文を掲載した。ただし、個人が特定される可能性のある記述については、一部修正を加えた。また、明らかに誤記だと思われる記述は訂正し、句読点は「、」「。」に統一した。属性は身分（「院生」、「教員」、「職員」、「医療・看護系職員」、「その他医療職員・研修医」）のみ示した。

<sup>1</sup> 勤務者の大半がインターネットによる回答が困難な職場環境のため、質問紙による調査を実施した。



### 3. 調査結果－回答者プロフィール

本調査の回答者は、1,204名（うち教職員 957名、大学院生 247名）、回収率は15.8%（教職員 20.5%、大学院生 8.3%）であった。

回答者のプロフィールの詳細は次の通りである。

| 調査対象              | 人数           | 回収率          |
|-------------------|--------------|--------------|
| 本学全教職員(2009年2月時点) | 4,652        | 20.5%        |
| 本学大学院生(2008年5月時点) | 2,965        | 8.3%         |
| <b>全体</b>         | <b>7,617</b> | <b>15.8%</b> |

#### (1) 性別・身分

回答者の性別は、「男性」44.5%、「女性」55.5%であった。

身分別では、「看護系職員」が17.6%と最も多く、次いで「博士課程前期大学院生」14.1%、「准教授・講師」10.5%、「主任・一般職員」10.4%の順に回答が多かった。

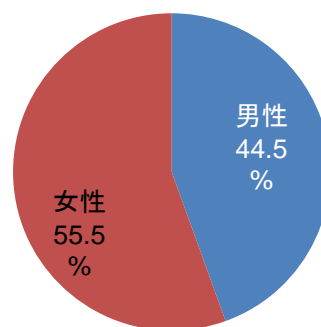


図 3-1-1 性別 (N=1,204)

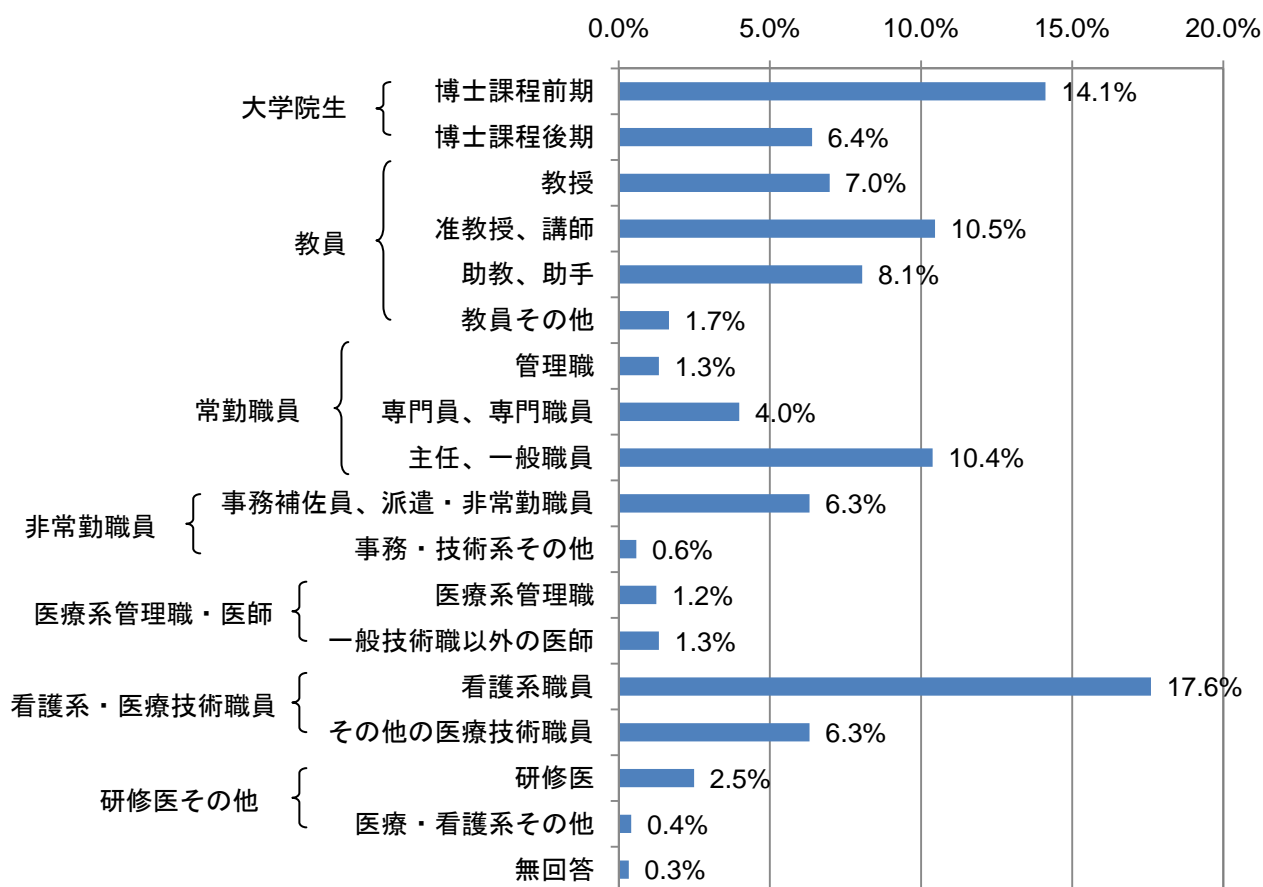


図 3-1-2 身分 (N=1,204)

(2) 所属キャンパス（主に就業・就学しているキャンパス）

所属キャンパスは、「亥鼻」が54.4%と最も多く、次いで「西千葉」39.0%、「松戸・柏の葉」6.3%であった。  
（亥鼻からの回答者が多かったのは、病院関係者からの回答が多かった結果である。）

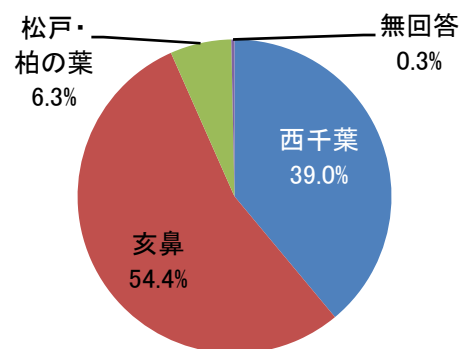


図 3-2 所属キャンパス (N=1,204)

(3) 年齢

回答者の年齢構成は「25歳以下」が20.6%と最も多く、次いで「26-30歳」16.0%、「31-35歳」15.9%であった。

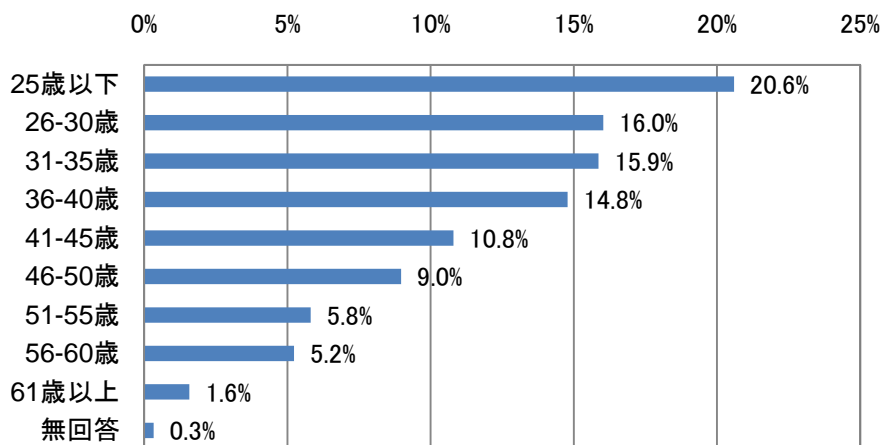


図 3-3 年齢 (N=1,204)

(4) 勤務形態（大学院生以外）

回答者の勤務形態は、「常勤」が79.6%と大半を占め、次いで「非常勤 A（1週間の勤務時間が40時間）」が10.3%、「非常勤 B（1週間の勤務時間が30時間以内または、週以外の期間によって勤務日を定める教員）」が8.2%であった。

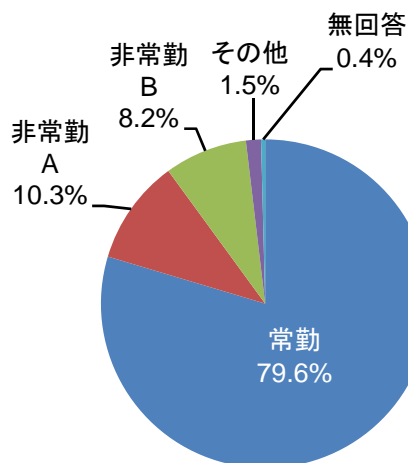


図 3-4 勤務形態 (N=957)

(5) 本学での勤続年数（大学院生以外）

本学での勤続年数は、「5年未満」が47.2%と約半数を占め、次いで「6-10年」が18.3%であった。

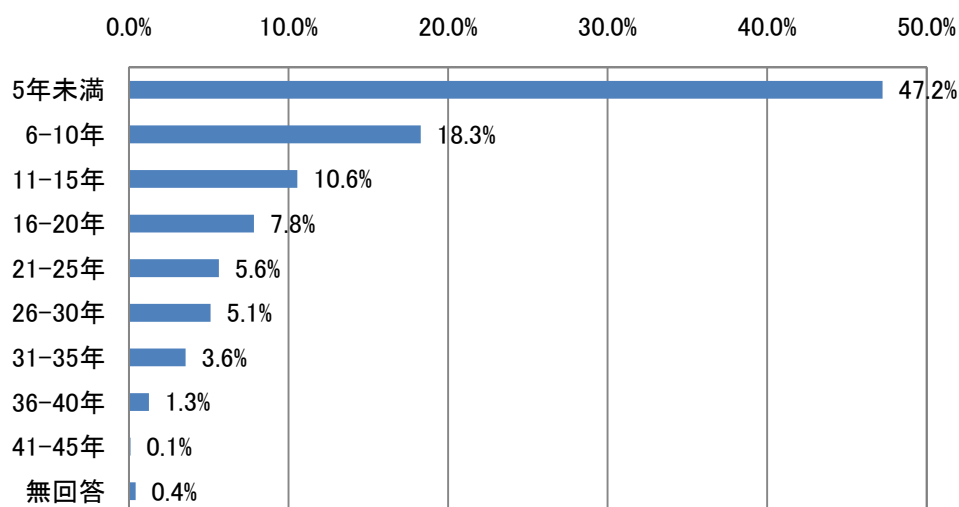


図 3-5 勤続年数 (N=957)

(6) 配偶者の有無と就業状況

配偶者の有無と就業状況では、「配偶者なし」が50.7%と半数を占め、次いで「配偶者常勤」27.3%、「配偶者無職」12.0%であった。

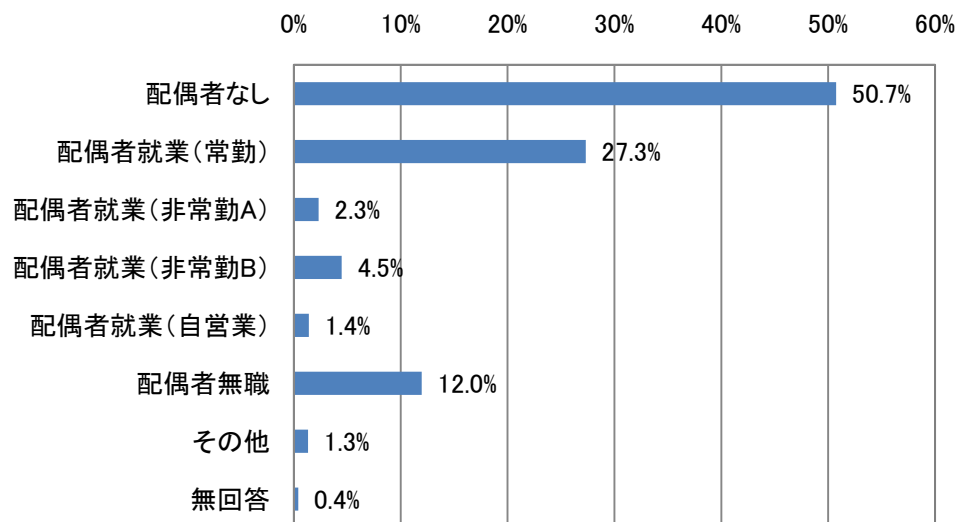


図 3-6 配偶者の有無 (N=1,204)

(7) 子どもの有無と年齢層

子どもの有無と年齢層では、「子どもなし」が 60.3%と半数を超えた。子どもを持っていると答えた回答者では「中学生以上」13.8%、「小学校就学前」12.6%であった。

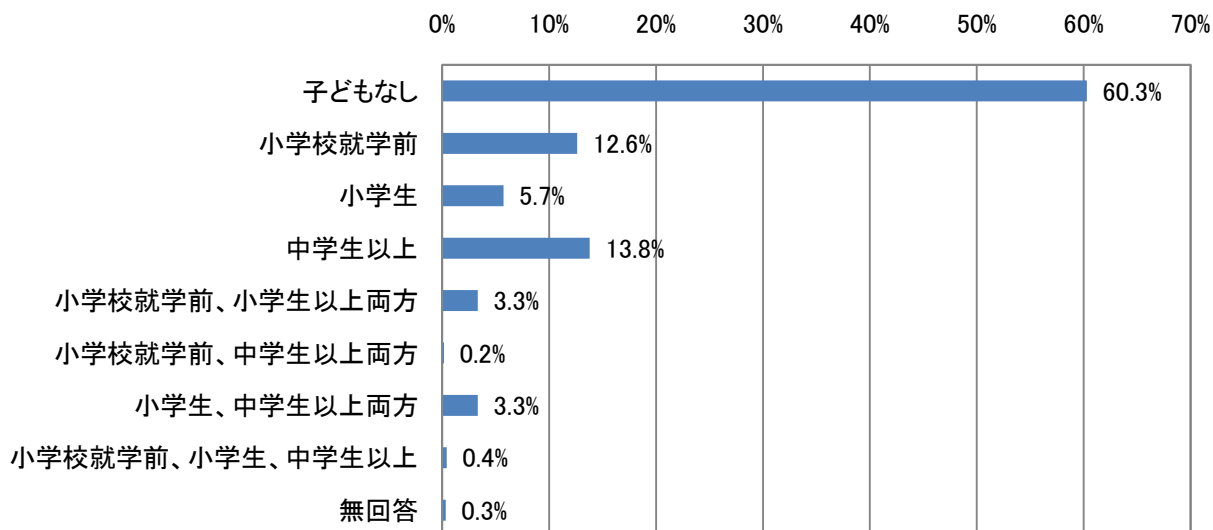
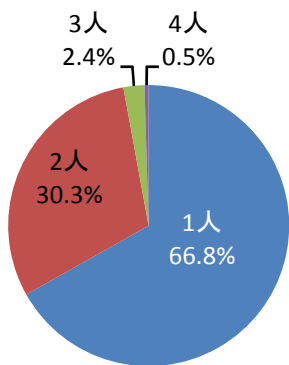


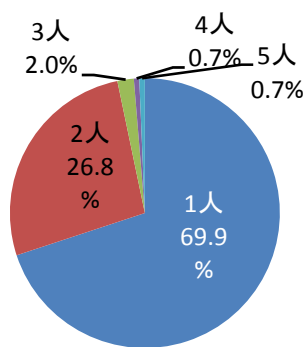
図 3-7 子どもの有無 (N=1,204)

(8) 子どもの人数

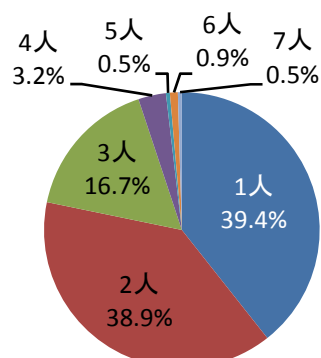
各年齢層で、「1人」が最も多く、<小学校就学前>66.8%、<小学生>69.9%、<中学生以上>39.4%であった。



図表3-8-1小学校就学前のお子様(N=208)



図表3-8-2小学生のお子様(N=153)



図表3-8-3中学生以上のお子様(N=216)

(9) 妊娠の予定

自分または配偶者の妊娠・妊娠計画（不妊治療中を含む）は、「予定なし」が90.4%と最も多く、次いで「不妊治療中を含む妊娠計画中」が6.6%、「妊娠中」が2.5%であった。

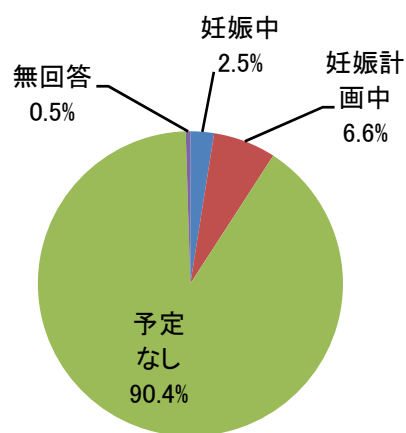


図 3-9 妊娠の有無 (N=1,204)

(10) 介護が必要な家族の有無

介護が必要な家族の有無では、「いない」が88.4%、次いで「別居中の家族がいる」9.1%、「同居中の家族がいる」が2.1%であった。

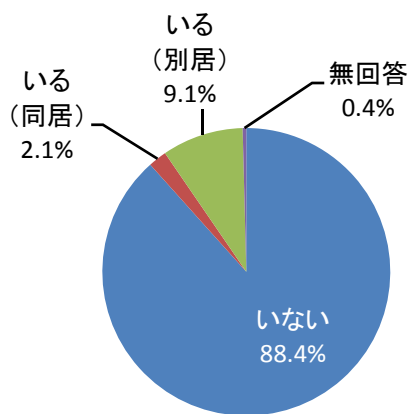


図 3-10 介護家族の有無 (N=1,204)

#### 4. 仕事・研究と家庭生活の両立について

##### (1) 大学院生 研究と家庭生活の両立の現状

本学大学院生の研究環境は、1日当たりの平均在学時間が平均10-12時間、12-14時間が多く、「通学に便利」で「時間が調整でき」、「男女にかかわらず能力を発揮できる」という回答が多かった一方、「女性が結婚・出産後も研究を続けることは困難」で、「学内に研究や家庭を両立している“良きモデル”や“相談できる人”が少ない」という回答が多かった。

【回答者（大学院生）の詳細】

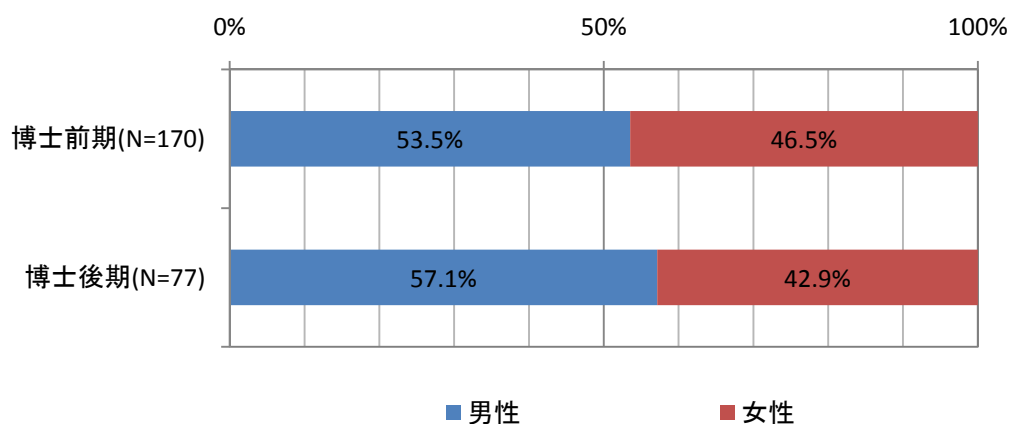


図 4-1-1 所属課程

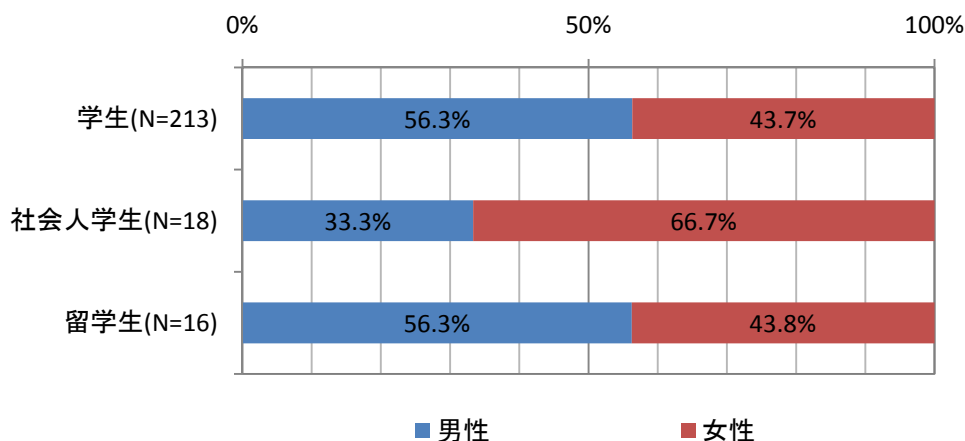


図 4-1-2 属性

① 平均在学時間について

問1 <大学院生>

a. 大学（職場、研究室、病院）に来ている日の 1日当たりの平均在学時間について、あてはまる番号を一つ選んでください。

1. 4時間未満      2. 4～6時間      3. 6～8時間      4. 8～10時間  
 5. 10～12時間      6. 12～14時間      7. 14～16時間      8. 16時間以上

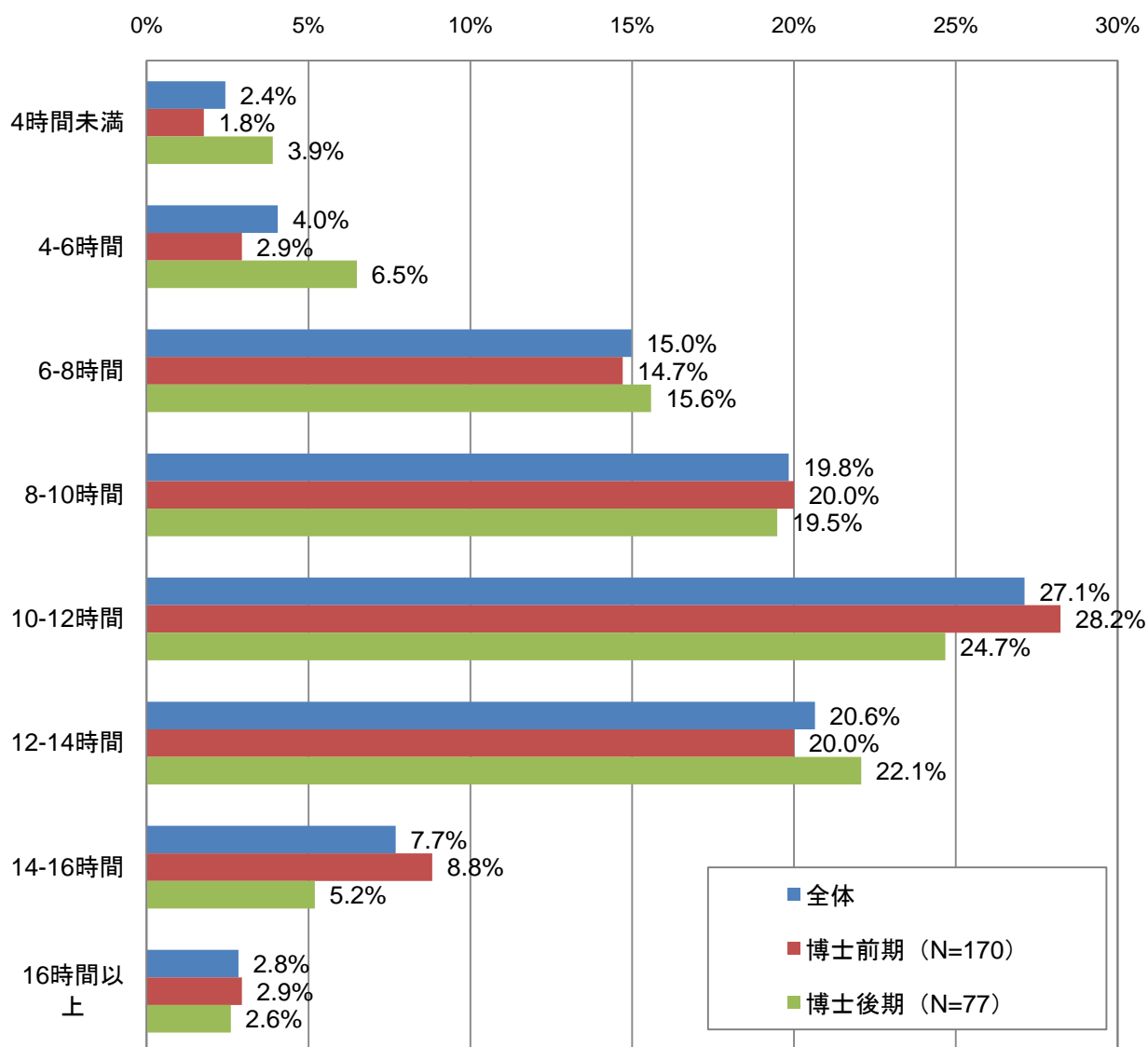


図 4-1-3 1日の平均在学時間 (N=247)

② 千葉大学における研究環境について

問1 <大学院生>

b. 現在の千葉大学における研究環境について次の6項目について、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のうち、あてはまる番号をそれぞれ一つ選んでください。

1. 通学に便利である
2. 就業時間を自分で調整することができる
3. 女性が結婚・出産後も研究を続けられる環境にある
4. 男女にかかわらず能力を発揮できる環境にある
5. 学内に研究や家庭を両立している良きモデルがいる
6. 学内に研究が家庭生活について相談できる人がいる

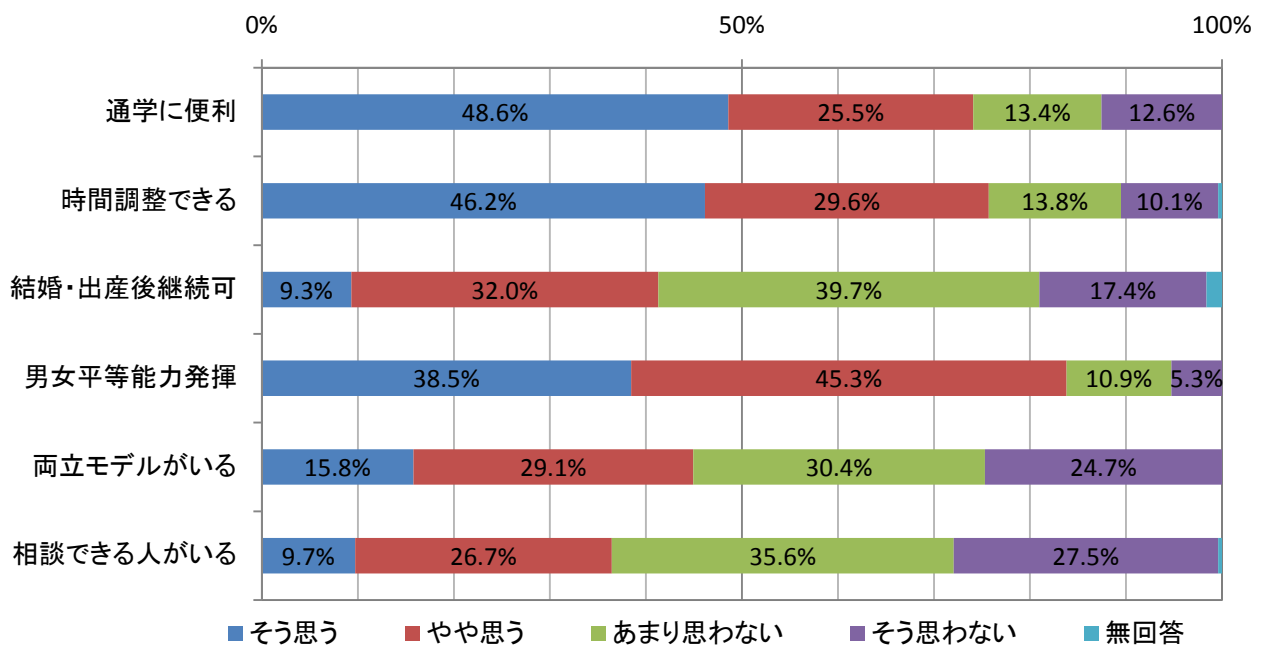


図 4-1-4 千葉大学における研究環境<大学院生> (N=247)



(2) 大学院生 課程別の研究と家庭生活の両立の現状

本学の研究環境については、特に博士後期課程で、「男女にかかわらず能力を発揮できる」、「学内に研究や家庭を両立している良きモデルがいる」、「学内に研究や家庭を両立について相談できる人いる」で、「あまりそう思わない」、「そう思わない」という回答が多かった。

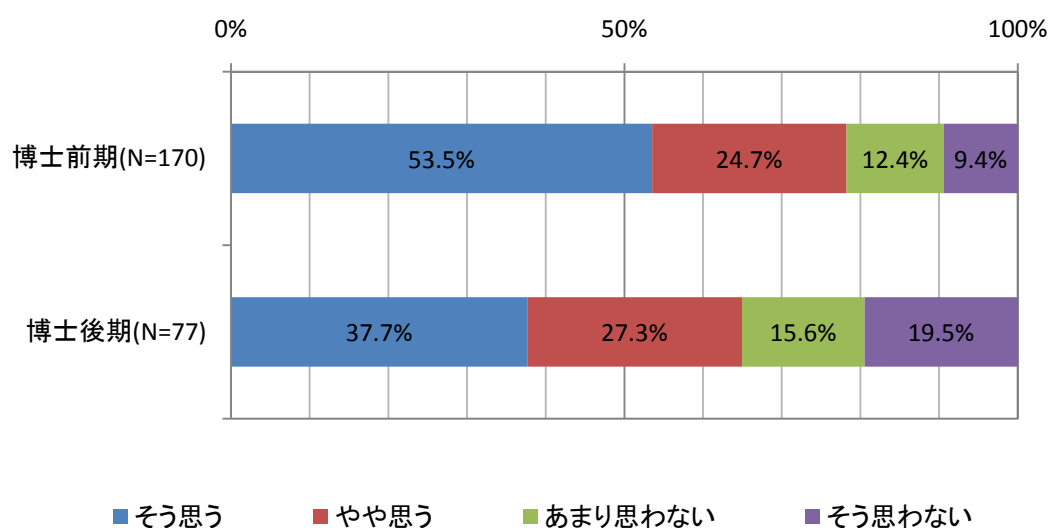


図 4-2-1 通勤に便利である

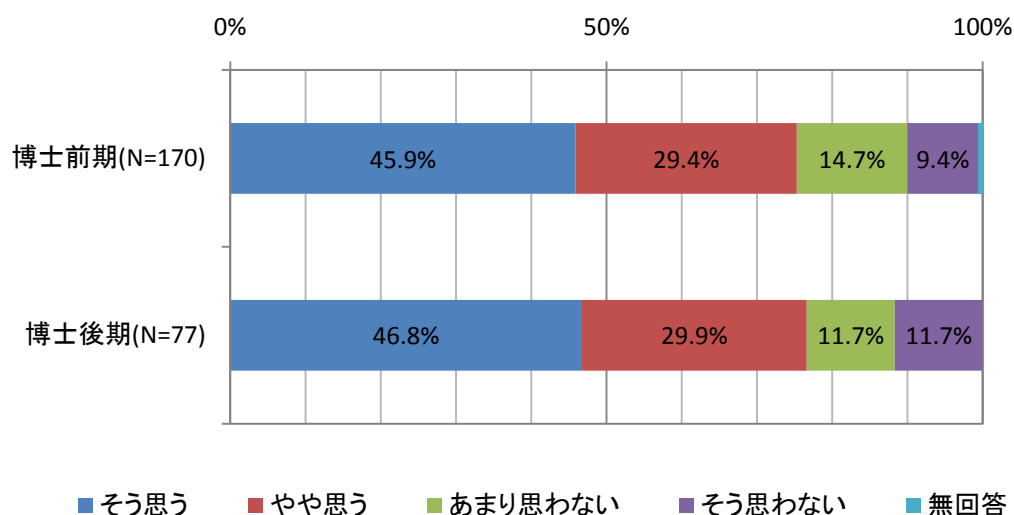


図 4-2-2 就学時間を自分で調整することができる

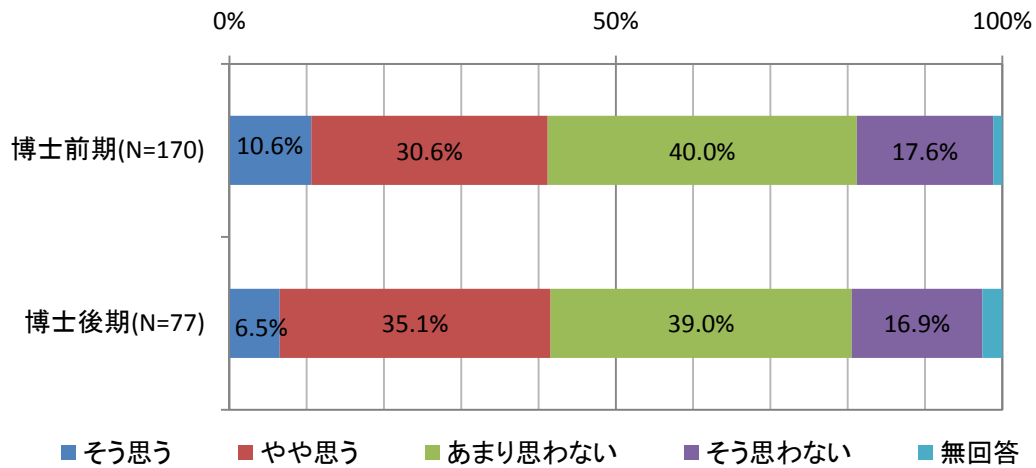


図 4-2-3 女性が結婚後も続けられる

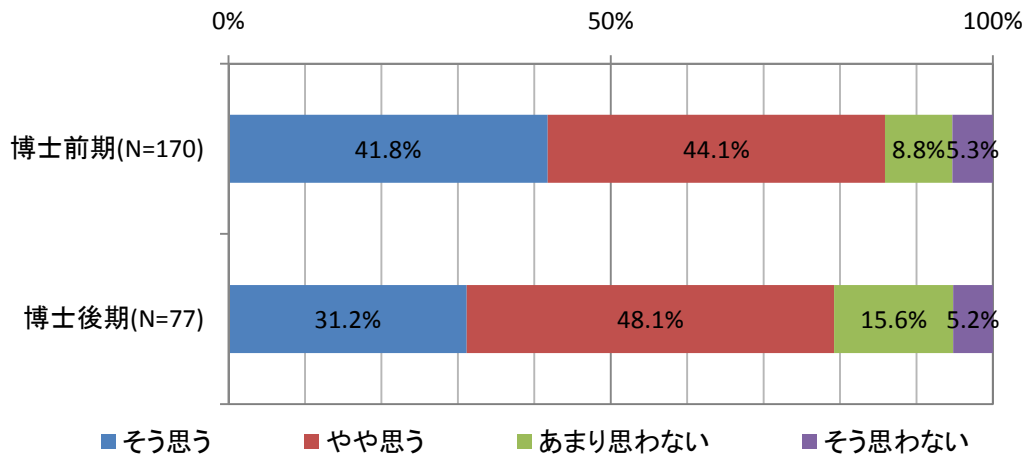


図 4-4-4 男女にかかわりなく能力を発揮できる

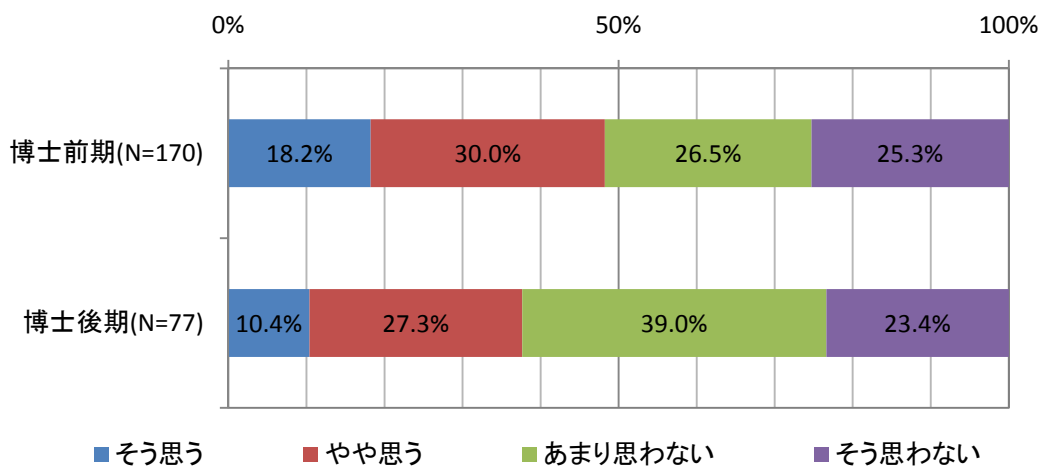


図 4-4-5 研究や家庭を両立モデルがある

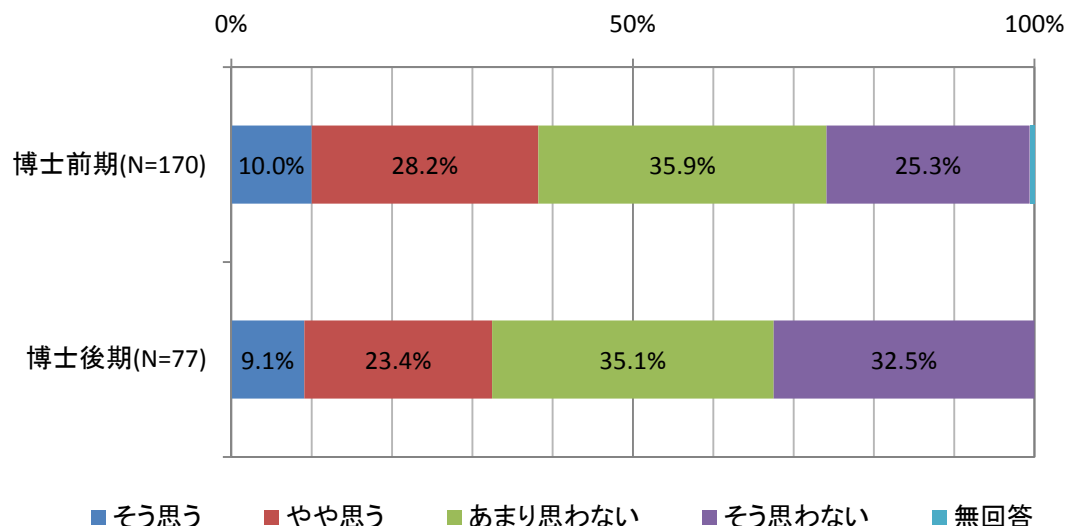


図 4-4-6 研究と家庭の両立で相談できる人がある

### (3) 教職員 仕事と家庭生活両立の現状

本学教職員全体の仕事環境は、1日当たりの就業時間では平均 8-10 時間が多く、「通勤に便利」で「時間が調整でき」、「男女にかかわらず能力を発揮できる」が、「女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けることは困難」で、「職場内に仕事や研究と家庭を両立している“良きモデル”や“相談できる人”が少ない」という回答が多かった。

育児や介護に関する制度でも、「支援制度の充実」、「短時間勤務制度の取得」、「育児や介護のための休業による人事評価」、「代替要員制度」いずれも「整っていない」という回答が多かった。

#### ① 平均在勤時間

##### 問 1 <教職員>

a. 大学（職場、研究室、病院）に来ている日の 1日当たりの平均在勤時間について、あてはまる番号を一つ選んでください。

- |             |             |             |            |
|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 4 時間未満   | 2. 4～ 6 時間  | 3. 6～ 8 時間  | 4. 8～10 時間 |
| 5. 10～12 時間 | 6. 12～14 時間 | 7. 14～16 時間 | 8. 16 時間以上 |

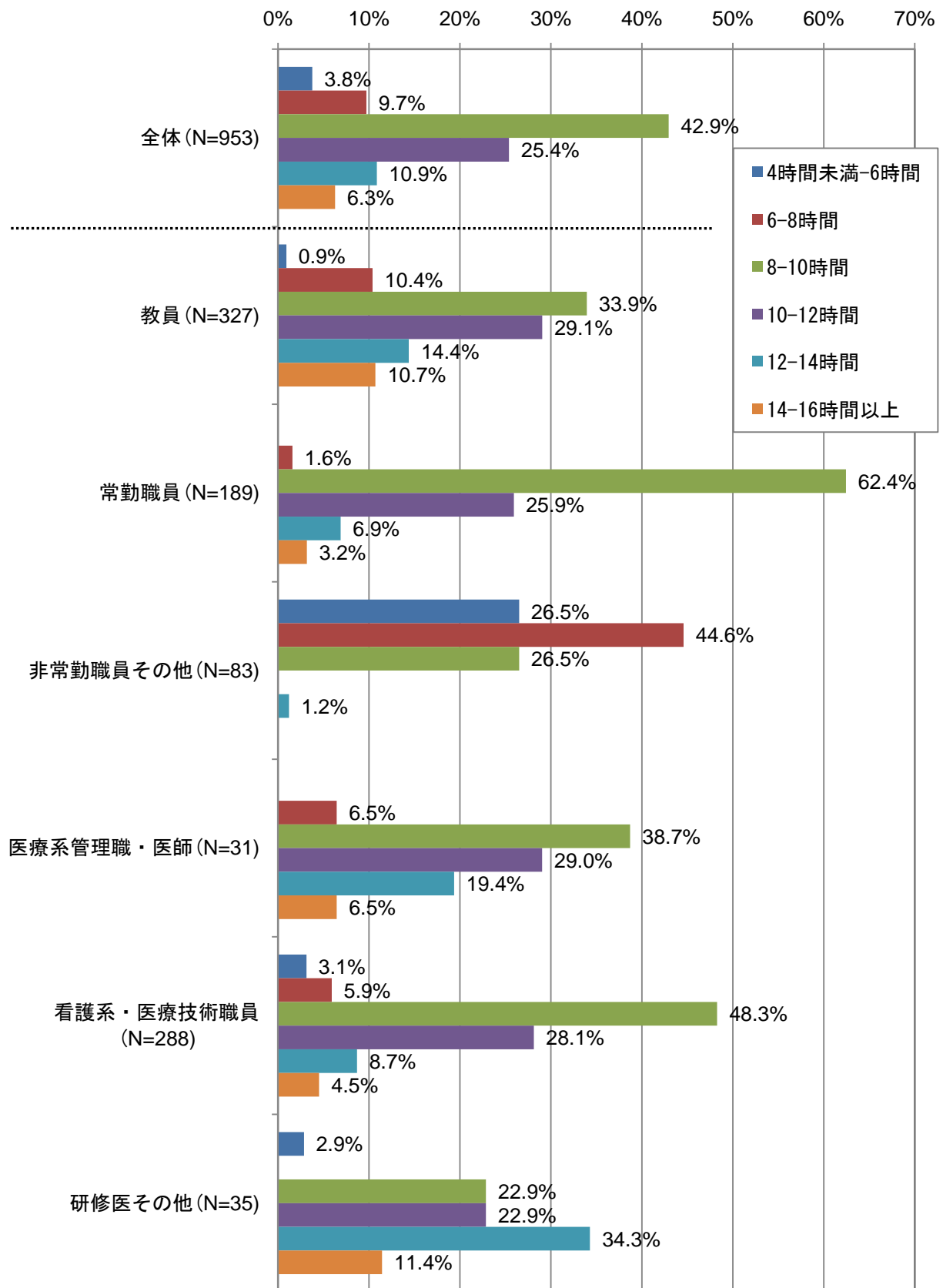


図 4-3-1 1日の平均在勤時間

② 千葉大学における職場環境について

問1 <教職員>

b. 現在の千葉大学における職場環境について次の6項目について、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」で、あてはまる番号をそれぞれ一つ選んでください。

1. 通勤に便利である
2. 就業時間が自分の希望に合っている
3. 女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けられる環境にある
4. 男女にかかわりなく能力を発揮できる環境にある
5. 職場内に、仕事や研究と家庭を両立している良きモデルがいる
6. 職場内に、仕事や研究と家庭の両立について相談できる人がいる
7. 育児や介護に関する支援制度が充実している
8. 育児や介護のための短時間勤務体制がとりやすい
9. 育児や介護のために休業しても、人事評価で不利にならない
10. 産休および育休中の代替要員体制が整っている

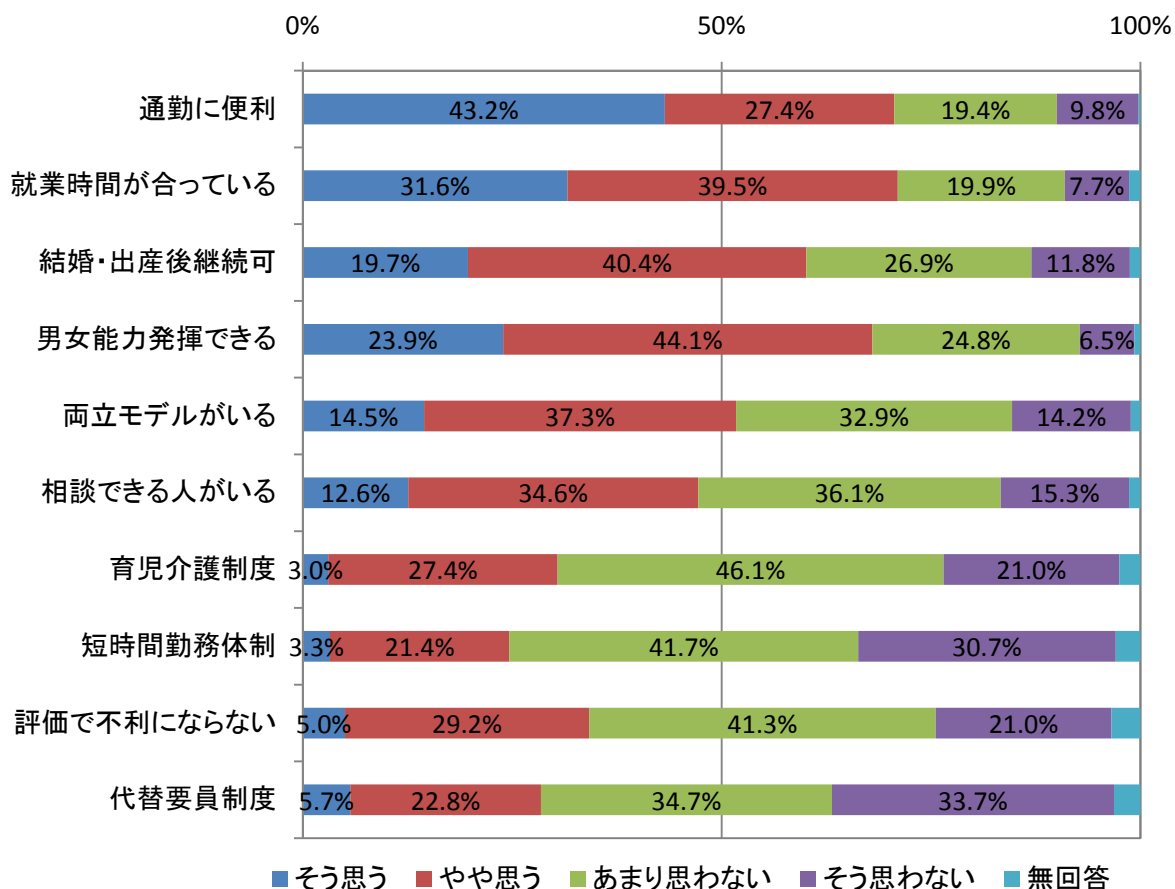


図 4-3-2 教職員全体の勤務環境 (N=953)

(4) 教職員 職種別の仕事と家庭生活両立の現状

本学の仕事・研究環境について職種別にみても、特に“育児や介護に関する制度”について、「整っていない」という回答が多く、中でも「支援制度の充実」、「短時間勤務制度の取得」、「育児や介護のための休業による人事評価」では、「助教、助手」、「事務補佐員、派遣・非常勤職員」、「一般技術職以外の医師」、「看護系職員」、「その他の医療技術職員」、「研修医他」で「整っていない」という回答が多かった。

① 通勤に便利である

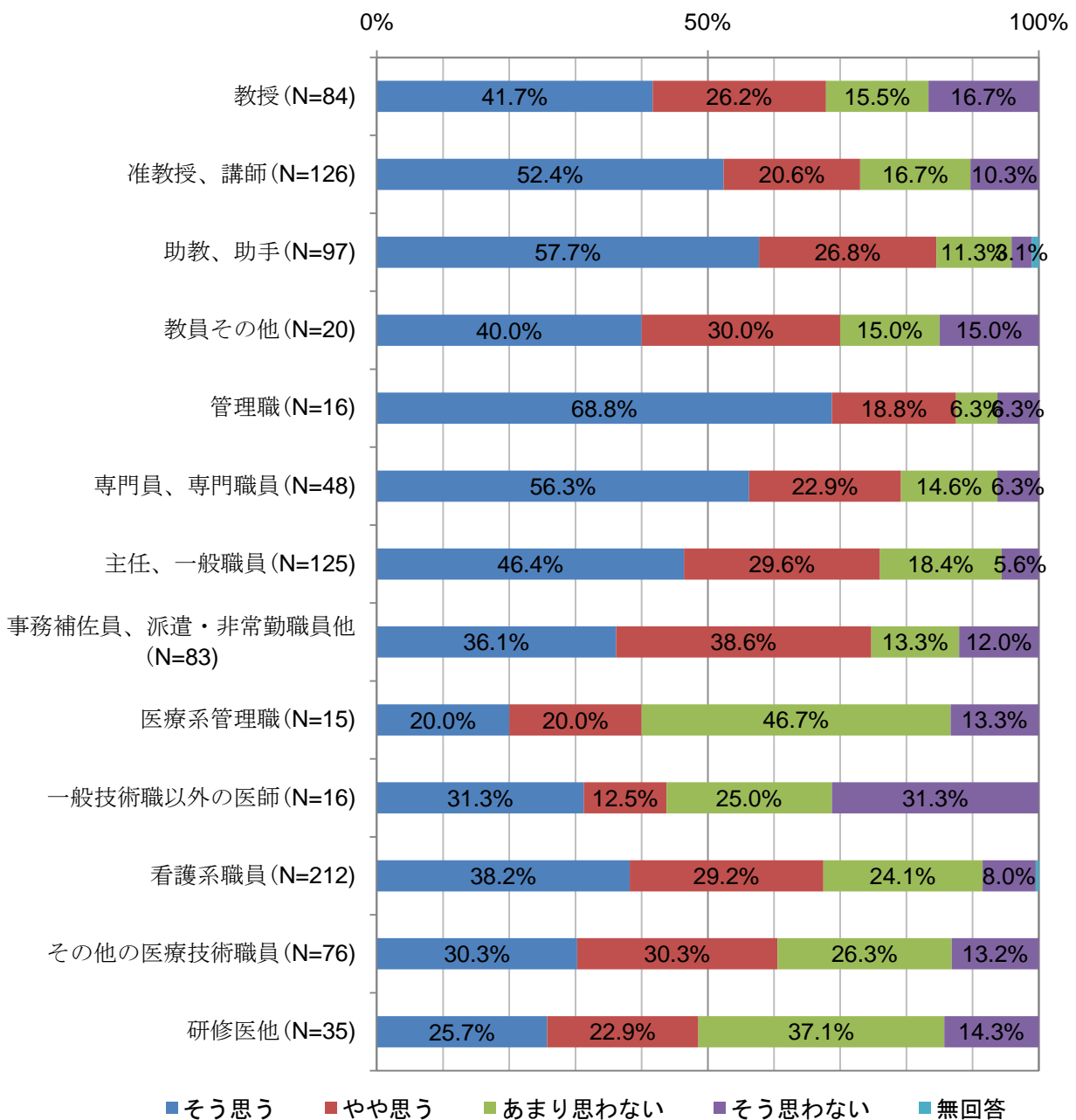


図 4-4-1 通勤に便利である

② 就業時間が自分の希望に合っている

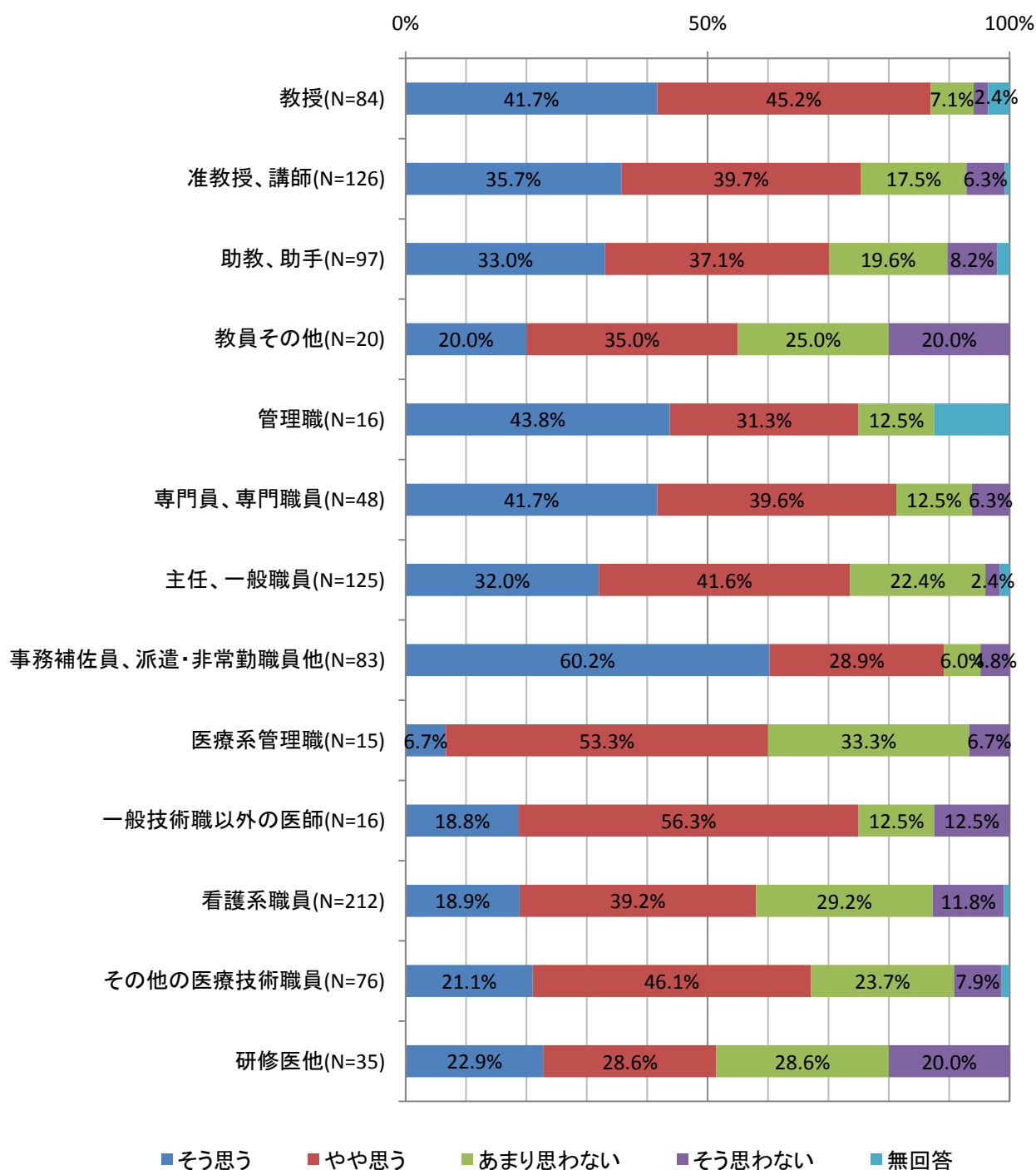


図 4-4-2 就業時間を自分で調整することができる

③ 女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けることができる

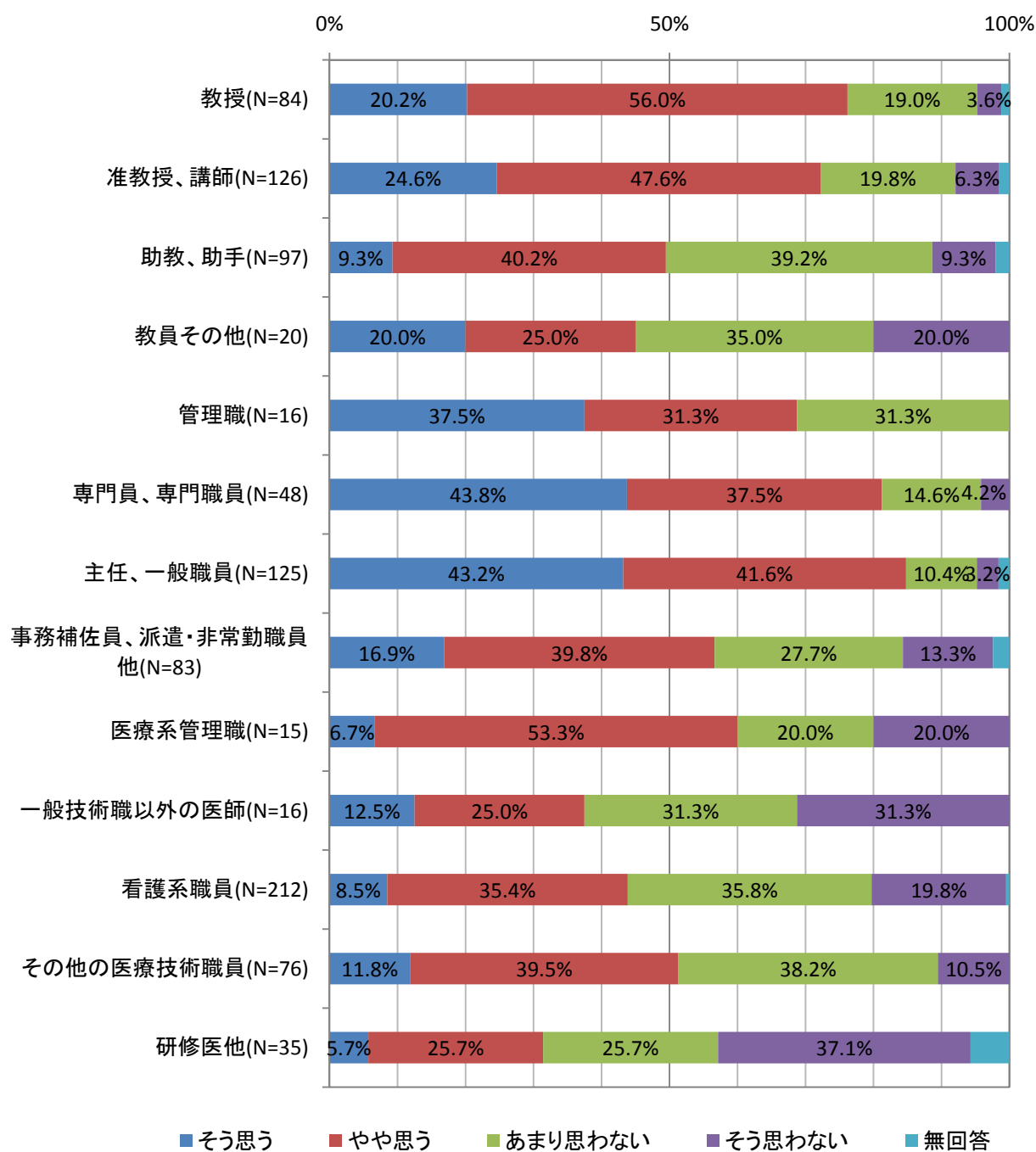


図 4-4-3 女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けることができる



④ 男女にかかわらず能力を発揮できる

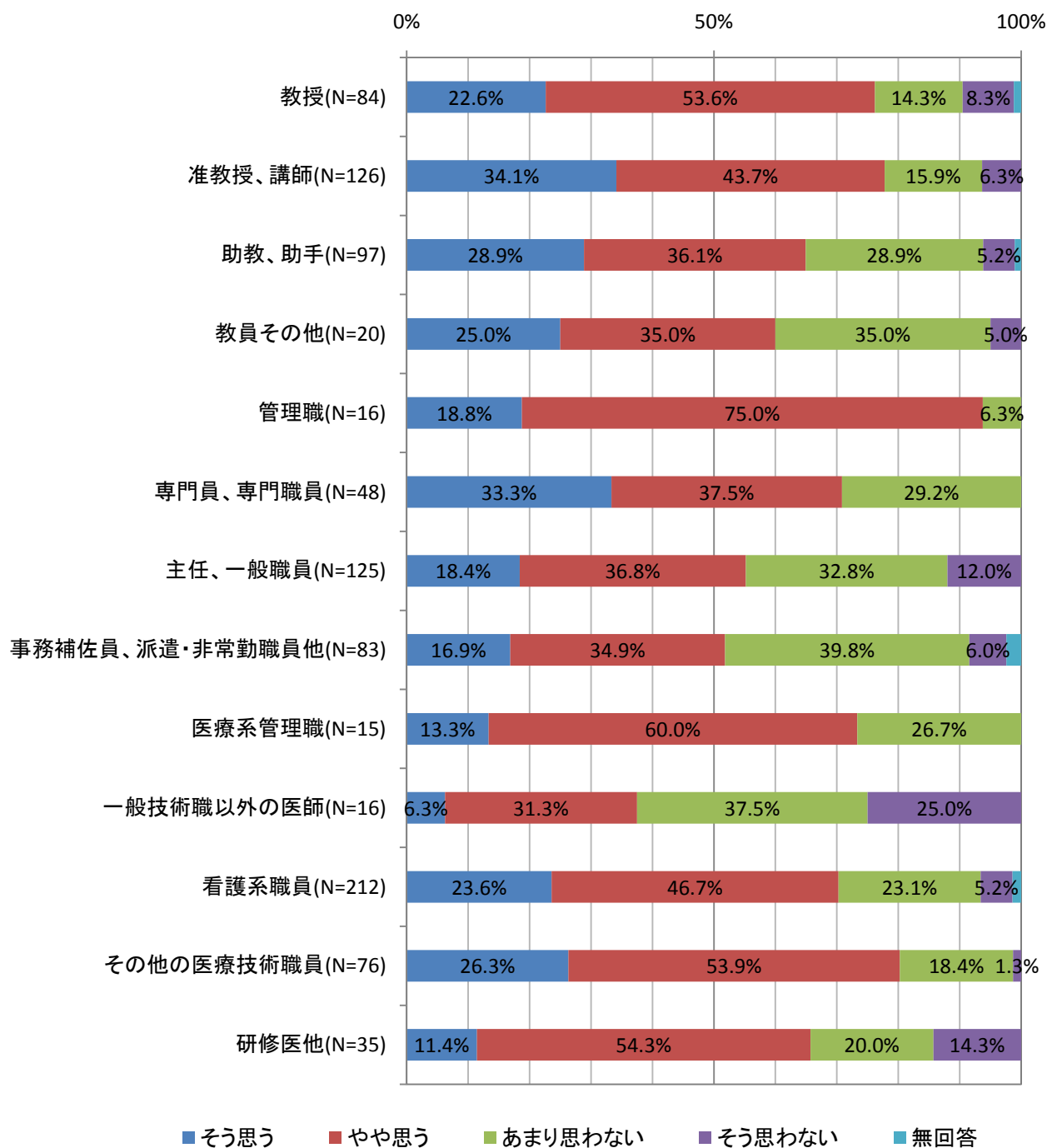


図 4-4-4 男女にかかわらず能力を発揮できる

⑤ 学内または職場内に、仕事や研究と家庭を両立している良きモデルがいる

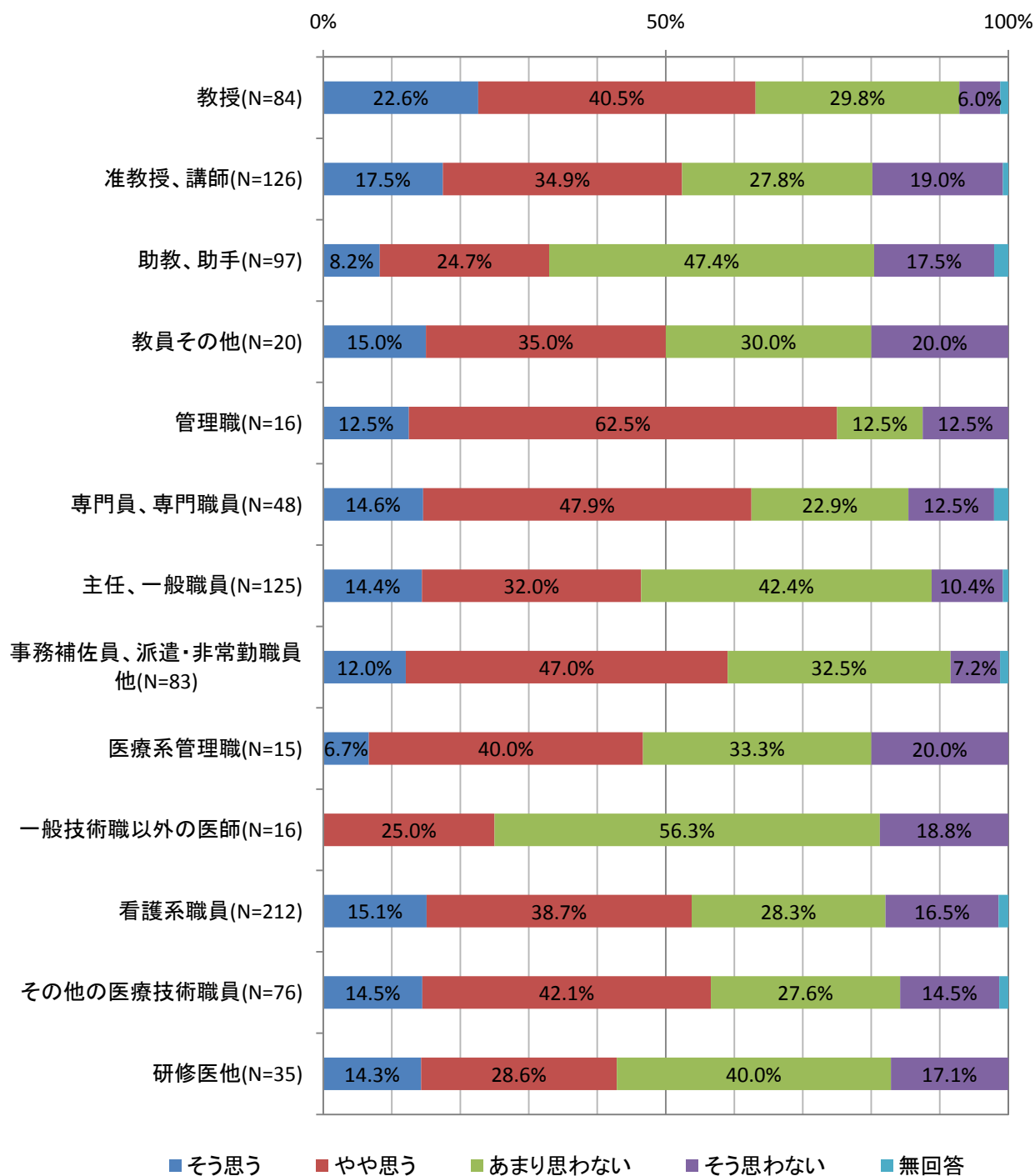


図 4-4-5 学内または職場内に、仕事や研究と家庭を両立している良きモデルがいる

⑥ 学内または職場内に、仕事や研究と家庭の両立について相談できる人がいる

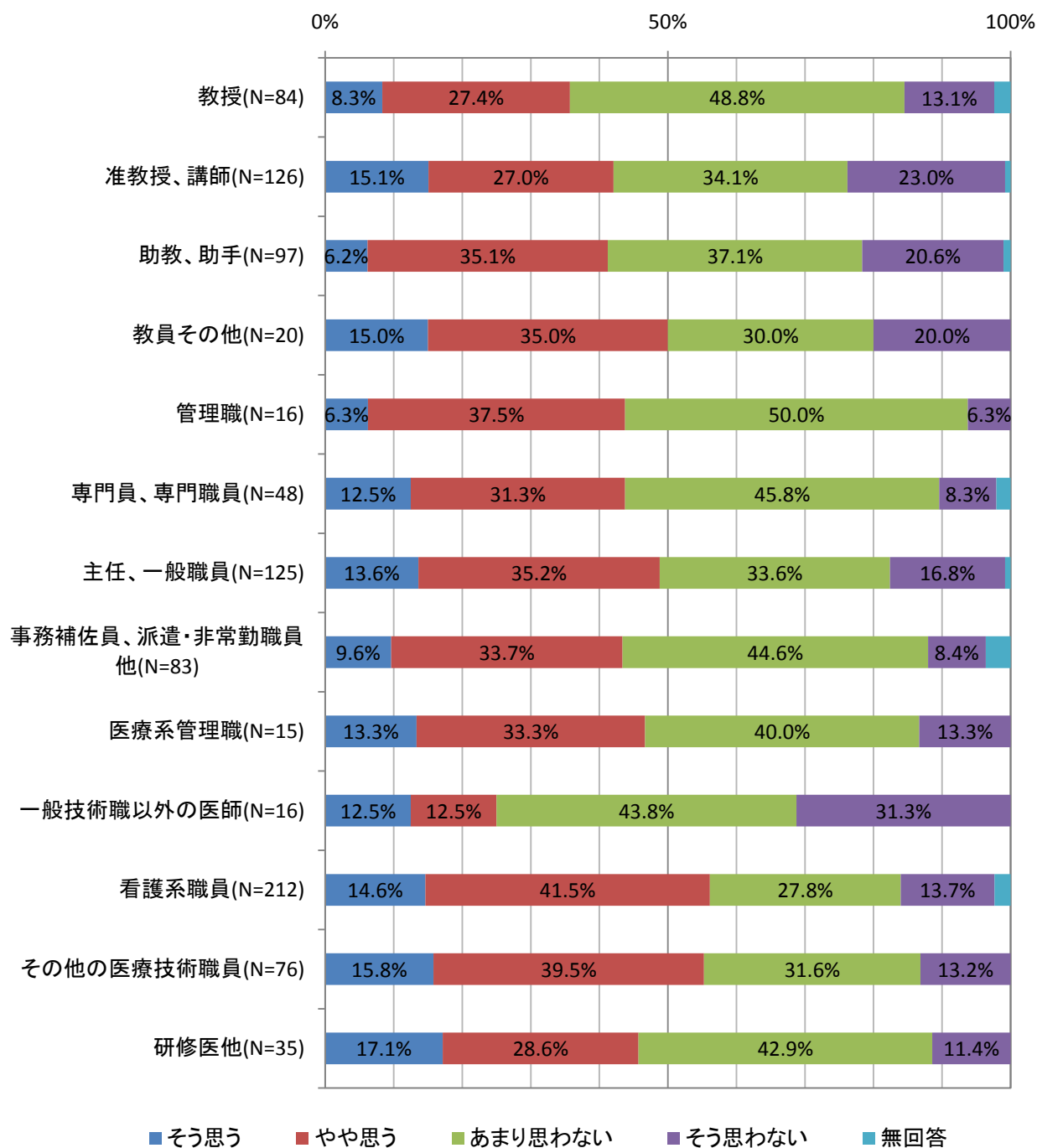


図 4-4-6 学内または職場内に、仕事や研究と家庭の両立について相談できる人がいる

⑦ 育児や介護に関する支援制度が充実している

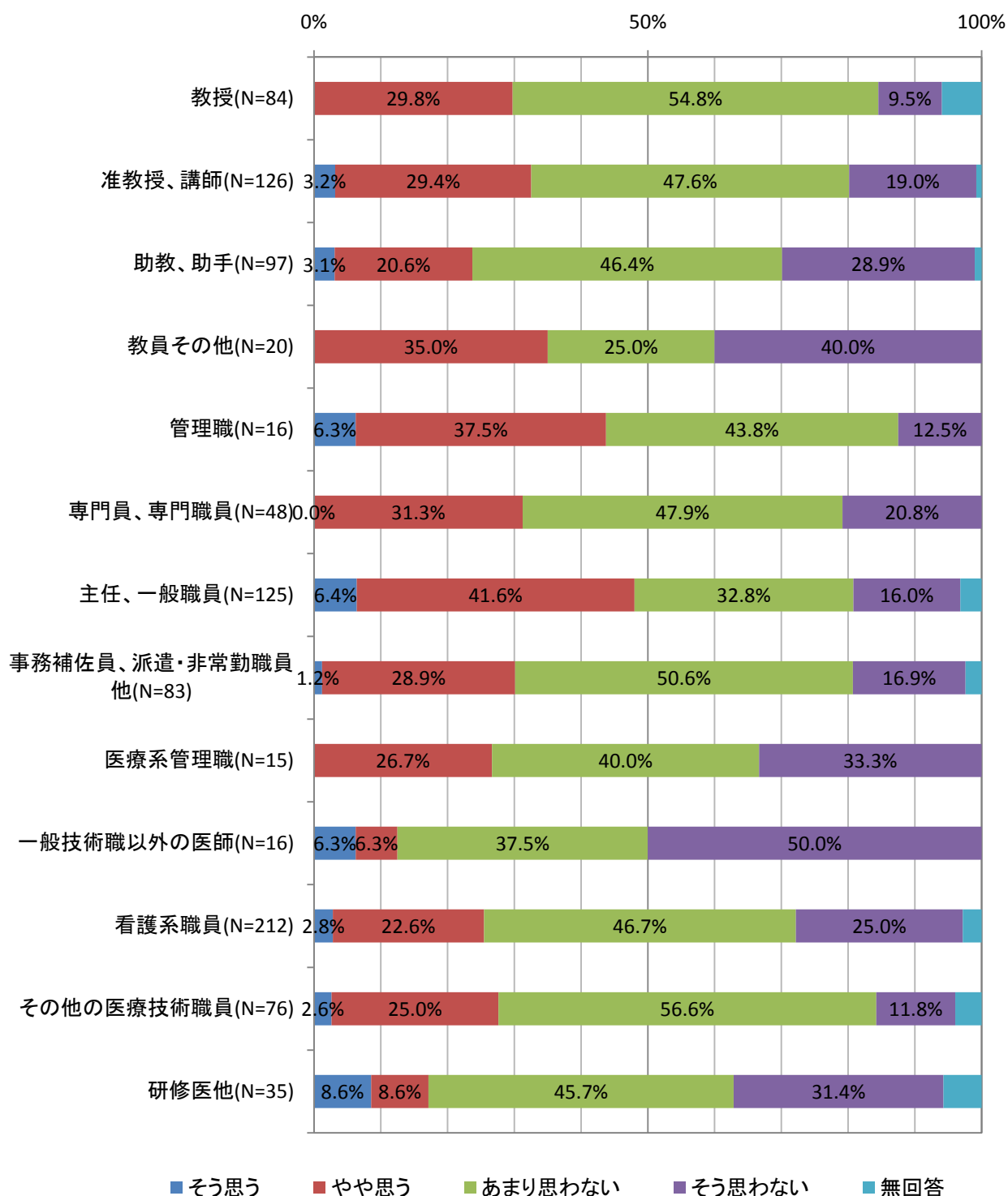


図 4-4-7 育児・介護に関する制度が充実している

⑧ 育児や介護のための短時間勤務体制がとりやすい

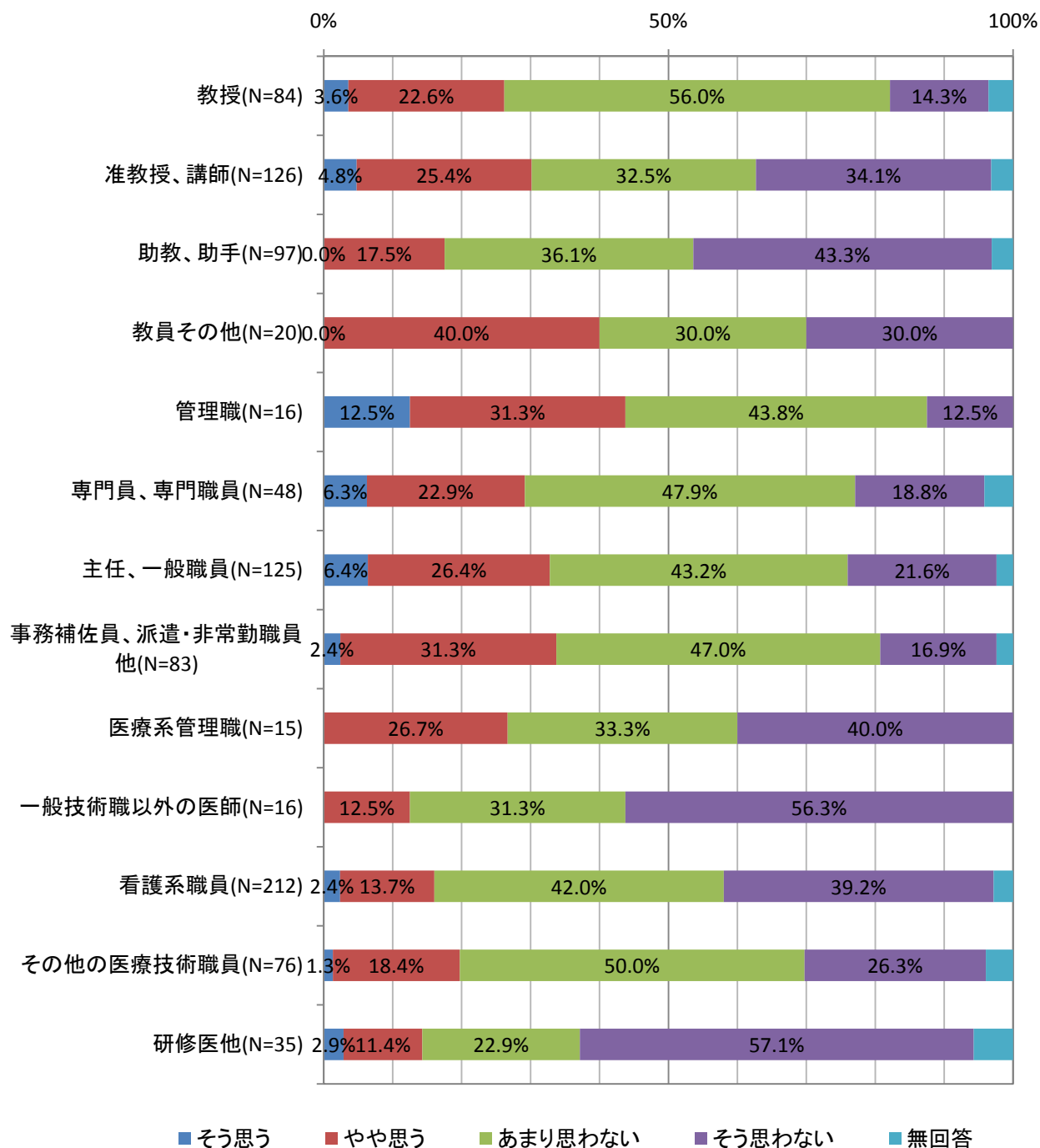


図 4-4-8 育児や介護のための短時間勤務体制が取りやすい

⑨ 育児や介護のために休業しても、人事評価で不利にならない

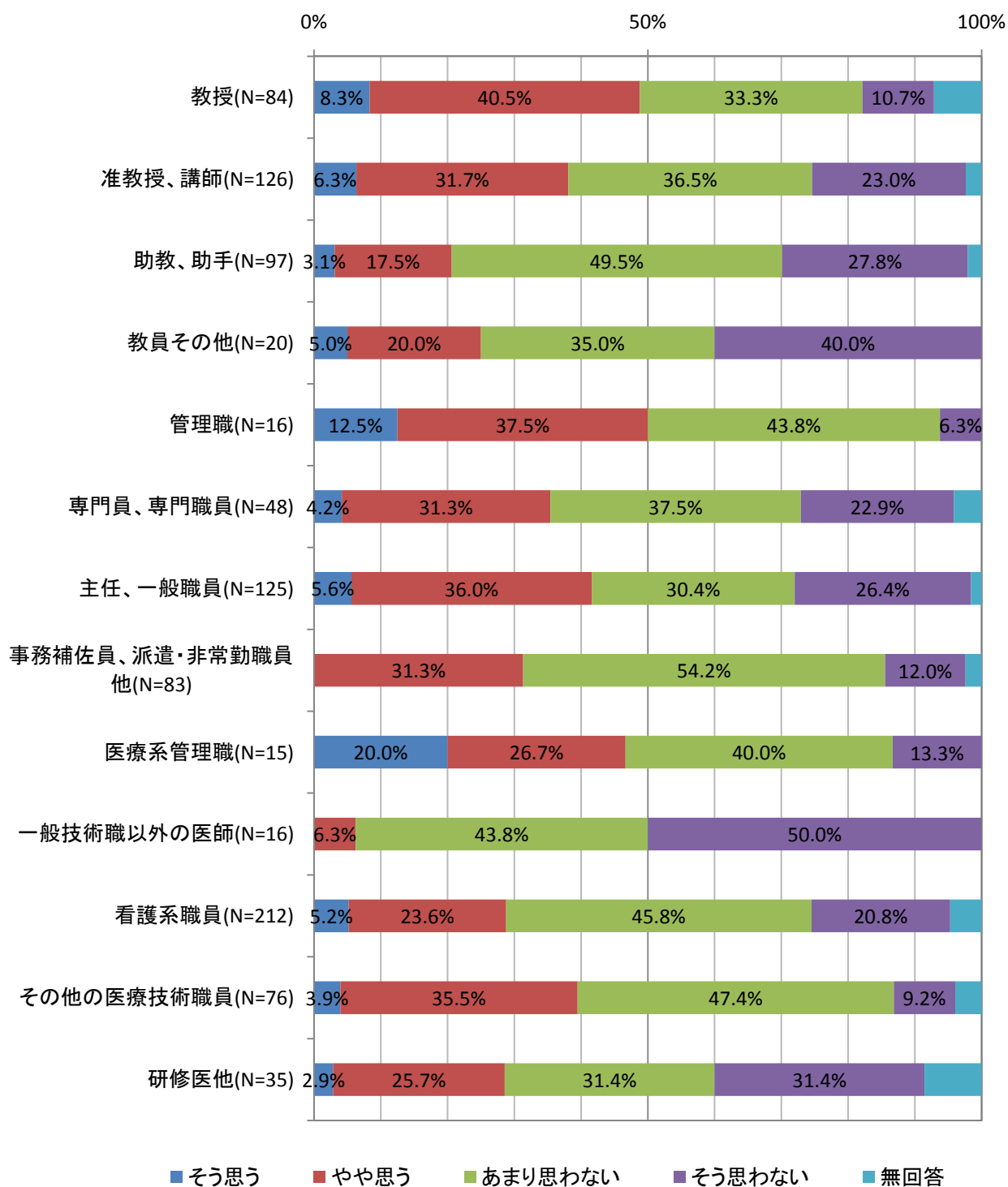


図 4-4-9 育児や介護のために休業しても、人事評価で不利にならない

⑩ 産休および育休中の代替要員体制が整っている

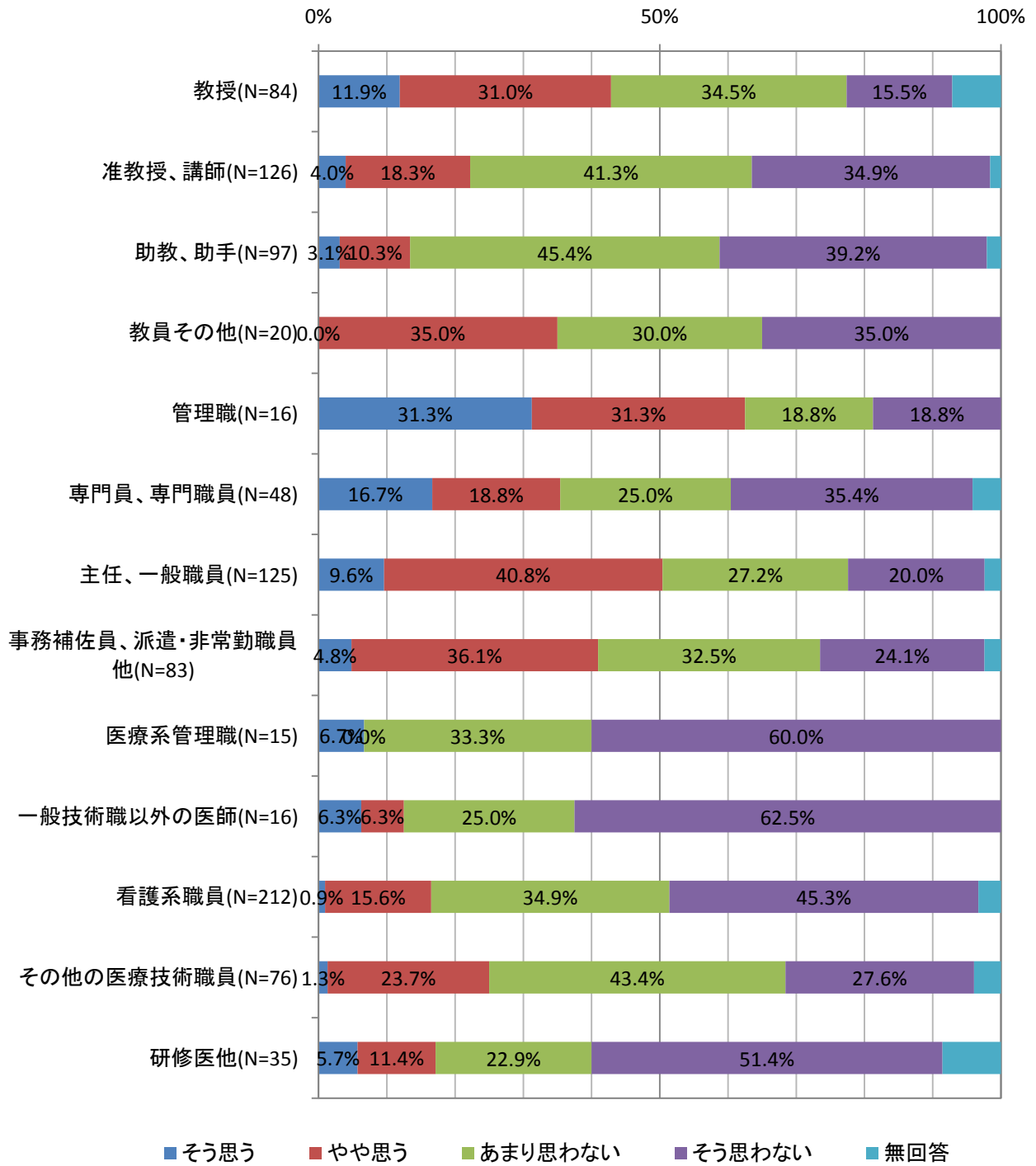


図 4-4-10 産休および育休中の代替要員体制が整っている

(5) 仕事や研究と家庭生活の両立に対する認識

本学の環境が仕事や研究と家庭生活を両立しやすい状況にあるかについては、「両立しやすい」、「どちらかといえば両立しやすい」という回答が全体の50.0%、「どちらかといえばしにくい」、「両立しにくい」という回答が48.6%であった。

職種別では、「教授」、「管理職」、「事務補佐員、派遣・非常勤職員」、「主任、一般職」で「両立しやすい（どちらかといえばしやすいを含む）」という回答が多かった。

問 1

c. 現在の大学環境は、仕事や研究と家庭生活を両立しやすい状況にありますか。

1. 両立しやすい
2. どちらかといえば両立しやすい
3. どちらかといえば両立しにくい
4. 両立しにくい

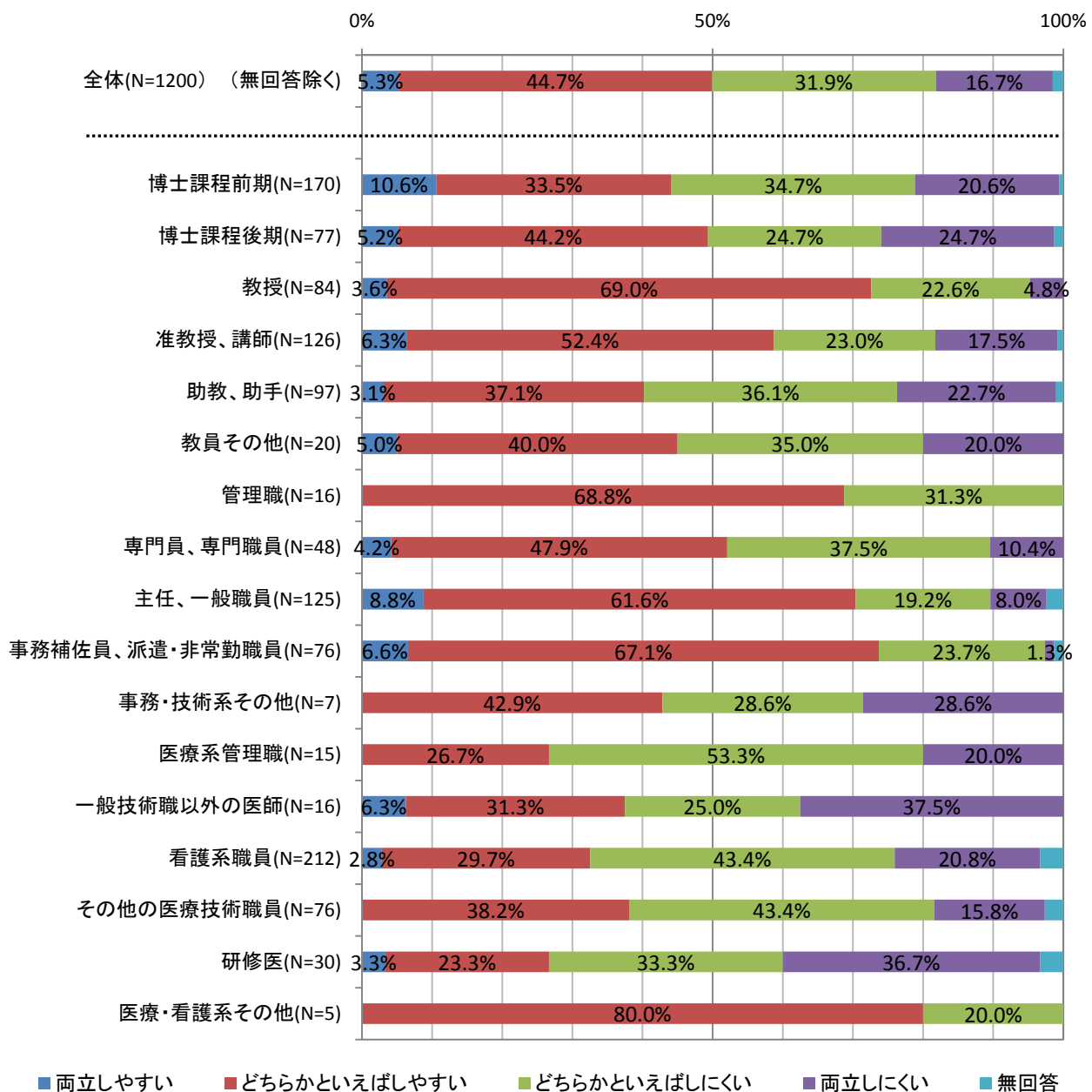


図 4-5 仕事や研究と家庭生活の両立度



## 5. 本学両立支援企画室について

### (1) 各種制度の認知度

本学の両立支援制度について、7項目すべてのサービス・制度で「知らない」という回答が多く、「資料ライブラリー」、「メンター制度」、「研究支援要員制度」、「女性専用休憩室」については、70%以上が「知らない」と回答した。

問2 本学の両立支援制度について伺います。

a. 本学両立支援企画室で実施している以下のサービス・制度を知っていますか。それぞれあてはまる番号を選んでください。

1. 利用あり（利用したことがある）
2. 利用なし（知っているが利用したことはない）
3. 知らない（知らないため利用したことがない）

<サービス・制度>

1. 両立支援企画室ホームページ、ニュースレター
2. 両立支援企画室主催セミナー、シンポジウムの参加
3. 総合相談窓口
4. 女性専用休憩室・マタニティコーナー（搾乳室）
5. 資料ライブラリー
6. メンター制度
7. 研究支援要員制度

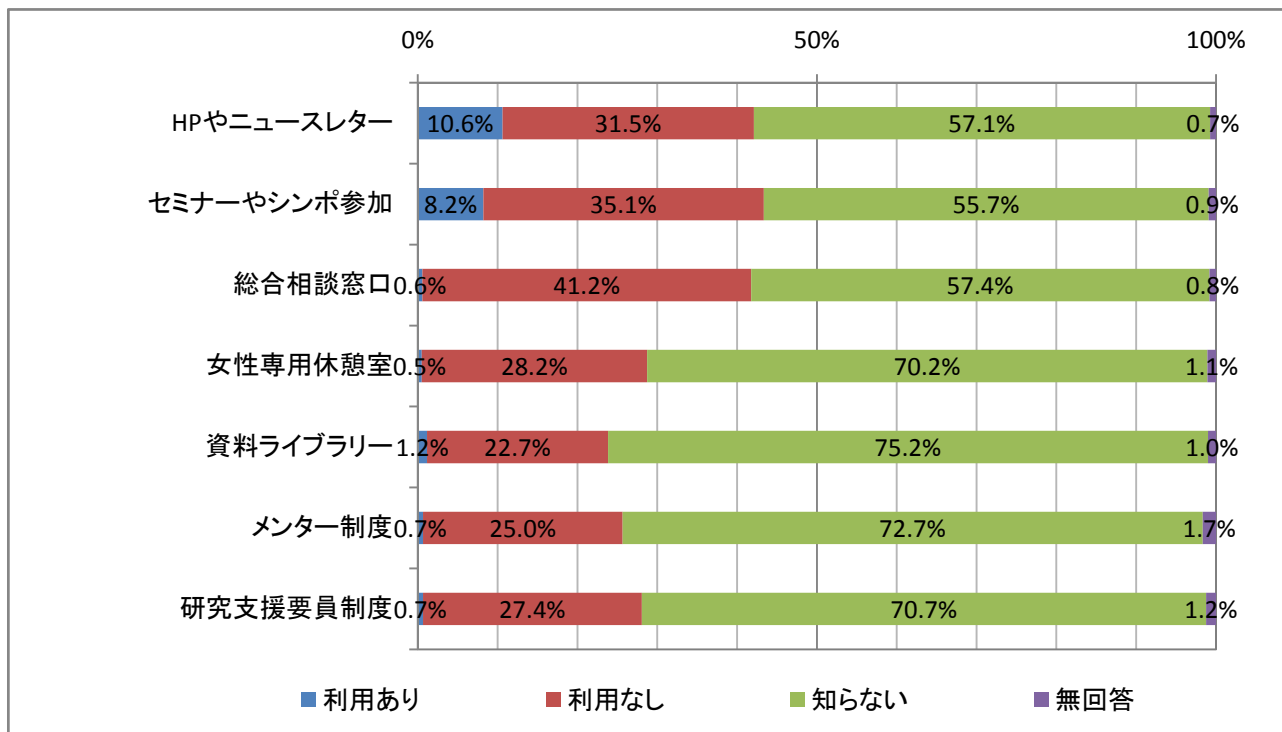


図 5 両立支援制度の利用と認知度(N=1204)

## (2) 本学の両立支援制度に関する意見・要望

自由回答に寄せられた意見・要望等は、基本的に原文を掲載した。ただし、個人が特定される可能性のある記述については、一部修正を加えた。また、明らかに誤記だと思われる記述は訂正し、句読点は「、」「。」に統一した。

さらに、個人が特定されないための配慮として、身分は「院生（博士前期課程・博士後期課程）」、「教員（教授・准教授、講師・助教、助手）」、「職員（管理職・専門員、専門職員・主任、一般職・事務補佐員、派遣・非常勤職員、事務・技術系その他）」、「医療・看護系職員（医療系管理職・一般技術職以外の医師・看護系職員・その他の医療技術職員）」、「その他医療職員・研修医（研修医・医療・看護系その他）」の5つに分類して示した。

| 両立支援に関する意見   | 身分 |
|--|----|
| 両立は大切なことだと思うのでぜひ実りあるものにしていただきたいです。   | 院生 |
| 今回のようなアンケートが本制度に反映され、改善されればと思います。  | 院生 |
| 今回のアンケートの案内でこういうセクションがあることを認識した。   | 院生 |
| 社会全体にコンプライアンスが求められている今日において女性問題といった問題に取り組むことは国立大学にとって必要不可欠なことであり、両立を支援することは非常に大事だと思います。  | 院生 |
| まだ私自身、配偶者・子供がいないので、家庭生活との両立については、イメージがわきにくいですが、子育て等大変なケースも多いと推測できるので、できるだけ両立がかなうようなサポート体制が整理されると、今後家庭を持つ上で助かります。研究者としての道も歩みやすくなります。                                | 院生 |
| 研究に携わって、本当に優秀な結果をだす為には『研究に全てを捧げる』くらいのスタンスでいなければできないのではないかと感じた。（向いていないと思った。）当然かもしれないですが、【仕事と家庭生活の両立】は研究室のリーダーの意向・考え方に左右されやすいと思いました。                                 | 院生 |
| 現在、看護学研究科に大学院生として在籍しているが、職域が講師以上の先生方は、他の看護系大学と比較してどちらかというと忙しい中でも家庭と研究とをうまく両立されている印象を受ける（比較的、ご結婚されている方の割合が多いので。）が、助教の方々は、研究活動に多大な時間と労力を要しており、実際の所、両立が難しいのではないかと感じる。 | 院生 |
| 大学において、研究と家庭での生活を両立させることは、現在の環境では、無理である。大学にいる時間が長く、拘束時間がとても長く感じ、自分で調整できない感が強い。よって、両立支援室の実際の活動は全く見えない状況であると感じる。   | 院生 |
| これからの活動に期待しています。   | 教員 |

|   |           |
|---|-----------|
| <p>家庭と仕事との両立は、今後の重要な課題であると考えますので、ご尽力に感謝するとともに、今後の発展を期待しています。</p>  | <p>教員</p> |
| <p>応援しています。意識改革推進して、進んで千葉大にしたいです。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>支援企画室の温かい雰囲気にはとても励まされますが、支援を受けることが特別扱いを要求していると受け取られる懸念が払拭できず、「支援は必要な気がするが、それを正当化する根拠に自信が持てない」状況にあります。また、応募者全員に支援ができない場合はある程度採択の基準（子どもの年齢、人数、保育園への入園状況など）を募集時に明示した方がよいように思いました。支援が必要ではあるけれど、より必要としている方がいるなら譲ってもよいという状況にある場合、応募した上でそういう意思を示すことができれば支援を必要とする人のコミュニティとして「支え合う」という雰囲気も醸成されるのではないのでしょうか。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>とてもよい活動だと思います。問題があるとすれば、経営層の方々が積極的かどうかだと思います。家庭の支援があつて初めて、いい研究と余裕のある教育ができると思います。家庭を犠牲にすると、長い目で見ると必ず悪影響がでるでしょう。これからも応援しています。</p>  | <p>教員</p> |
| <p>これまで利用が必要な状況になかったので、具体的にどういう取り組みをされているのか全く知識がないのですが、一般論としてはぜひ今後とも力を入れていただきたいと思います。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>いつも両立支援企画室の皆様にお世話になっています。相談できる場所があると思うだけでもかなり精神的に助かっています。個人の意見ではなかなか取り合ってもらえません。この企画室を通じて、教職員の希望が少しずつでも実現していくことを期待しております。大学教員の仕事と家庭生活の両立は、個人差があつて一律には扱いにくい問題だと思いますが、それぞれが希望する両立割合に近づけるように、勤務形態や支援制度の選択肢が配備、拡充されることを希望しております。個人的には大学の仕事が多すぎて、なかなか心に余裕をもてない生活ですが、もっと自分の家庭や子供の教育に時間を取れるような支援や制度がほしいと思います。大学生をみて初等教育の重要性を感じるものの、自分の子供には向き合えないのが実情です。両立は難しい問題ですが、どうしたら納得がいくバランスになるのか、自分の家庭で実験中です。</p> | <p>教員</p> |
| <p>両立支援室の活動を見ますと、育児をしている人のみに焦点が当たっているように思います。この種の事業の進め方として、育児や介護から切り込むのが手をつけやすく、成果も示しやすいのはわかりますが、あくまで全体のワークライフバランスの上に、育児や介護の時期のオプションが加わるというのが有効な方法なのではないのでしょうか。元々両立の風土が全くないところに、育児や介護の部分にだけいろいろ策定しても、活用されないと思います。</p>   | <p>教員</p> |

|   |                     |
|---|---------------------|
| <p>両立支援という言葉に、「女性のための」という枕詞が付かなくなることを願っております。真の両立支援とは、金銭や、女性の産後復帰を容易にすることだけではなく、というよりそれ以上に、配偶者が妊娠したという男性に対して、「出産前後1年くらい実質休み」という意識を上司、周囲、本人が持つようになることだと痛感しております。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>女性研究者支援をいくら推進しても、その配偶者の支援（夫の意識改革や、夫の職場環境・評価のされ方・協力体制・人事異動の方法、等を変える等）をも行わない限り、女性の両立支援は成り立たないと思います。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>研究費が無く、出張、書籍、PC、ソフトすべて自腹での生活で、家庭にも負担が多く、労働時間も長い為、家事も手伝えず、両立からはほど遠い環境と感じる。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>両立支援は必要な人にはありがたいに違いない。ただ、家庭を持つこと、子供を持つことにリスクがかかることはある程度覚悟したほうがよい。結局、部分休業分のフォローに回るのは自由な時間が作りやすい独身者が自分の時間を犠牲にしていることも忘れないでほしい。</p>  | <p>職員</p>           |
| <p>長期的な展望の見える支援がよいのではないか。子育て世代以外も教職員全体が仕事と家庭のバランスを意識するような取り組み、情報提供や啓発活動が必要ではないか。子育て世帯もそれ以外の世帯も同じような比率で仕事と家庭のバランスが取れば、子育てを意識（子育てで早く帰ること等）することもない。</p>  | <p>職員</p>           |
| <p>大学教員の場合、担当する学生の意識によって両立の実効性が大きく変わってくると思います。また、教員の両立を促進するには人的な研究支援制度を確立しないと、実施は困難ではないかと思います。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>非常勤で勤務していますが、両立支援の制度、相談窓口など利用できるのでしょうか？非常勤の待遇改善が家庭生活の両立に大きくかかわってくると思います。</p>   | <p>医療・看護系職員</p>     |
| <p>部署によって、また時期によって労働状況に大分差があるようですので、比較的両立しやすい部署とそうでない部署の差が大きいと思います。</p>   | <p>医療・看護系職員</p>     |
| <p>両立支援企画室の存在自体知りませんでした。「総合相談窓口」とは、どんな相談に乗ってくれるのでしょうか？こういった情報が全く共有されていない点がそもそも問題だと思います。特に、研修医や医師は 人事自体流動的なこともあり、こういった制度を活用しにくい立場におり、所属している医局自体に左右されることが多いです。私は 教授を始めとして上司の理解の下、小学生の子どもの学童保育の迎えに間に合う時間に帰宅をさせてもらっており、また当直も免除してもらっていますが、そういった点には 本学自体の特別な配慮は全く感じません。</p> | <p>その他医療系職員・研修医</p> |

| 両立支援に関する要望   | 身分        |
|--|-----------|
| <p>全体的に見て、千葉大学は良い環境を作っていると感じています。学生で幼い子供を持つ友人がいますが、きちんと両立できているように感じます。ただ、最終の授業があまり長引いてしまうと保育園の時間に間に合わないということがありました。難しいかもしれませんが、保育園の時間をもう少し長く取ってあげられたら、より良い環境となるのではないかと思います。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>両立支援に限りませんが、千葉大学には様々な支援制度が存在するのかもしれませんが、その存在自体を知りません。アピールが足りないのか、指導教員など制度を知っている可能性のある方々が何も言わないからなのか、原因は分かりませんが、いずれにしても、まず存在を認知される工夫をする必要があるように思いますが。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>両立支援企画室というものが存在することを初めて知りました。認知度を上げることが必要だと思います。仕事と家庭生活の両立は、研究をしているとかなり厳しいのではないのでしょうか。とくにパーマネントの職にない方や、大学院生は家庭生活を犠牲にしていると思います。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>学生に対し両立支援企画室等の存在をもっとアピールした方が良いと思います。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>興味があるが、あまり両立支援の制度について知らなかった。周知をもっと積極的にやって欲しいなと思った。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>研究をする上で、身体的なリスクに関することを相談できる部署が欲しいです。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>研究成果だけではなく、プライベートが充実している教員を啓蒙するような活動をお願いします。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>仕事と家庭と研究とをバランスよく続けていきたいので、夜間の授業をもっと増やしてほしいということ、成績表の受け取りや履修届（紙のほうの）提出、図書館における他館からの借用本・文献の受け取りなど、夜間にできるといいのですが。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>大学という環境は営利を求める民間企業とは違い、学生・教職員ともに両立しやすい環境にあると思います。これからは生き残りのために厳しい環境になっている大学も増加すると思いますが、今後も今の環境は保っていけるようにして欲しいです。</p>  | <p>院生</p> |
| <p>「仕事と家庭生活の両立」の要因は、育児や介護だけではないと思う。まずは「育児」からという取り組みはよいと思うが、そもそも子供をもてるようにするためには、全教職員のプライベートが充実されなければならないと思う。現状では多くの教員がその意志に反して仕事中心にならざるを得ない状況になっている。また、育児や介護に対する支援策がいろいろとなされているが、実際は育児や介護中の教員の業務を他の教員が負担しなければ業務は遂行できない状態になっており、周りの教員のワークライフバランスが崩れているということも、もっと考慮してほしい。</p> | <p>教員</p> |

|   |    |
|---|----|
| 『「両立」の問題は、女性の問題であって男性には関係ない』という誤った狭量な視点を変えることが最も重要であると感じます。そのための施策が少々足りないように思います。   | 教員 |
| 0歳児の子を持つ男性です。（第三者が見ても）非常に手がかかる子供のため、大学と家庭での仕事の両立が非常に難しく四苦八苦しております。貴支援企画室のサービス・制度はよいと思いますが、主に女性向けのもので、少々がっかりというのが本音です。研究支援要員制度などは、3歳児未満の子を持つ男性職員にも開放して欲しいです。   | 教員 |
| いくら良い制度ができて、研究室の教授の理解がえられなければ、なにも改善しない。相談すらできない。  | 教員 |
| シンポジウムはどういう方のために行うのでしょうか。事務の方から、女性という理由で、出席するように催促されましたが、両立支援が必要な人間がそのような会に出席する時間があるわけありません。支援が必要な人にメリットのある企画をしてほしいと思います。また、シンポジウムには両立支援を必要な人でなく、両立支援を理解すべき人が参加するようにしなければならないと思います。                       | 教員 |
| まだまだ、男性との意識のずれを感じます。男性の多い職場で、うまく、このような活動を浸透させるにはどうしたらいいのかと考えてしまいます。成果を急ぎ、一時的な活動になってしまわないよう、少しずつでも進歩・改善を目指して活動を継続してほしいと思います。また、一部の人たちだけの参加ではなく、なるべく多くの人たちが気軽に参加できるような催しがあると思います。                           | 教員 |
| 企画室のみを立ち上げて意味がないように思います。具体的に両立可能な提案を期待します。  | 教員 |
| 企画室を開設して、具体的にどう改善されたのかを明確にアピールしてほしい   | 教員 |
| 支援は現場の事務職の運用面での対応が重要になると思いますので、そちらの教育をしっかりとお願いしたいと思います。   | 教員 |
| 充実することを期待します。   | 教員 |
| 支援室があること、取り組みを行っていることは知っているが、実際の業務内容や業務量、それに伴う拘束時間を考慮すると現実的な取り組みではないように思う。両立支援のためには、まず大学職員の業務自体について見直しをしてほしい。未婚・既婚、子供の有無にかかわらず、教員が勤務時間外で教育活動、研究活動のために費やしている時間が多すぎるように思う。また、それが当たり前になっている現状をもっと考慮していただきたい。 | 教員 |

|  |                     |
|--|---------------------|
| <p>社会人院生、とくに一旦退職してアルバイトで勉学を支えている院生の場合、このアンケートには出てこないような悩みがたくさんあると思う。そういう「両立」の支援も考慮してほしいと思う。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>松戸地区は支援のための施設が少ないと思います。移転等の話もありますが、いずれにせよ数年先のことだと思います。これに対し両立は「今日」必要なことなので、移転問題とは切り分けて対応する必要があると思います。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>男性教職員が家庭生活の両立を図れる仕組みについても検討していただきたいです。定員削減、研究費削減や任期制導入がなされている中で、両立どころか、安心して働くこと自体が難しくなっていると感じます。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>男性の立場から、どのように配偶者をサポートできるかの視点についても、情報提供があるととても嬉しいです。また、「ワーク・アンド・ライフ」バランスに関して、配偶者両方のバランスと双方のQOLとQuality of Workのバランスを考察する必要があると思いますので、今後、「男性（女性も）のための乳幼児を持つ父親（母親も）育児セミナー」などの視点を取り入れ、夫婦で一緒に出席できる学内セミナーなどを開催していただけると幸いです。</p> | <p>教員</p>           |
| <p>男性側からの両立支援についてもっと積極的に立案し、メッセージを発信してほしい。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>両立支援であれば、女性が両立できるために、その配偶者の支援なども視野に入れるべきだと考えます。特別休暇の取り扱いについても、千葉県のレベルと差があると思えます。県の教職員との人事交流がある部局においては潜在的な不満があると思えます。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>両立支援というコンセプト自体に異論を唱える人も周囲にいるため、正直なところ両立なんてできるような状況ではありません。結局のところ家庭生活に時間を割くために、無理な生活を強いられる状況です。育児に参加したい（する必要がある）男性もいるという認識をもっと上級の管理職レベルの方々が認識できるようにしていただきたいと思えます。</p>  | <p>教員</p>           |
| <p>両立支援企画室および研究科両立支援室の活動は研究科内でも認識されていると思うが、育児あるいは介護が発生したときに具体的にどの様に利用すればよいのか知られていないことが多いと思う。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>仕事と家庭を両立するには残業が多すぎます。定時に帰れないので、そのあたりをどうにかしてほしいです。</p>   | <p>医療・看護系職員</p>     |
| <p>両立支援企画室の制度は全く知りませんでした。就職の際に提示、又、活動状況などの報告など、アピールして頂くと違うと思います。</p>   | <p>その他医療系職員・研修医</p> |

|  |                     |
|--|---------------------|
| <p>両立支援のニュースレター等、子供のいる職員に個別配布（希望者には）していただけるとありがたいです。未だに女性は、仕事をせず、家庭で子育てをするのがあたりまえという男性職員の方がいると思うので、その人達の意識改革が重要だと思います。→女性が休暇をとりやすい雰囲気、なかなかないというのが残念です。</p>   | <p>その他医療系職員・研修医</p> |
| <p><b>妊娠・育児・保育に関する意見</b></p>   | <p><b>身分</b></p>    |
| <p>教員を見ていると、学校にいる時間が大変長く、また業務も多く思います。現在育児中の方への配慮はあると思いますが、そのために、他の教員への負担が増えているように見えてしまいます。結果として、「妊娠したものの勝ち」に見えてしまいます。前の職場でも同様でしたので、いずれも同じなのかもしれませんが・・・ 印象です。</p>   | <p>院生</p>           |
| <p>私自身は在学中に妊娠の予定はありませんが、先生方を見ていると、本当にお忙しいなかで学生の教育やご自身の研究活動などをされているなあと思います。その中でも、細かな委員会活動のまとめや各方面への連絡時など、先生ご本人でなくとも可能な仕事については、専任の事務員さんが行えばいいと思います。そのことにより、家庭との両立もしやすくなると思いました。（学生の立場として、実際に事務員さんが来てくださってからは、小さなことで先生の手をわずらわせずに済むことが増えたと感じています）。教育・研究に専念できるような活動として事務の方々の配置を増やすのは有効だと思っています。</p> | <p>院生</p>           |
| <p>子供の保育園の送り迎えをしなくてはならないのに、車の学校内に駐車許可をもらえなかった。家から保育園まで歩くには遠すぎる距離なのに、子供を連れて電車乗ったり、長く歩いたりするのは無理があると思う。だからと言って、タクシーで毎日通学するのも経済的な無理がある。研究に追われて、また家事や、育児に追われて、1秒でも時間を無駄にしたくないのに、学生であって、また子供が歩けるからの理由で駐車許可が出ないのはあり得ないと思う。</p>  | <p>院生</p>           |
| <p>今後、結婚し出産を考えていくにあたり、子供を安心して預ける体制があると、仕事も続けやすいし、とてもありがたいと思います。病児保育の体制があると、本当に良いのではないかと思います。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>男性研究者への子育て支援があまりないように見える。</p>   | <p>教員</p>           |
| <p>教員で任期制が採用されているが、産休・育休などの制度と完全にミスマッチである。</p>   | <p>職員</p>           |
| <p>学内保育施設の設置、育児休業、介護休暇などの制度設計及び休暇を取得しやすい環境づくり、相談窓口の設置など整備されてきたと思う。事業所としての責務は果たしてきていると思うが、他人に（大学や両立支援企画室）に何かを求めるほどの切迫した状況の者はかなり少ないと思われる。何とか自分たちで解決していけているものと思う。</p>   | <p>職員</p>           |



|  |          |
|--|----------|
| 保育施設を「病後児保育」という極めてレギュラーケースのみに限るのであれば、要らない。病後児に限らない保育施設を設けるのなら、本学で職員等を採用決定するより全て民間委託にした方がコスト、質、その他全てに於いて効率良いのでは？（ハコモノ以外は）   | 職員       |
| 不妊治療休暇の運用については、匿名性を保護する必要もあり難しいと思いますが、実現に期待しています。  | 職員       |
| 仕事をやる人（自分の職場では30歳前後）に業務が集中する傾向にあり、結婚適齢期に結婚して子供が出来ても仕事で早く帰れないと、子育てを手伝う時間が取れないのではないかと心配になる。  | 職員       |
| 千葉大学は、育児のために休む制度は整っていると思う。ただ、休んだ後のフォローは極めて薄い。ただただ仕事がたまっていって、後で本人が辛い思いをする。もしくは周囲の誰かの負担を増やし、心苦しい思いをする。そのどちらかというのが現状だと思う。制度だけ整えても、そのフォローは本人任せ現場任せでは、問題は解決しない。これは育児に限らず、心身の健康に問題をもつ職員のフォローにもいえることだと思う。   | 職員       |
| 私の所属する部署では、小学生と中学生のお子さんをもつ方が、いつも12時間以上働かれています。上司はそれを知っていても・・・といった感じです。上司がその調子なので、誰に働きかければ良いのか考えてしまいます。私も年齢的に今後、結婚、出産、育児を考えると毎日21時まで仕事をして、上司から残業はつけない様に言われる。この仕事は、今の段階でも早々に辞めた方がいいだろうかとも思っています。       | 職員       |
| 子供が熱を出したりしたときに預かってくれるところがなく、いつも本当に困っている。   | 職員       |
| 子供が小さい人は、休みやすい職場に異動させて欲しい。仕事が出ないと思われている人達の係がうらやましく思う。  | 職員       |
| バリバリ仕事をしている女性研究者は未婚。子供がいて遅くまで仕事をする女性は親と同居で子供の世話をして貰っている。そうでない人は保育園に預けきっちり5時に帰る。子供か研究時間のどちらかが犠牲になっているのが現状。休業は利用しても表だって不利にならないのが民間企業と違い助かる。老親介護を経験した未婚女性は非常に大変であったと言っている。本人が病気にならないか心配な位。これが今後の課題であろう。 | 職員       |
| そういうものがあるということがあまり知られていない。少なくとも医師の間では。24時間保育がないと、今までのように仕事はできない。   | 医療・看護系職員 |
| 大学内に託児施設があるのが素晴らしいとおもいます。おかげで思い切って就職することが出来ました。  | 医療・看護系職員 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| <p>非常勤職員は契約期間が決まっており、残業等も比較的少ないことから、家庭との両立はしやすい環境ではあるが、出産・育児に関する休暇は無給となってしまうので、そのような面では働きにくい環境ではある。育児中の人やこれから産もうとする人には不便である。</p>   | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>非常勤の場合、出産などで産休を取っている期間も雇用期間がカウントされて雇用期間終了期日がやってきてしまったり、産休中も無給であったりなど両立できる体制には無いので結果的に妊娠したら退職せざるをえないと思います。仮に退職後に戻ってきたくともお給料に見合った低価格の保育園の設備等が学内に無いので復帰も難しいと思います。現在の保育園は女医さんや看護師さんなど高所得の病院関係者向けですし、学内には無いので大学の非常勤職員には利用しにくいと思います。</p>  | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>同じ職場に妊娠を理由に辞めさせられる方がいます。規定があっても實際上、運営上の理由があつてのことなのかもしれませんが、十分な説明もないままの解雇が許されるのなら、何のための規定なのかと思います。両立支援と言っていますが、表向きの活動なのではないかとも思っています。</p>  | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>職場内に乳児を育児しながら働いている先輩がいるが、決められた時間よりいつも1時間以上長く働いている。先輩達の話をおきいていると、育児をしながら入院棟で働くことは困難だと思う。また、育児をしながら働いても、入院棟では自分が納得できる仕事はできないと思う。</p>  | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>父親にも育児休暇取得させ、実際に収入も減らさなければ苦労はわからないでしょう。妻の出産後は短期間でも育児休暇を強制すべき。保育園の送迎を義務づける位でなければ、結局両立のために女子が帳尻を合わせるために奔走するだけ。せめて時短ぐらいは職場が認めなければ制度を整えても意味はない。</p>   | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>看護師として病棟勤務していますが、休日・夜間に保育してくれる所が少なく、24時間保育所にあずけると、夜勤1日で2万円ほどかかりました。院内の保育所には断られ、また、民間の保育所をかけもちであずけると、相当高い保育料になってしまいます。ですので、子供のいる看護師は、休日や夜間働けないことになり、外来や中診などごくかぎられた部所での勤務しかできないことになってしまいます！今は一時利用で預けていますが、あくまでも一時的であり、人数の制限もあり、さらに休日にもみとの指定で非常に困っています。来年度からもどうしたものかと思案しています。現在数か所かけもちで預け、子供にとってはかわいそうですが、転職は非常にむずかしく、外来へ行く気もありません。病棟の看護師として普通に働ける環境となつてほしいものです。</p> | <p>医療・看護系職員</p> |

|   |                     |
|---|---------------------|
| <p>以前、育児短縮期間のお知らせで『千葉大学案は、国の制度「子が小学校就学の始期に達するまで」に比べ、「子が小学校第3学年の終期を経過するまで」と期間を長くすることを考えております』との案を拝見し、実現したらとてもうれしいことだと思いました。保育所は親が迎えにくるまで預かってもらえますが、小学校にあがったら低学年の頃は学童に通わせるしかないので、小学校3年まで時短ができれば学童に通う時間を少しでも短くでき子供のためにもいいと思います。その時はぜひ活用させていただきたいと思っております。</p>  | <p>その他医療系職員・研修医</p> |
| <p><b>妊娠・育児・保育に関する要望</b></p>  | <p><b>身分</b></p>    |
| <p>キャンパスに保育施設があれば助かると思います。</p>  | <p>院生</p>           |
| <p>大学院生は、看護師と違って、病院への貢献度が少ない（見掛け上。週5-7日病院で働いていても、立場上はただ働き、もしくはよくて週3回非常勤扱い）という理由で、保育所の優先度が低い。大学院生、また、女医を優先する保育所を作ってほしい。</p>  | <p>院生</p>           |
| <p>院内のさつき保育園に子供を預けられると、両立しやすいと思うが、優先順位が医員優先ということで、どうしても大学院生の順序が下がってしまう。大学院生は、バイトなどをしないと経済的に生活が成り立たないが、子供を持てば、バイトも必然的に絞らざるを得ないし、病児保育をできる保育園は限られている。さつき保育園のcapacityをもっと上げてもらいたい。</p>  | <p>院生</p>           |
| <p>センター入試の際、夫も他大学の職員で、夫婦二人揃ってセンター入試の仕事があり、日曜日の子供を監督できるものがおらず、困った。家政婦さんは、週末は都合がつかず、結局、時給3000円のベビーシッターを利用した。朝6:30~夜20:30までを二人のベビーシッターに交代で頼んだ。食費と交通費二人分を含め、1日でおおよそ5万円の持ち出しとなった。日曜日は学童保育の営業がなく、あったとしても、月曜日から土曜日まで学童クラブで集団生活を夕方までしている子供たちにとって、日曜日は唯一自宅でマッタリ遊べる日であり、自宅で過ごさせてやりたい。日曜日の夫婦そろっての勤務は避けることができるよう、配慮してもらえないだろうか。また、センター試験の業務負担が大きいので、もう少し簡略化し、夫婦二人ともに従事しなくても運営できる入試にしてほしい。両立支援室からも、機会がある毎に訴えていただけると幸いです。</p> | <p>教員</p>           |
| <p>まだ知らないことも多いのですが、このアンケートに回答することで分かったこともありました。異動してきて、前職場より帰宅する時間が3時間は遅くなりました。そのため、家事のほうがかたくなってしまい、少し自己嫌悪に陥っていたところでした。今のような生活パターンだと、子供どころではなく、自分のことで精一杯なので不安です。育児休暇や、そのほかの権利など、どんなものがあり、どういう時に使えるのか知りたいです。少しは不安が解消すると思います。</p>  | <p>教員</p>           |

|  |    |
|--|----|
| 亥鼻地区の保育所を充実させてほしい。シッターを雇用する費用を補助してほしい。   | 教員 |
| 育児よりも、妊婦の状態で働いたり、産休を気持ちよくとることが難しいと思います。妊娠することによって職場への不利益をもたらすことは否めず、そのときの状況を想像すると新たに子供を生むことはとても困難に感じてしまいます。妊娠することにポジティブであり、妊婦に優しい環境を作っていただきたいと思います。  | 教員 |
| 育児中は短期就業がしやすい環境になると良いと思う。帰りづらいと思うので、上司や回りの方の声かけなどがあると気持ち的に有難いと思う。現在、夫の両親と同居しており、今はまだ元気だが、今後は介護が必要になった場合、一人の職場なので介護休暇や介護のための短縮就労ができるかと思うと代替の方を雇ってくれない限り、不可能に近く不安である。育児や介護休業や短縮労働の制度があっても忙しい職場ではなかなか気安くは取れないのが現状だと思われるので取りやすくなる環境づくりを大学側から積極的にアピールして行って欲しいと希望する。 | 教員 |
| 一番問題なのは育児。託児施設の拡充が重要。ゲストハウスと建物を共有しているような現在の状況ではまだ不十分だし、ゲストハウスのほうの拡充も必要である。   | 教員 |
| 研究・教育・診療の3つの duty をこなすのは、なかなか大変なことと思います。(子供がいてもいなくても)子供がいる人にだけ手厚いという状況では遠慮もあってサービスは利用しづらいと思います。全体の待遇改善が必要だと思います。   | 教員 |
| 研究室を運営している教員が育児休暇制度を利用する場合、特に特定の期間は誰が学生の指導をしてくれるのか。どのように制度化されているのでしょうか。  | 教員 |
| 現在両立にむけて目下がんばっている職員は、おそらく目いっぱい時間を使っているため、参加は難しいので、すぐに利用できる制度などがあるとありがたい。一番助かるのは、すぐに対応できる人手です。(子供の急病、子供の用事、急に仕事が優先しなければいけないときにちょっとした仕事の助っ人をしてくれる人・・・)。  | 教員 |
| 現段階では、圧倒的に女性教職員が職場環境的にも不利な状況(一般的なマイナリティーとしての不利)にあります。これは、社会的に見ても価値ある資源の損失・無駄です。お互いが甘えを排しながら、対等な関係を熟成させるためにも企画室の存在は重要です。男女が対等に家事・育児と勤務を分け合い、男女の違いを含む区別はお互い認めつつ育める家庭と職場の両立が本学の将来像だと確信します。勿論、独身でも、新しいパートナー形態でも、対等性は保持される事には意義ありません。                               | 教員 |
| 今の亥鼻地区の保育支援体制では不十分であると聞いています。さつき保育園はいつも定員を満たしている状況で、病後児保育も是非拡充し、病児保育も導入していただきたいと願います。  | 教員 |
| 妻が専業で育児に当たっているが、週に1回ほど親に頼っている。親の病気、第二子出産等、状況が変化するときの心配事は多い。自宅が遠いので施設利用は難しいが、両立支援について、様々な情報発信を定期的に行ない続けて欲しい。  | 教員 |

|   |           |
|---|-----------|
| <p>子どものいる亥鼻地区の大学院生が西千葉地区の保育施設を活用しています。亥鼻地区に教職員・大学院生が利用しやすい保育施設拡充が実現する支援につながるとよいと思います。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>子供が病気でも預けられる保育所の整備が急務と思います。また、介護・出産などで休職の必要が出た場合、非常勤講師を迅速に手当でできる体制が全くなっていないので、特に若手の女性教員には辛い環境と思います。なお、非常勤講師などの手当をする予算は、ただでさえ少ない研究費を削減して出すのではなく、学長裁量経費を削減して捻出すべきです。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>子供のぐあいが悪い時に面倒を見るというかあずかりするところがない。これを解決というかできたら少し困ることがなくなると思う</p>   | <p>教員</p> |
| <p>千葉大学は首都圏にあるので通勤圏が広い。両立支援のためのセミナー等は千葉近郊に住んでいて比較的時間の余裕がある人が利用できるものと感じる。遠くから通勤していると、分刻みで仕事をこなしており、セミナー開催等子連れでもOKとされていても2時間の距離を小さな子供を連れてくることは難しいし、参加する時間的余裕もない。保育園も結局千葉近郊に住んでいなければ千葉大内の保育園の利用は難しい。遠くから通う子育て中の教員が支援を受けられるようにしてほしい。例えば、信頼のおけるベビーシッターの派遣仲介とか、病児保育時にかかるお金の負担だとか。</p> | <p>教員</p> |
| <p>地道に女性医師・女性研究者の勤務環境を制度として整備して欲しい。何よりも、各地区の保育園の利用者の範囲の拡大が最重要課題です。(教職員のみならず、大学院生も利用出来るようにしたいものです)それとワークシェアリングがどの分野でどこまでの導入が可能かの検討です。</p>  | <p>教員</p> |
| <p>病後児保育について、病後児保育室(西千葉キャンパス、松戸キャンパスにはありません)の他、住居が千葉大から遠い場合は、病後児保育もしてくれるベビーシッターの利用料補助制度(東北大で実施)が役立つと考えられます。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>本人は両立しているつもりでもまわりにとっては両立しきれていないという場合があると思う。本人の問題ですが。大学の体制自体は両立できる環境だと思います。育児休暇・産後休暇のほか、時間短縮業務の場合にも残りの仕事を手伝ってくれるような人を雇いたい。研究室のお金を使うのではなく「大学の」お金で。</p>   | <p>教員</p> |
| <p>理科系、実験系の女性教員は、代わりを立てることのできない専門性の高い実験研究の継続が研究キャリアの上で最重要事項である。文科系や語学系と違い、代用教員や支援要員では当人のキャリア継続には全く役立たない。支援企画室は、本当の事実を認識して支援すべきです。解決策は、言い方は悪いですが、時間をお金で買うしかありません。つまりベビーシッターのフル雇用の金銭支援です。同じ資金を使うなら、こちらが効果的です。</p>   | <p>教員</p> |

|   |    |
|---|----|
| 同僚に恵まれ、両立できていますが、土、日や夜間に入試、授業、研究会などが入ってしまうことがあります。子どもが小学校を卒業するまでは、支援の対象として、学内保育所または学童保育で手当てをしていただけると助かります。  | 教員 |
| いずれ家庭を持った際には、利用してみたいと思っています。事務の職場しかわかりませんが、部署によっては、繁忙なあまり、仕事と家庭生活の両立は難しい環境にあると思います。適切な人事配置が行われることも大事であり、ぜひ職員の意見・要望等も組んで人事配置が行われることを望みます。  | 職員 |
| 育児部分休業の取得者が少ないと聞きました。とても助かる制度なので、もし知らない方がいらっしゃるならもっと宣伝し、取りづらいのであれば、職場の雰囲気が変わっていく必要があると思います。   | 職員 |
| 現在、子供が小学校に入るまでは何日間か具合が悪い場合の看護休暇がとれるが、少なくとも義務教育の間まで伸ばして頂けるとありがたい。休暇は、子供だけでなく自分自身の病気や家事や学校行事などで休まないといけない事がたくさんあるので、検討して欲しいです。   | 職員 |
| こどもが突然病気（風邪等）になった場合保育園へ預けられないので、一時的にあずけられる（予約なし）制度があれば助かります。（あるのでしょうか？）   | 職員 |
| 妻が働いていて父親が家庭フォローをする家庭もあり、その辺の認知度が職場内で不足しているように思う事が過去にあった。男性も育児参加している家庭も多くあると思うので、その辺も見ていただけたらと思います。   | 職員 |
| 産休や育児休業の代替補充に関して、制度整備がされていることは評価できるが、育児のための短時間勤務（部分休業）をする際、人的補填がされず、使用しづらい制度になっている。   | 職員 |
| 事務職員は、だいたい3年で異動が常となっています。現在私は妻と共働きで、妻の勤務地は県外で遠いため、今は子供2人の保育園への送迎は私が行っています。また今の勤務場所（キャンパス）だから、妻も通勤することが出来ています。しかし、私が異動で勤務場所が変更になると保育園への送迎が難しくなり、妻も仕事を辞めざるをえなくなる可能性があります。そういった事情があるので、あと5、6年は今の勤務場所で働けることを望んでいますが、先述の異動の慣例により、いつ他へ異動させられるかと正直恐れています。したがって、こういった事情がある場合には、異動について配慮してもらえるようになることを希望しています。 | 職員 |
| 時短勤務を申請しやすい雰囲気作りをお願いしたいと思います。育休・部分育休（時短）取得が評価に悪影響を及ぼさないと保障して欲しいと思います。   | 職員 |
| 出産などの情報が把握でき次第、その都度的確な情報をもらえると助かるのではないかと。   | 職員 |

|  |              |
|--|--------------|
| もう少し学内のやよい保育園との連携を強くして欲しい(備品や保育スペースの充実も含めて)。   | 職員           |
| 出産後、子供を安心してあずけられる環境と、急に休んでも仕事がまわっていく人員のゆとりがないと、良い人材が育たないと思います。そのためにご尽力をお願いいたします。   | 職員           |
| 育児時間(1時間早く帰れる)導入。保育所の24時間稼働、費用を安くする  | 医療・看護系職員     |
| 勤務時間を多少変更出来たり、保育園の料金や夜間の時間なども、もう少し延長できたらよいのではないのでしょうか。   | 医療・看護系職員     |
| 研究員重視ではなく、事務職員も援助して欲しい。また、育児中の人も嫌がらずに採用して欲しい。  | 医療・看護系職員     |
| 現時点での利用はありませんが、今までの経験から子供を出産・子育てでは苦勞致しました。研究されている先生方、女性に限らず両立支援室が今後利用しやすい事を願っております   | 医療・看護系職員     |
| 産休・育休は十分にとってもらいたいと思うが、その休み中の人員補充がされない為、休む側も休まれる側も辛い思いをする。短期間でも、臨時・派遣職員などで対応してほしい。  | 医療・看護系職員     |
| 子育てを経験していない管理者(教授・事務職・看護部長)が多い職場では、子育ての親の気持ちを理解するのは無理だと思います。その人たちが管理者である以上、難しいでしょう。そこを改善できるシステムを構築して下さい。   | 医療・看護系職員     |
| 非常勤職員にも産休があると長く仕事を続けられると思います。産休制度(非常勤)を作って欲しいです。   | その他医療系職員・研修医 |
| 本学(病院)非常勤の方は、産休をとれますか?優秀な非常勤の方が出産のため離職してしまうのが惜しいと感じます。是非、非常勤職員にも産休がとれるよう、お願いします!   | その他医療系職員・研修医 |
| <b>介護に関する要望</b>  | <b>身分</b>    |
| これまでも、産休・育休を取っている人はいなかったわけではなく、それを支えてきた人の中には高齢化しつつある単身者がいるはずで、今後、孤独死する可能性もある中年以上の単身者への援助についても、視野に入れて取りくんでほしいと思います。   | 教員           |
| 大学院生、千葉大学で学位を取得したポスドクの研究者、非常勤職員は、千葉大学だけの問題ではないが、ライフ・ワークバランスをとって生きることが極めてきびしい状況になっていると思われる。また、介護の問題は、誰にとっても必要になる可能性が高いが、経験者の話を聞く機会もほとんどなく、自分自身の問題としてきわめて関心が高い。子育て支援に偏らない取り組みを期待したい。 | 教員           |

|  |           |
|--|-----------|
| 介護休暇を取りやすくしてほしい。1日単位でとれる様に制度の改正がえられることを希望する。非常勤職員にも介護休暇を取れるようにしてほしい。   | 教員        |
| 高齢化により老親の介護をされる方も増えてまいりました。私自身はできる限り休暇取得で対応しましたが、妻は仕事を犠牲にせざるを得ませんでした。40代では責任も多少出てまいりますので、休暇取得も自由にはいきませんでした。毎日のお世話はともかくとして、通院介助程度でもよいのです、最低限できそうなことを半年単位で計画的に組み入れることができれば、介護に余裕が出てまいります。ご検討いただけると助かります。 | 職員        |
| 事務系は、浸透しているかもしれないが教官系には理解されていない。教授などが率先して介護休暇など実践することが最下層の見本となる。現在は、仕事のノルマが多すぎて有給休暇の消化もできない状況でしょう。   | 職員        |
| 介護の必要な親を抱える職員（非常勤職員）が多いにも関わらず、事務からの制度の説明等も全く無く、取り方も個々の家庭の事情によると思うので、それに即して取れるようにしてほしいです。例えば、月に一度（午前休暇など）など充実してほしいと思います。又、出来れば、一日単位でも取れると非常に良いと思います。  | 医療・看護系職員  |
| 子育てと仕事の両立も大切だが、介護と仕事の両立についても多く扱って欲しい。実践を伴った介護セミナーなど受けてみたい。   | 医療・看護系職員  |
| <b>その他の意見</b>  | <b>身分</b> |
| 「両立支援」というのが、「出産・育児」対象というイメージが強い。そちらも、もちろん、まだ十分とはいえない点があるだろうが、自分自身のみならず、周りの同僚たちのことを考えても、「介護」に関して、今後、いっそうの支援がなされるよう、強く望む。  | 教員        |
| 育児に関する支援を前面に押し出していますが、介護に関しては講演会があっただけで、ウェブサイトを見る限りどのようなサポートが受けられるか分かりませんでした。  | 教員        |
| 「仕事と家庭生活の両立」を支援するということに、女性にばかり目がいつているように思う。男性でも、子どもがいて、配偶者と死別・生別して苦勞している人はいると思うが、自分で努力しているように思える。  | 教員        |
| 女性で常勤で子育ては大変ですので、両立支援企画室には期待しております。男性の家事能力向上（料理、洗濯、掃除、子供の世話など）も、実は一番重要かつ欠けているのではないかと思います。  | 教員        |
| 制度が充実しても、それを使いにくい状況が続く限り、絵に描いた餅だと思います。特に理系分野では共同機器が充実すれば（維持も）、現場の教員の負担はずいぶん減るのではないのでしょうか。  | 教員        |



|  |          |
|--|----------|
| 「育児や介護のために休業しても、人事評価で不利にならない」で「そう思わない」と答えたのは、大学教員は業績（論文等）の絶対数で評価されることが多く、いかなる理由で休業したのであっても当該期間中の業績がゼロになることにはかわりがないためです。  | 教員       |
| 自分が結婚と出産を迎えたときに、きっとお世話になる制度なのではないかな、と思っています。そのためには、情報を予めいろいろ知っておくべきだとは思いますが、なかなか理解が難しいのが現状です。  | 教員       |
| 自分の経験を通して、教員の場合、個人の裁量が大きいので、頑張っている人は両立が大変ですし、そうではない人は両立しやすいと思います。私が育休を取ったときには前例がなかったので、色々大変でしたが、今は制度も充実してきて、うらやましいと思います。私を含めて、自分が育児と関わらなくなってしまうと、支援制度などに興味を持たなくなってしまうと思います。そして、困った事態に直面したときには情報がないということが起こりがちです。いざというときに支援制度がすぐ分かる体制があると本当にありがたいと思います。 | 教員       |
| 資金のサポートが切れた時に、どのような態勢を維持できるかが今後の大きな鍵だと思います。それにはやはり、上に立つ方の積極的な関心が不可欠でしょう。物心両面で、学長および理事がどのような姿勢を示されるかに大きく左右されるように思います。けれど、草の根運動のように、各学部あるいは企画室で維持できる活動はあるはず。それをネットワークのように広げていくことが大事かと考えます。   | 教員       |
| 女性がメインのイメージがあり、男性は利用しにくいのでは。   | 職員       |
| 実際育児休暇をとりましたが、残った職員に仕事のしわよせがいくので大変だと思います。急に子供が病気になったとき病院に連れて行くのに、当日、締め切りのものがあつたり、会議などがあると休みづらいです。  | 職員       |
| 活動内容の広報があまりされていないのでは？存在自体を知らない職員がいると思われる。HPも探しづらい場所だと思われる。   | 職員       |
| 学長を始め、千葉大学が両立支援に力を注いでいることは重々承知しておりますが、まだ一般的には教職員間での認知度はそれほど高くないように思います。より一層の活動を期待いたします。  | 職員       |
| 家庭生活を優先させると仕事で不利（給与がでない。昇給が遅れる）となり、本来育児や介護でお金が必要になるのに、休暇制度だけでは意味がない。   | 職員       |
| これからは女性も育児しながら社会に出る時代である。積極的に短時間勤務の常勤職員の雇用を行っていけば、医者・看護師とも充実するのではないか？  | 医療・看護系職員 |
| N s の駐車場から病院の保育部までかなり距離があり、通勤時間帯あぶないし、歩いて送りむかえするとかなり時間がかかるときのいたことがあります。保育部は利益を考えているため、年末年始など、夫がいないN s は子供を預けられないので仕事ができ  | 医療・看護系職員 |

|  |              |
|--|--------------|
| ない等、あるようです。  |              |
| 派遣職員の場合、家庭と仕事の両立について推進してくれていることを知らされなかったり、正規職員さんと同じように利用するのはためらわれたりします。どちらにしても、いまのような不景気のなかで、予定の契約期間まで雇用してもらえるのか不安があり、雇用期間の延長や、派遣から非常勤のような雇用形態に契約を更新してもらえるかなどのほうに関心があります。やはり安定して長く務められることが家庭生活や心の安定につながると思うので、派遣と言う形態は、なんとなく不安定な先の見えない不安があります。 | 医療・看護系職員     |
| 看護師専用駐車場はありますが、医師（特に女医）の駐車場は無く、更に看護師寮の建設により激減してます。非常に働き辛い。どうするつもりでしょうか。  | その他医療系職員・研修医 |
| 医者として要求される能力は男女差がないのに、明らかに家事など家庭のことをやるのは女性の負担が大きい。男性医師は配偶者に仕事をやめてもらう人が多い。女性医師はそんなことはまずない。頑張る女医が育たない。それならば医学部に女子を入学させるな。  | その他医療系職員・研修医 |
| まさかとは思いますが、所属部署の裁量によって融通が利くところと、そうでないところがあるとしたら、皆が納得（フレックス出勤を認めなかったりみたいな）できるように改善すべきだと思います。パートの方でも院内保育所が利用できるのは、誠に宜しいことと存じます。  | その他医療系職員・研修医 |
| <b>その他の要望</b>  | <b>身分</b>    |
| 大学病院の仕事状況を改善する必要があると思います。  | 院生           |
| 日本人の博士課程の学生がなかなか授業料全額免除にならない。よって学生とアルバイトと家庭の三面両立が課せられている。外国人ドクターに全額免除を出すよりも日本人ドクター（課程博士）がアルバイトしなくても研究に専念できる環境を作って欲しい。  | 院生           |
| ヒエラルキーとセクショナリズムが存在している中、実態を見出すことは非常に難しいと思います。絵に描いた餅にならないことを切に願います。様々な職場を経験していますが、ここほど両立している人が悩み、生き生きとしていないところは初めてです。今後の活動に期待しております。  | 院生           |
| さらなる充実が望まれる。   | 教員           |
| やはり松戸キャンパスは西千葉キャンパスに比べ、支援の度合いが小さいことは遠隔地であるがゆえに仕方のないことかもしれないが、できるだけ多くの情報の提供と体制の充実をお願いしたい。   | 教員           |
| 総合的に見て、女性の教員数を増やすことがまず初めだと思う。  | 教員           |
| ワークシェアリングなどとりいれて特に女性医師や看護師の確保に努めてほしい。  | 教員           |

|   |          |
|---|----------|
| 研究支援などの新しい制度を作ることも大切だとは思いますが、学内の制度を利用しやすくしていくことに重点を置いていただければいいな、と思っています。(非常勤講師の利用しやすさ、復職後すぐの学内委員などの職務の軽減など)   | 教員       |
| 日直代休をせめて1年間プールできるようにして下さい。その月だけでは使用不能、泣き寝入りです。ある意味労働搾取ですよ。  | 教員       |
| 柏の葉にいるためか、断片的にしか情報が届いていない。皆に周知できるように情報をうまく発信してほしい。ワーク・ライフ・バランスの問題は人それぞれ異なっており、それぞれの実情に合わせた対応が必要とされ、大変だとは思いますが、頑張ってください。   | 教員       |
| 病院内でセミナーなどしてほしい   | 教員       |
| 問題を起こした学生の指導等に関連して、勤務時間外の呼び出しや、個人としての身元引受等、仕事を家庭に持ち込まなくてはならない状況があるのは、おかしいと思います。そのようなことは、学内に専門の組織(会社では法務課等に当たる部署)が対応すべきではないでしょうか。最悪、そのような事態が生じたときに時間外手当は支給すべきではないでしょうか。                            | 教員       |
| どんどん活動をして、働く女性に優しい大学にして欲しいです。   | 職員       |
| 短時間勤務の制度がもっと広まってほしいと思います。   | 職員       |
| 男女にかかわらず、能力のある人が思う存分力を発揮できる環境の向上を望みます。  | 職員       |
| 是非フレックスを取り入れて欲しいと思います。勤務帯の後半から仕事が増えるので時間外まで仕事が増えています。勤務時間を適宜調整したくお願いいたします。  | 医療・看護系職員 |
| 他の施設でも導入されているような、就学前の子供を持つ人への短縮勤務等の制度を早急に導入してほしい。また、上記の支援制度は全く知らなかったのもっとアピールしてほしい。  | 医療・看護系職員 |
| 定期的に資料等を配布していただくと、これからの参考になります。出産・子育てだけでなく、結婚などについて利用できるものなど、あれば知りたいです。(休暇など)移動についてや、経験者の意見が知りたい。   | 医療・看護系職員 |
| 本学は、民間と比較すれば恵まれているとは思いますが、不十分な所も見受けられる。産休代替要員の補充など、当事者以外の職場環境にも配慮をお願いしたい。   | 医療・看護系職員 |
| 民間企業に比べると、かなり支援的には欠けている。特にベビーシッターの割引に関しては、ベビーシッターが必要な時はほとんどが急に必要になるので、事前に手続をしてでは利用できない。保育施設に関しても、かなり意見がない。学内にあるというだけで、他にプラス面はない。職員に対しても、育児との両立について理解していない方が多く、大学として職員の育児に対する認識をもっと現代的に変化させるべき(古い) | 医療・看護系職員 |

|  |              |
|--|--------------|
| 両立支援も大事だが、非常勤職員の期間雇用について考えて頂きたい。(辞めたくなくても3年で辞めなければならないとか)  | 医療・看護系職員     |
| 良い活動をされているのですが、あまり認識されていないように思われます。どのようにしたら、教職員・学生の意識や関心が高められるか、難しいですね。  | 医療・看護系職員     |
| 相談したいことは山ほどあるのですが、どこに行けばいいかわからず、仕事をぬける時間ありません。   | その他医療系職員・研修医 |
| <b>その他さまざまな意見</b>  | <b>身分</b>    |
| 研究自体に対して大学の体制が非常に非協力的であると感じている。授業の日程や、機器の管理などで研究に支障が出ることが多い。   | 院生           |
| 教員の評価が、常に向上を求められる研究活動、質の維持が求められる教育活動、不定期にこうした意見聴取や報告・企画立案に対して、求められている以上、それに応えるためには、業務以外を犠牲にせざるを得ない。  | 教員           |
| このまま運営費交付金が削減されていくと、それを人件費の削減だけで対応するのは不合理となってくるだろう。ある段階では、個々人の給与を下げても人を減らさない、いわゆるワークシェアリングを考えなければならなくなるのではないかと、思う。   | 教員           |
| アンケートの形式に問題があると思います。男性でも妊娠の項目のいずれかにマークしないと次のページに進めず、戸惑いました。催促のメールが届いたのですが、「回答率が研究科の予算配分に影響する」とありました。一種の脅しのようにも思えます。各種調査が突然かけられることの多い、昨今、誰もがすぐには回答できないのはやむをえないことと思います。また、部局によっては両立支援に関する独自の調査も行われており、混乱している人も多いと思います。 | 教員           |
| 仕事上の人間関係でストレスをかなり感じるが、相談できる所なく、その気持ちを家庭に持ち帰ってしまうことがあり、悩む。  | 医療・看護系職員     |
| もう少し周知に対する努力をするとよい   | 院生           |
| もう少し、このような支援があるということを職員に浸透させてほしい。このアンケートを見て初めて知ったサービスばかりである。   | 院生           |
| 周囲に家庭を持つ学生が少ないので、あまり必要性を感じず、企画室の存在を知りませんでした。   | 院生           |
| 経済的に苦しいので、家庭を持つことは困難な状況です。   | 院生           |
| 亥鼻では、WLBはきれいごとです。改善される見込みはありません。「企画室」の存在すら見えません。もうやめたいです。  | 院生           |
| 子供がいないこと、千葉大にきて1年しか経っていないことから、回答を選びにくく感じました。   | 教員           |
| まだまだ認知度が低いと思うので、積極的にアピールしていけるといいと思います。   | 院生           |

|   |                  |
|---|------------------|
| 両立うんぬん以前に、仕事量が多すぎる。負荷の偏りが大きい。                 | 教員               |
| 知らないのでなんとも言えません。                              | 院生               |
| 全く知らなかったので、もう少し大々的に情報を公表して欲しい。                | 院生               |
| 存在を知らない                                       | 院生               |
| まったく知りませんでした。                                 | 院生               |
| 認知度が低いのではないのでしょうか                             | 院生               |
| まだ認知度が低い                                      | 院生               |
| もっと宣伝すべきと思います。                                | 教員               |
| もっと周知をいただきたい。                                 | 教員               |
| あまりよく存じ上げておりません。                              | 教員               |
| 知らない  | 教員               |
| そういった制度があることを全く知りませんでした。もっと周知して欲しいと思います。      | 職員               |
| そのようなサービス・制度についての情報がほとんど伝わってこない。もっと情報を伝えてほしい。 | 医療・看護系<br>職員     |
| そういうものがあることを、入職の時に教えて下さい。                     | 医療・看護系<br>職員     |
| 活動をよく知りません。                                   | 医療・看護系<br>職員     |
| もしもほとんどの人が知らない企画室であれば知らないんでないでしょうか？           | その他医療系<br>職員・研修医 |
| 公報活動が不足しているかもしれません。                           | その他医療系<br>職員・研修医 |

## 6. 小学校就学前のお子様を持つ方 現在の保育・育児状況

### (1) 平日の保育方法について

小学校就学前のお子様を持つ方の平日の保育方法では、「認可保育園」の利用が51.8%と最も多く、次いで「配偶者」25.1%、「学内保育園」15.1%が多かった。

学内保育園以外を利用している方が学内保育園を利用していない理由では、「自宅から遠い」が40.8%と最も多く、次いで「料金が高い」26.6%、「保育内容や環境が心配」20.7%であった。

#### 問 3a

a. 大学（職場、研究室、病院）に来ている平日昼間の育児方法について、あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 学内保育園（やよい保育園、さつき保育園）を利用している
2. 認可保育園・保育所を利用している
3. 認可外保育園・保育所を利用している
4. 配偶者が育児をしている
5. 親族（父母など）が育児をしている
6. その他

#### a.で2.3.を選んだ方

b. 学内保育を利用していない理由について、あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 自宅から遠い
2. 料金が高い
3. 認可保育でない
4. 保育内容や環境が心配
5. 入園条件が合わない
6. その他

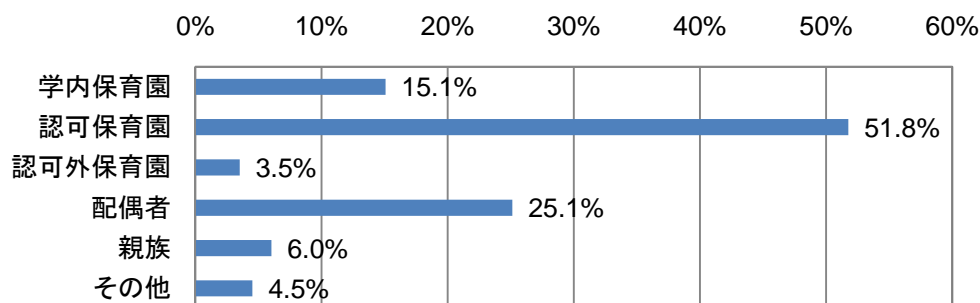


図 6-1-1 平日の育児方法 (N=199)

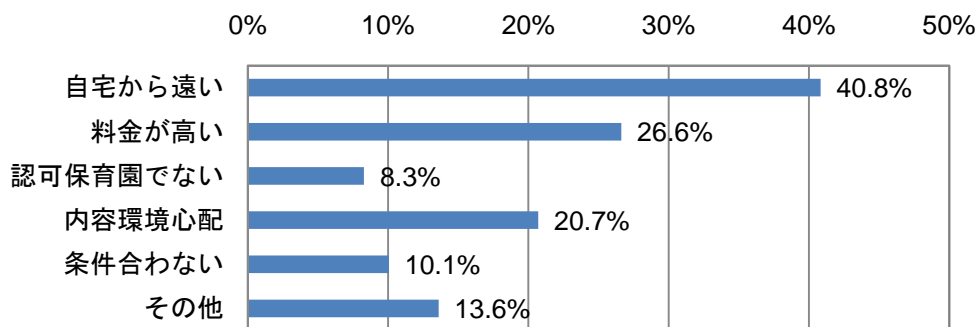


図 6-1-2 学内保育を利用しない理由 (N=169)



## 7. 現在妊娠中の方 今後の育児方法の予定

現在妊娠中の方の学内保育園の利用希望については、「希望する」が30.8%、「希望しない」が26.9%であった。

学内保育園の利用を希望しない理由では、「自宅から遠い」が38.5%最も多かった。

問 3b お子様の育児方法・学内の保育施設の利用予定について伺います。

a. 今後、学内保育園の利用を希望しますか。

1. はい            2. いいえ            3. 未定

a.で2.を選んだ方

b. 学内保育園利用を希望しない理由について、あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 自宅から遠い            2. 料金が低い            3. 認可保育でない  
4. 保育内容や環境が心配    5. 入園条件が合わない    6. その他

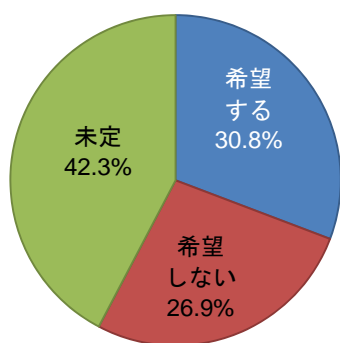


図 7-1 学内保育の利用希望 (N=26)

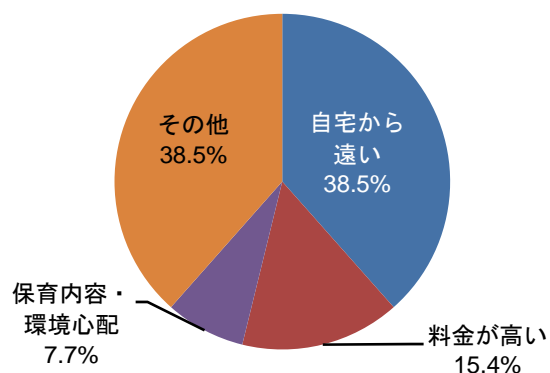


図 7-2 学内保育園利用を希望しない理由 (N=7)



## 8. 病後児保育<sup>2</sup>・病児病気保育<sup>3</sup>の利用 ～小学校就学前のお子様をお持ちの方～

### (1) 現在の病後児保育・病児病気保育の利用状況

小学校就学前のお子様を持つ方の病後児保育・病児病気保育の利用状況では、「両方あり」が9.1%、「病後児保育のみあり」が7.6%、「病児病気保育のみあり」が5.6%であった。

利用した施設では、「自宅近くの施設」が65.9%、次いで「さつき保育園」43.2%が多く、年間の平均利用回数は1回が35.6%と最も多かった。

一方、病後児保育・病児病気保育を利用したことがない理由では「自分または家族が世話をした」55.6%、「利用する機会がなかった」43.1%という回答が多かった。

問4 病後児保育・病児病気保育の利用状況について伺います。

a. 病後児保育・病児病気保育を利用したことがありますか。あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 両方あり
2. 病後児保育のみあり
3. 病児病気保育のみあり
4. 利用したことがない

a.で1～3.を選んだ方

b1. どの施設を利用しましたか。あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 自宅近くの施設
2. 大学（職場）近くの施設
3. さつき保育園内の病後児保育
4. その他

b2. 2008年1～12月の間に何回くらい利用しましたか。

\_\_\_\_\_ 回/年

a.で4.を選んだ方

b3. 利用したことがない理由について、あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 利用する機会がなかった
2. 利用できる適当な施設がなかった
3. 自分または家族が世話をした
4. 病気中の子どもを預けるのが不安だった
5. 料金が高かった
6. その他

<sup>2</sup> 病後児保育：病気の回復期のみ子どもを対象とした保育施設

<sup>3</sup> 病児病気保育：病気の急性期や感染症疾患の子どもを対象に小児科医が常駐（診察可能）した保育施設

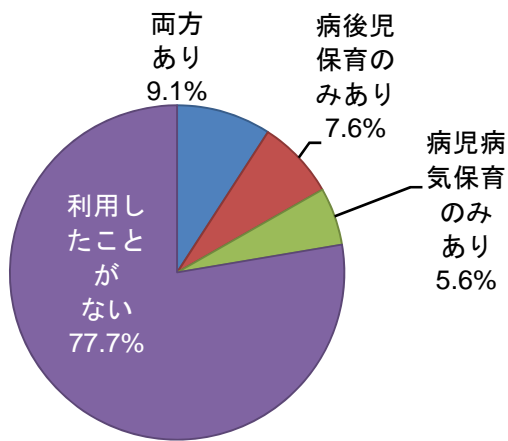


図 8-1-1 病後児・病児病気保育の利用経験 (N=199)

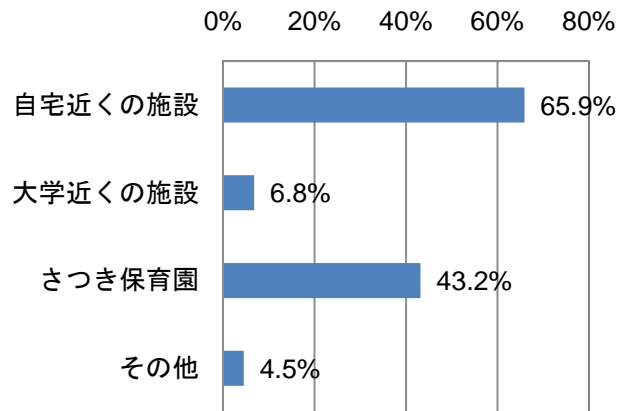


図 8-1-2 利用した病後児・病児病気保育施設 (N=199/複数回答)

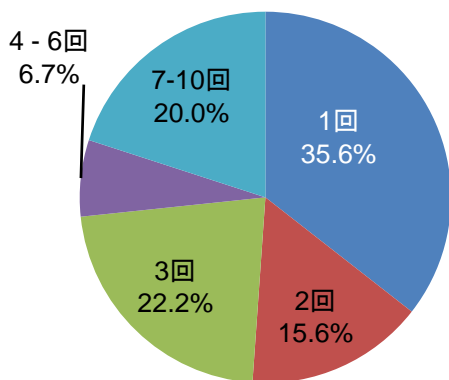


図 8-1-3 病後児・病児病気保育施設の利用回数 (N=45)

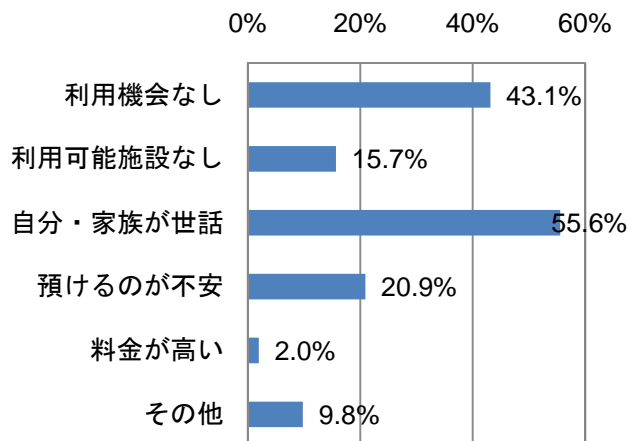


図 8-1-4 病後児・病児病気保育を利用しなかった理由 (N=153/複数回答)

(2) 病後児保育・病児病気保育の利用希望

小学校就学前のお子様を持つ方の病後児保育・病児病気保育の利用希望では、「西千葉病後児保育」が23.6%、「病院内病児病気保育」が36.2%であった。

料金では、＜登録料＞「年間2,000円」50.4%、＜利用料＞「半日2,500円」24.4%という回答が多かった。

一方、病後児・病児病気保育の利用を希望しない方は42.2%であり、利用しない理由では、「自宅から遠い」が57.1%という回答が最も多かった。

問5 病後児保育・病児病気保育の利用希望について伺います

a. 次の施設があったら利用しますか？ あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 西千葉キャンパス内に「病後児保育」があれば利用したい
2. 本学大学附属病院内に「病児病気保育」があれば利用したい
3. 利用しない

a.で1～2を選んだ方

b1. 保育料金について、適当だと思う番号をそれぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

- ＜登録料＞
1. 年間2,000円
  2. 年間5,000円
  3. 初回のみ10,000円
  4. 初回のみ15,000円
  5. その他

- ＜利用料＞
1. 1日5,000円
  2. 半日2,500円
  3. 1時間700円
  4. その他

a.で3を選んだ方

b2. 利用しない理由について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 自宅から遠い
2. 保育内容や環境が心配
3. 保育料金の経済的負担が大きい
4. その他

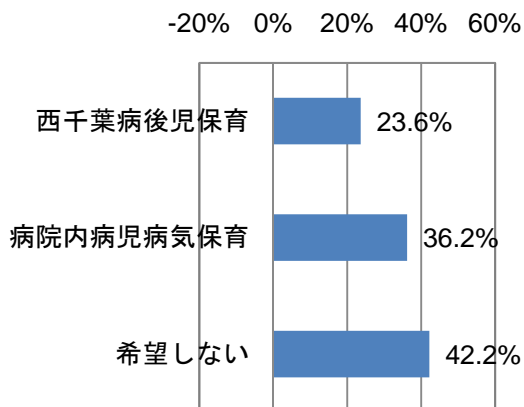


図 8-2-1 病後児・病児病気保育の利用希望 (N=199/複数回答)

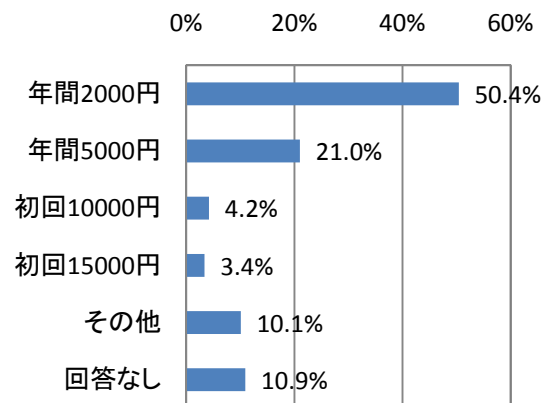


図 8-2-2 病後児・病児病気保育の登録料 (N=119)

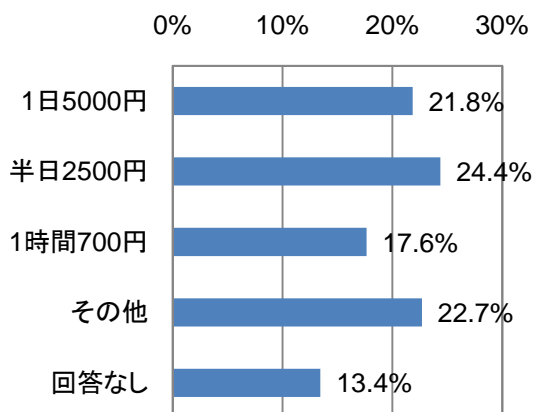


図 8-2-3 病後児・病児病気保育の利用料 (N=119)

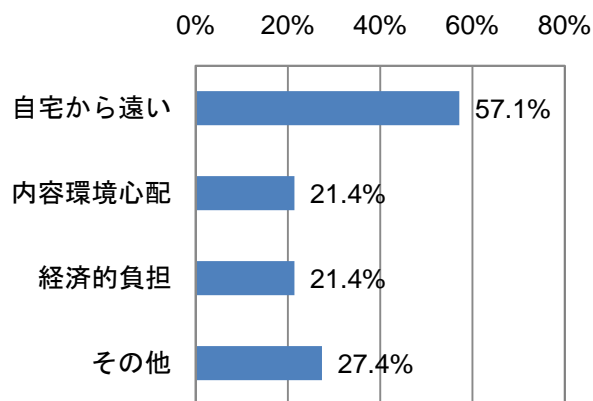


図 8-2-4 病後児・病児病気保育の利用を希望しない理由 (N=84/複数回答)

(3) 病後児保育・病児病気保育に関する意見・要望

| 病後児保育・病児病気保育に関する意見  | 身分 |
|---|----|
| 現在さつき保育園を月極め利用していますが、保育料金は時間制で細かく仕切られ、キャンセルも前日夕方まででないとなかなか料金がかかったり、とても利用しやすいとは言えません。園内の病後児保育が当日受け入れOKで、無料なのはとても助かっています。(ただし、臨時保育のお子さんの場合、病後児保育はなかなか受け入れてもらえないようです。) 院内保育園であるならば、病後児、病児保育の料金や受け入れ基準は、病院職員としてのメリットを感じられるように設定すべきだと思います。 | 院生 |
| 亥鼻キャンパス内にあったらぜひ利用したいと思います。料金は、現在利用しているところは、昼食付きで1日2300円です。それくらいの料金だと利用しやすいです。   | 院生 |
| 本来なら、子供の病気時は、仕事・研究を休める体制を作るべきだと思う。  | 院生 |
| 「病後児保育・病児病気保育」に関しては、住んでいる地域や近隣関係などのソーシャル・キャピタルをベースにして、ニーズを測定する必要があると思います。そのため、単に学内に施設を設置するのではなく、幅広い観点から、大学の近隣とのネットワークも調査する必要があると感じます。   | 教員 |
| うちの子供の場合、環境が変わるのをかなりいやがるため、おそらく利用しないと思いますが、大学にとっては、是非ともサービスを提供すべきだと思います。  | 教員 |
| 子供がまだに病気をしたことや妻が現在専業主婦のため実感がないのですが、妻が仕事を再開した後は、自宅に近い大学でこのような施設があるととても便利だと思います。  | 教員 |
| 病後児保育・病児病気保育を利用する際に、今の様なウイルス感染症が流行する時期とかに集中してしまっていて、決められた定員で満員になってしまっていて、利用したくても利用できないのではないかと、心配です。   | 教員 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| <p>住んでいる自治体で病後時保育を無料で登録しました。実際、利用時期が同じ地域の病気の流行が重なるために、キャンセル待ちになり、休んで対応しました。キャンセルが出て、利用できる連絡が来たときには治癒証明がでたので、利用せずに終わりました。病後時保育は、元気なのに登園できない病気の対応に非常にありがたい。育児中の共場働きにはある意味保険として重要です。体制を作るには、登録は安く（あるいは無料）で、実際利用に応じて料金を高くする方が良いのでは。私のように、希望が多くて使えない場合も考えられるので。</p> | <p>教員</p>       |
| <p>病時にはベビーシッターをお願いしています。育児クーポンを使わせていただいております、経済的に大変助かっています。現在は西千葉まで取りにうかがっていますが、亥鼻にも発行窓口があると助かります。病時保育室につきましては、インフルエンザや水疱瘡などのお子さんを預かる場合は、ある程度保育園と離れた場所あるいは感染を防ぐことができる場所に作る必要があると思います。</p>  | <p>教員</p>       |
| <p>例えばやよい保育園に預けている場合には新たに登録料を徴収するのは負担ではないでしょうか。病時ではないですが、やよい保育園には、他の認可・認可外保育園では当然受けられる優遇（例えば兄弟で在籍の時には上の子の保育料を割り引くなど）がないので、全体として比較した場合にかなり高額になり、利用がためられます。</p>  | <p>教員</p>       |
| <p>やよい保育園に子供を預けていて、熱があがると保育園より電話がかかってくる、仕事を早退せざるを得ないのが現状ですが、希望としては、病時病気保育があつて、熱があがった場合はそちらで連携して預かってくれるような体制になっていると良いのになあと思います。</p>   | <p>職員</p>       |
| <p>休みやすい職場が多かったので、どうしてもダメな時は実家の母（車で1時間くらいの距離）にきてもらいました。病後保育は家の近くになかったのと、手続きが面倒そうなこと、また病気の時まで預けるのが可哀想なので利用したことはありませんでした。でも、やよい保育園なら預けたいと思います。</p>   | <p>職員</p>       |
| <p>今のやよい保育園には病児保育できるスペースは無いのではないかな。</p>  | <p>職員</p>       |
| <p>子供が健康で、滅多に病気になりませんが、いざというときの安心のためにも、必要性を感じています。（居住している市に、病後児保育室があり登録していますが、幸い利用したことはありません。）</p>   | <p>職員</p>       |
| <p>小児科の病児保育は定員が少なく預けることが難しい。院内で預かっていただけると、何かあってもすぐ迎えに行けるし安心。年休をとれるが、やはり仕事を頻回に休んでしまうことにスタッフへの申し訳なきから、仕事を続けることが難しく感じてしまう。</p>  | <p>医療・看護系職員</p> |
| <p>親は子供をあずけて遊んでいるわけではありません。千葉大に貢献する活動をせざるを得ない立場の人もたくさんいるので、そこを理解してほしい。</p>   | <p>医療・看護系職員</p> |

|   |           |
|---|-----------|
| 是非病児保育を作ってほしいです。千葉市の保育室は各区に1つずつあるが定員4名で激戦です。乳幼児は1回の病期が1weekくらいかかり、毎回誰がそばについているかで家族内でトラブルです。市の保育室は連日は利用できないので、毎日違う区の保育室に予約しています。   | 医療・看護系職員  |
| 千葉市・市原市の病児・病後児保育施設は2000円/日で見てくれます。  | 医療・看護系職員  |
| 病気で本当に具合悪い時は、休んで看病しているが、病児保育というバックアップがあれば、利用せずとも母親の安心材料になると思う。  | 医療・看護系職員  |
| 病気の時に、自分の子を自分でみたいという親には、保育も大切だが、休暇をとりやすくする体制を整備するのも必要ではないでしょうか。   | 医療・看護系職員  |
| 病児保育があると、仕事に支障がでない。   | 医療・看護系職員  |
| 病児保育の料金が安い。さつき保育園の料金も高く、看護師の給料では負担が大きい。看護師も利用を希望している人は多いと思う。  | 医療・看護系職員  |
| 普段パートで働いているので、保育料金の経済的負担がもっと小さくなると、預けやすいことは確かで、預けやすくなると、もっと長い時間働けるようになるかもしれないと思う。   | 医療・看護系職員  |
| 普段通っている保育園の病後児・病児保育施設であれば良いが、病気の時だけ、子どもを預けるのはかわいそうな気がする。  | 医療・看護系職員  |
| <b>病後児保育・病児病気保育に関する要望</b>   | <b>身分</b> |
| 病後児保育だけでなく、病児保育も可能にしてほしいです！   | 教員        |
| いざ利用したいときに、空いていることが重要。  | 教員        |
| そういう施設があれば、安心感につながると思います。是非設立をお願いしたいです。   | 教員        |
| とにかく、絶対に必要だと思います。臨床をやっていると外来に穴を開けられないので。  | 教員        |
| 病児保育を是非希望する。  | 教員        |
| 安心できるようにしてもらいたい   | 教員        |
| 可能性は低いと思いますが、松戸地区も考慮対象から外さないで欲しいと思います。  | 職員        |
| 休日、早朝など、2～3時間で良いから、やってもらいたいです。  | 教員        |
| 妻が4月より職場復帰予定のため、病後児・病児病気保育の実施には期待しております。5限まで講義等が入ることから、保育時間は、早くても18時半までは確保して頂けると助かります。当日の朝の申込みでも大丈夫なように、受入人数に余裕を持たせていただければ助かります。料金は、安いほうがありがたいのは確かですが、「どうしても必要な時に利用できる」方がより重要ですので、多少高くても致し方ないと考えます。 | 教員        |

|  |          |
|--|----------|
| 子供が病気の時が一番困ります。西千葉に病後児・病児病気保育があれば、なんて助かるでしょう。大学としてのアピール度は満点だと思います。ぜひ設置をお願いします。   | 教員       |
| 私自身は自宅が近いため、いざという時には動けるが、そうでない人の場合は、職場まで病後児ないし、病児を連れてくることは困難であると思われる。自宅で子どもを見てくれるサービスないし、地域のサービスを使用する際の補助などが適当だと思われる。                  | 教員       |
| 事前に登録が必要であるにしても、突然でも（当日でも）あずけることが可能という体制ができているとよいと思う。  | 教員       |
| 自宅から大学が遠い場合、あるいは近くても病児保育施設が満員の場合、当日でも近隣のシッターサービスを利用しやすい制度があると助かります。登録した利用者には割高でも極力シッターを回すとか、事後申請でシッター利用料金が戻ってくる制度があると良いと思います。          | 教員       |
| 小学生せめて3年生まで対象としてください。  | 教員       |
| 東京都内在住。近くに信頼できる病児・病後児保育施設があるのでいつもそこを利用しているが、1日2500円かかるので費用の一部支援していただくと助かる。子育て中であるので非常勤で働いており、余裕のある十分な収入を得ていないため、病児保育を続けて利用していると負担が大きい。 | 教員       |
| せっかく設けているのなら、詳しい情報をもっと発信してほしい。申し込みの方法や問い合わせの方法を、メールやHPなども活用して対応出来るようにしてもらえたらありがたい。   | 職員       |
| 登録制にして、学内以外の保育園の子も利用できるようにしてほしい。私が登録しているところは、洋服類は勿論、お弁当おやつまでも持参で、当日用意するものが大変でした。病気の子供がいるのに、朝にそんな時間はないので、せめて、食べるものは用意してほしいです。           | 職員       |
| さつき保育園の病児病気保育があったら是非利用したいと思いますが、さつき保育園の敷地面積が手狭で無理だと思うので、まずはそこから改善をお願いしたいと思います。   | 医療・看護系職員 |
| さつき保育園は看護師さんが1人しかいなくて不安です。2人体制にしてほしいです。園庭を広げるという話が出ていましたが、年長児には手狭なようです。給食も冷凍食品ではなく、給食室ができて栄養師さんとかが入るとよりすばらしいなあと思います。ゼいたくな悩みですが。        | 医療・看護系職員 |
| 近くの病児保育が2,000円であり、給食費等ぬきだし、3,000円くらいだとありがたい。   | 医療・看護系職員 |
| 交替する看護スタッフがない現状なので、24時間、365日、対応してほしい。そうでなければ、子供のいるスタッフは、休日も夜間も仕事を入れることができず、外来などのかぎられた部所でしか働けなくなる。                                      | 医療・看護系職員 |

|  |                      |
|--|----------------------|
| <p>第1子は現在、学外の認可保育園へ預けています。これは自宅が遠く、児の友達をつくれるようにと考えたためです。勤務先でインフォメーションされる研修に出たいものはたくさんありますが、時間帯が17:30~19:00、20:00のものが多く、出れない状況が続いています。時間帯を考慮していただくか、夕食付きの単発の保育をしてもらえるととても助かります。検討よろしくをお願いします。</p> | <p>医療・看護系<br/>職員</p> |
| <p>病院内の病後保育料が高く、利用しにくい。利用するより、休んだ方が安上がり。子育てをしながら働くため、子供の病気で急な休みを減らすためにも、もう少し、利用しやすい料金にしてほしい</p>  | <p>医療・看護系<br/>職員</p> |
| <p>病気の際の対応が一番困るので、スムーズに利用できる病児保育の整備が必要。さつき保育園は対応が比較的スムーズだが、それでも満室になってしまうこともある。また、子どもが病気の際は、そもそも早めに帰宅したり、代診を立てられるような、人員の補充も必要。</p>  | <p>医療・看護系<br/>職員</p> |
| <p>病児保育の必要性はとても高いです。利用しやすい保育（場所、値段など）施設を検討して頂きたいです。</p>  | <p>医療・看護系<br/>職員</p> |



## 9. 病後児保育<sup>4</sup>・病児病気保育<sup>5</sup>の利用 ～小学生のお子様をお持ちの方～

### (1) 現在の病後児保育・病児病気保育の利用状況

小学生のお子様を持つ方のお子様が病気になった場合の対応では「配偶者が面倒をみた」が62.4%、「自分が面倒をみた」が56.9%、「親族が面倒をみた」が37.6%であった。

問3 お子様の病後児保育・病児病気保育の利用状況について伺います。

a. 現在お子様が病気になった場合、主にどのような対応をとっていますか。

あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 自分が面倒をみている
2. 配偶者が面倒をみている
3. 親族（父母など）が面倒をみている
4. 病後児保育を利用した
5. 病児病気保育を利用した
6. その他

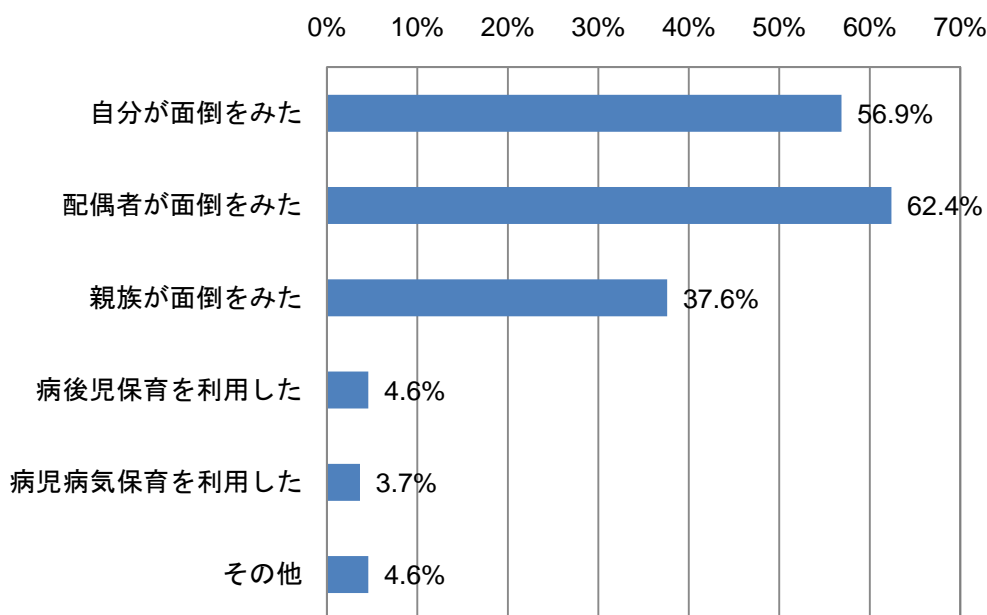


図 9-1 病気の場合の対応（N=109／複数回答）

<sup>4</sup> 病後児保育：病気の回復期のみの子どもを対象とした保育施設

<sup>5</sup> 病児病気保育：病気の急性期や感染症疾患の子どもを対象に小児科医が常駐（診察可能）した保育施設

(2) 病後児保育・病児病気保育の利用希望

小学生のお子様を持つ方の病後児保育・病児病気保育の利用希望では、「病児病気保育」が27.5%、「病後児保育」が14.7%であった。病後児・病児病気保育の必要年齢では、65.3%の方が「小学校4-6年生まで」と回答した。一方、病後児・病児病気保育の利用を希望しない理由では、「自宅から遠い」が84.8%と最も多かった。

b. 次の施設があったら利用しますか？ あてはまる番号すべてを選んでください。

1. 西千葉キャンパス内に「病後児保育」があれば利用したい
2. 本学大学附属病院内に「病児病気保育」があれば利用したい
3. 利用しない

**b.で1、2を選んだ方**

c1. 病後児・病児病気保育は、どのくらいの年齢まで必要だと思いますか。あてはまる番号1つを選んでください。

1. 小学校1~2年生まで
2. 小学校3~4年生まで
3. 小学校5~6年生まで

**b.で3を選んだ方**

c2. 利用しない理由について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 自宅から遠い
2. 保育内容や環境が心配
3. 保育料金の経済的負担が大きい
4. 特に必要性を感じない
5. その他

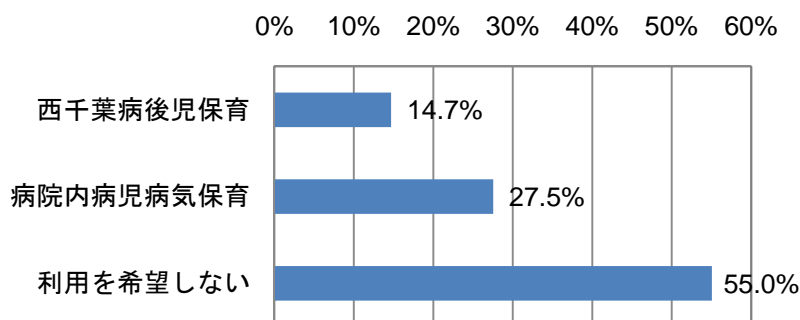


図 9-2-1 利用を希望する施設 (N=109/複数回答)

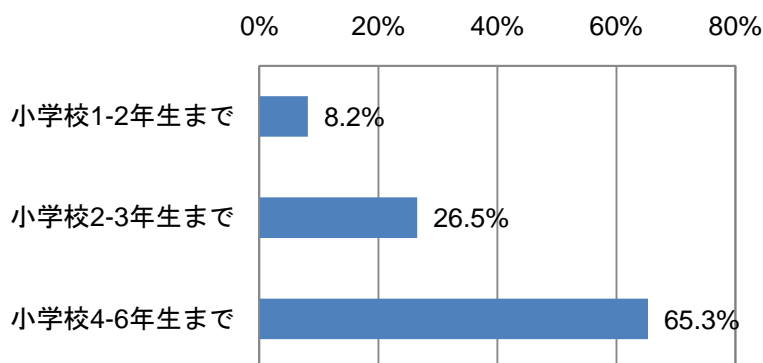


図 9-2-2 病後児保育・病児病気保育が必要だと思う年齢 (N=49)

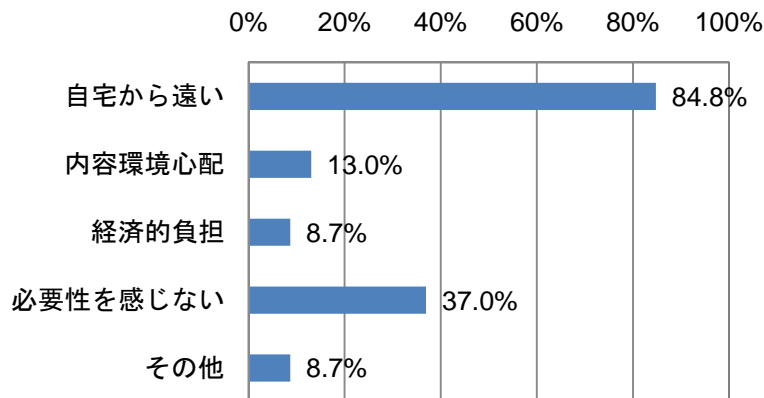


図 9-2-3 病後児保育・病児病気保育の  
利用を希望しない理由 (N=46/複数回答)

(3) 小学校のお子様をお持ちの方 病後児保育・病児病気保育に関する意見・要望

| 病後児保育・病児病気保育に関する意見  | 身分 |
|---|----|
| 自宅から近ければ利用したい   | 院生 |
| 移転すれば利用可能だと思います。  | 教員 |
| 遠方の方は地元の病児・病後児保育の情報を提供してもらえると助かるかも知れません。また、大学が病児・病後児保育を自宅に派遣してくれる団体と契約出来れば一番望ましいと思います。  | 教員 |
| 個人的には自宅から遠いので他に手段があれば利用しない(病後児を1時間半も電車に乗せて連れてくるというのは本来は好ましくない)と思いますが、どうしてもならない状況であれば最後の手段として利用できる状態にあるのは安心だと思います。                           | 教員 |
| 自分の場合は、今のところ身内に子供の面倒を見てくれる人がいるので敢えて上記のような保育施設を利用する必要性を感じないが、必要な人もいるであろうから、そのような施設はあったほうがよいと思う。  | 教員 |
| その施設がなければ同居の元気な親でもいなければ民間での通常の勤務は不可能。また、感染性の病気では隔離が困難なため申し込みの早い者勝ちになりあまり意味がない。実際過去に2か所を利用したが、送迎は車でないと不可能だし、西千葉ではどうか？大学内で本当の意味での理解があるとは思えない。 | 職員 |
| 子供は病後、外出できない。運動制限がある時期には、可能な環境内で知識や文化活動の刺激を欲しがると思います。個人では無理なので、院内で支援があると良いと思う。  | 職員 |

|  |                  |
|--|------------------|
| <p>漢字のとおりかもしれませんが、病後児保育と病児病気保育について自分の理解不足だと感じます。（機能や役割について）自分の子供が重度な難病や一般の教育を受けられない状況になった場合に支援してくれる施設であれば、利用を希望すると思いますが、実際は経営上利用者の数で左右されてしまうのだと思います。身勝手な意見ですが、幸いにも現在自分がそのような環境に遭遇していないので、施設については「特に必要性を感じない」と回答しました。</p>       | <p>職員</p>        |
| <p>さつき保育園の病後児保育をよく利用させていただきました。大変質の良い保育で感激しましたが、事前手続きが複雑なのには閉口致しました。当時、1000円／時間程度かかりましたが、それでも満足できる内容でした一般の病児保育は600円／h程度でしたが、大変質が悪く、医師と信頼関係がとれない。かく離が必要な時はガラスばりの保育室に放置される、といった状態は医師の手間がかかり、看護師、保育師の負担が多く、問題解決は大変だと思います。</p>     | <p>医療・看護系職員</p>  |
| <p>病後時保育は制度としては嬉しいが、一日の保育料が一日分の給料に近い金額だったら、休んで自分で面倒みたいと思う。</p>   | <p>医療・看護系職員</p>  |
| <p><b>病後児保育・病児病気保育に関する要望</b></p>   | <p><b>身分</b></p> |
| <p>既存の施設は一般に予約が必要で、熱を出した当日に電話をしてもほぼ満員で受け入れは不可能である。また、当日の電話受付は9時以後であることが多いことから、朝仕事に出る前になんとかしなければならぬ場合には全く使えない。したがって、柔軟な受付、受け入れ体制が望ましい（費用対効果を考えると、両立支援の問題は先送りになるが、これらを充実させていく必要があると考える）。</p>                                     | <p>教員</p>        |
| <p>地域の病後時保育、病時病気保育に登録したことがあるが、結局利用するためには医師の診断書が必要だったり、部屋が足りないなどの保育室の状況で断られる可能性があるとのことで、すぐに利用できる状況ではなかったため、利用しませんでした。もちろん、小児感染症のときなどは、よいのでしょうか……。中々計画どおりにいかないのが、子供のことなので、利用までの手続きが面倒だと結局はあまり使えません。その辺を検討していただけるとありがたいと思います。</p> | <p>教員</p>        |
| <p>病児保育休暇とか、回復期病児ベビーシッター料金支援などがあったらありがたい。</p>  | <p>教員</p>        |
| <p>本当に困っているので、早く充実させて欲しい。</p>  | <p>教員</p>        |
| <p>松戸の園芸学部が移転しない場合は松戸地区にも必要。さらに柏地区にも必要である。</p>   | <p>職員</p>        |

## 10. まとめ

本調査は、本学に勤務する教職員および大学院学生を対象に、仕事（教育研究等）や研究と子育てや介護などを含めた家庭生活の両立支援・子育て支援のニーズを把握し、本学における今後の両立支援施策に必要な基礎資料を得ることを目的に実施したものである。

教職員では全対象者の約20%から回答が得られた。WEB調査としては高い回答率であり、本学教職員の両立支援への関心の高さを示していると考えられる。調査の結果明らかになった点について、項目ごとに結果をまとめた。

### (1) 仕事・研究と家庭生活の両立について

**仕事・研究と家庭生活の両立に向け、『女性が結婚・出産後も研究や仕事を続けられる環境整備』、『学内・職場内に両立の手本となるモデルや相談相手の確保』が課題**

本学大学院生の研究環境では、「通学に便利」で「時間が調整でき」、「男女にかかわらず能力を發揮できる」が、「女性が結婚・出産後も研究を続けることは困難」で、「学内に研究や家庭を両立している“良きモデル”や“相談できる人”が少ない」と回答した方が多かった。

また本学教職員の仕事環境でも、「通勤に便利」で「時間が希望に合っている」、「男女にかかわらず能力を發揮できる」が、「女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けることは困難」で、「職場内に仕事や研究と家庭を両立している“良きモデル”や“相談できる人”が少ない」と回答した方が多かった。さらに教職員では、育児や介護に関する制度でも、「支援制度の充実」、「短時間勤務制度の取得」、「育児や介護のための休業による人事評価」、「代替要員制度」いずれも整っていないと回答した方が多かった。

これらの傾向は、上位の職位の教職員より、下位の教職員の方がみられた。特に“育児や介護に関する制度”の中でも「支援制度の充実」、「短時間勤務制度の取得」、「育児や介護のための休業による人事評価」で、「助教、助手」、「事務補佐員、派遣・非常勤職員」、「一般技術職以外の医師」、「看護系職員」、「その他の医療技術職員」、「研修医他」が整っていないと回答する割合が高かった。

以上の結果から、仕事・研究と家庭生活との両立環境について、管理職とそれ以外では意識の格差があり、一般・若手教職員にとっては、「女性が結婚・出産後も研究や仕事を続けるは困難」であり、「学内・職場内に両立の手本となるモデルや相談相手がない」「育児や介護に関する制度が整っていない」ということが明らかになった。

### (2) 本学両立支援企画室で実施している各種制度の認知度について

**両立支援に関する各種制度のさらなる充実、求められる情報の周知**

本学の両立支援制度については、7項目すべてのサービス・制度について「知らない」と回答した方が多く、「資料ライブラリー」、「メンター制度」、「研究支援要員制度」、「女性専用休憩室」については、70%以上が「知らない」と回答した。

しかし自由記述の回答では、各種制度への関心の高さ、周知を望む声が多く寄せられたことから、利用ニーズは高いが、周知が充分でないことが明らかとなった。

本学の両立支援について関心がある回答者の結果であることを考慮すると、平成 18 年度からの両立支援策がまだ十分に周知されていないという結果を示していると考えられる。両立支援企画室の活動、各種制度の周知の方法についてさらに充実する必要があるといえる。

### (3) 現在の保育・育児状況と今後の予定

#### 学内保育園の利用ニーズは、今後さらに高まる傾向

小学校就学前のお子様を持つ方の平日の保育方法では、「認可保育園」の利用が 51.8%と最も多く、「学内保育園」は 15.1%であった。学内保育園以外を利用している方が学内保育園を利用していない理由では、「自宅から遠い」が 40.8%と最も多く、次いで「料金が低い」26.6%、「保育内容や環境が心配」20.7%であった。

また、小学校就学前のお子様を持つ方が、休日にお子様を平日と異なる保育先に預けた経験がある方は 46.4%であった。その際、利用した保育方法は「配偶者または親族に頼んだ」が 79.8%と最も多く、次いで「一時保育施設の利用」38.1%、「ベビーシッター」25.0%であった。

また、現在妊娠中の方の学内保育園の利用希望については、「希望する」が 30.8%、「希望しない」が 26.9%であった。学内保育園の利用を希望しない理由では、「自宅から遠い」が 38.5%最も多かった。

現在学内保育園を利用しているのは 15.1%であるが、現在妊娠中の方の利用希望者は 30.8%と、今後さらに利用ニーズが高まると考えられる。自宅が大学に近く、料金が認可保育所と同等か安く設定されれば利用希望者は増えることも予想される。また休日の潜在的な利用希望もあると考えられる。

### (4) 病後児保育・病児病気保育の利用状況と利用希望

#### 子どもの急な病気に対応できる病児病気保育、子どもの病気の際には柔軟な休暇がとれる体制など、保育充実のための環境整備が急務

小学校就学前のお子様を持つ方の病後児保育・病児病気保育の利用状況では、「両方あり」が 9.1%、「病後児保育のみあり」が 7.6%、「病児病気保育のみあり」が 5.6%であった。

利用した施設では、「自宅近くの施設」が 65.9%、次いで「さつき保育園」43.2%が多く、年間の平均利用回数は 1 回が 35.6%と最も多かった。

病後児保育・病児病気保育を利用したことがない方は、その理由に「自分または家族が世話をした」55.6%、「利用する機会がなかった」43.1%と回答した方が多かった。

さらに、病後児保育・病児病気保育の利用希望では、「病後児保育」が 23.6%、「病児病気保育」が 36.2%であった。料金では、＜登録料＞「年間 2,000 円」50.4%、＜利用料＞「半日 2,500 円」24.4%と回答した方が多かった。一方、病後児・病児病気保育の利用を希望しないと回答した方は、42.2%で、希望しない理由では、「自宅から遠い」が 57.1%と最も多かった。

小学生のお子様を持つ方のお子様が病気になった場合の対応では「配偶者が面倒をみた」が 62.4%、「自分が面倒をみた」が 56.9%、「親族が面倒をみた」が 37.6%であった。小学生のお子様を持つ方の病後児保育・病児病気保育の利用希望では、「病児病気保育」が 27.5%、「病後児保育」が 14.7%であった。病後児・病児病気保育の必要年齢では、65.3%の方が「小学校 4-6 年生まで」と回答した。一方、病後児・病児病気保育の利用を希望しない理由では、「自宅から遠い」が 84.8%と最も多かった。

以上

## 付録1 調査票

千葉大学 教職員・大学院生の皆様

### 本学における両立支援に関するニーズ調査ご協力をお願い

千葉大学の両立支援企画室は、本学に勤務する教職員および大学院生の仕事(教育研究等)と子育てや介護などを含めた家庭生活の両立支援に関する総合的施策の策定及び推進について、検討・提言・実行することを目的に、平成18年度に設立されました。

平成19年度からは、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」の採択を受け、千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」を実施し、両立支援のための諸々の取り組みを行っております。

このたび、本学における両立支援・子育て支援ニーズの把握のため、男女教職員・大学院生を対象に調査をさせていただくことにいたしました。この結果を基に、今後、本学の更なる両立支援の展開につなげていきたいと考えております。

本アンケート結果は匿名性を保持し、個人が特定されない形で集計した上、ホームページなどで公表する予定です。上記の趣旨をおくみ取り頂き、ぜひご協力頂けますようお願い申し上げます。

千葉大学長 齋藤 康

両立支援企画室 室長/看護学部長 森 恵美

提出期間 平成20年12月24日～平成21年2月7日

提出場所 両立支援企画室(西千葉・亥鼻キャンパス内)

学内からは、WEBによるご回答・提出も可能です。

調査回答先(学内のみアクセス可能) <http://wlb-chiba-u.jp/>

【本調査に関する問い合わせ先】

千葉大学両立支援企画室

TEL&FAX 043-290-2020 (内線 4043)

E-mail: [ryouritsu@office.chiba-u.jp](mailto:ryouritsu@office.chiba-u.jp)



質問票兼回答用紙

問. 現在のあなた自身について、次の a~j それぞれ該当する番号 1 つに○印をつけてください。

|                    |   |   |  |
|--------------------|---|---|--|
| a.性別               | 1. 男性                      2. 女性  |   |  |
| b.身分・属性            | 大学院生の方  | b-a. 在籍課程<br>1. 博士前期・修士課程      2. 博士後期課程  |  |
|                    |   | b-b. 身分<br>1. 学生      2. 社会人学生      3. 留学生  |  |
|                    | 教員・<br>研究職の方  | 1. 教授                                      2. 准教授・講師<br>3. 助教・助手                              4. その他 (                                      )   |  |
|                    | 事務・技術系職員<br>の方  | 1. 管理職 (事務長、センター長、部長、課長)<br>2. 専門員、専門職員                                      3. 主任、一般職員<br>4. 事務補佐員、派遣・非常勤職員<br>5. その他 (                                      )                                       |  |
|                    | 医療技術系職員<br>の方   | 1. 管理職 (室長、技師長、看護師長以上)<br>2. 一般技術職以外の医師                                      3. 看護系職員<br>4. その他の医療技術職員                                      5. 研修医<br>6. その他 (                                      ) |  |
| c.所属地区             | 1. 西千葉                      2. 亥鼻                      3. 松戸・柏の葉  |   |  |
| d.年齢               | 1. 25 歳以下      2. 26~30 歳      3. 31~35 歳      4. 36~40 歳<br>5. 41~45 歳      6. 46~50 歳      7. 51~55 歳      8. 56~60 歳<br>9. 61 歳以上  |   |  |
| e.勤務形態<br>(大学院生以外) | 1. 常勤 (正規職員)<br>2. 非常勤 A (1 週間の勤務時間が 40 時間)<br>3. 非常勤 B (1 週間の勤務時間が 30 時間以内または、週以外の期間によって勤務日を定める教員)<br>4. その他 (                                      )  |   |  |
| f.勤続年数<br>(大学院生以外) | 1. 5 年未満                      2. 6~10 年                      3. 11~15 年                      4. 16~20 年<br>5. 21~25 年                      6. 26~30 年                      7. 31~35 年                      8. 36~40 年<br>9. 41~45 年                      10. 46 年以上 |   |  |

|                      |   |
|----------------------|---|
| g. 配偶者の有無と就業状況       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配偶者なし</li> <li>2. 常勤（公務員、民間企業の正社員など）の配偶者あり</li> <li>3. 非常勤 A（1 週間の勤務時間が 40 時間）の配偶者あり</li> <li>4. 非常勤 B（1 週間の勤務時間が 30 時間以内又は、週以外の期間によって勤務日を定める教員）の配偶者あり</li> <li>5. 自営業の配偶者あり</li> <li>6. 無職（専業主婦、学生など）の配偶者あり</li> <li>7. その他（            ）の配偶者あり</li> </ol> |
| h-a. 子どもの有無と年齢層      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもなし</li> <li>2. 小学校就学前の子どもがいる</li> <li>3. 小学生の子どもがいる</li> <li>4. 中学生以上（成人を含む）の子どもがいる</li> <li>5. 小学校就学前、小学生以上両方の子どもがいる</li> <li>6. 小学校就学前、中学生以上両方の子どもがいる</li> <li>7. 小学生、中学生以上両方の子どもがいる</li> <li>8. 小学校就学前、小学生、中学生すべての子どもがいる</li> </ol>                   |
| h-b. 子どもの人数          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校就学前のお子様（        ）人</li> <li>2. 小学生のお子様（        ）人</li> <li>3. 中学生以上（成人を含む）のお子様（        ）人</li> </ol>   |
| i. 妊娠・出産予定（自分または配偶者） | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠中      2. 妊娠計画中（不妊治療中）      3. 妊娠・出産の予定はない</li> </ol>   |
| j. 介護が必要な家族          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いない      2. 同居中の要介護家族がいる      3. 別居中の要介護家族がいる</li> </ol>  |

## 大学院生の方

問1 あなたの研究と家庭生活の両立についてお聞きします。

a. 大学（研究室・病院など）に来ている日の 1日当たりの平均在学時間について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

- |            |            |            |           |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 4時間未満   | 2. 4～6時間   | 3. 6～8時間   | 4. 8～10時間 |
| 5. 10～12時間 | 6. 12～14時間 | 7. 14～16時間 | 8. 16時間以上 |

b. 現在の千葉大学における研究環境について伺います。

次の項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

|                           | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
|---------------------------|------|--------|-----------|--------|
| 通学に便利である                  | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 就学時間が自分の希望に合っている          | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 女性が結婚・出産後も研究を続けられる環境にある   | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 男女にかかわらず、自分の能力を発揮できる環境にある | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 学内に、研究や家庭を両立している良きモデルがいる  | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 学内に、研究と家庭の両立について相談できる人がいる | 1    | 2      | 3         | 4      |

c. 現在の大学環境は、仕事や研究と家庭生活を両立しやすい状況にありますか。

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 両立しやすい         | 2. どちらかといえば両立しやすい |
| 3. どちらかといえば両立しにくい | 4. 両立しにくい         |

## 教職員の方

問1 あなたの仕事（研究を含む）と家庭生活の両立についてお聞きします。

a. 大学（職場・研究室・病院など）に来ている日の1日当たりの平均在学・在勤時間について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

- |            |            |            |           |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 4時間未満   | 2. 4～6時間   | 3. 6～8時間   | 4. 8～10時間 |
| 5. 10～12時間 | 6. 12～14時間 | 7. 14～16時間 | 8. 16時間以上 |

b. 現在の千葉大学における職場・研究環境について伺います。

次の項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

|                               | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
|-------------------------------|------|--------|-----------|--------|
| 通勤に便利である                      | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 就業時間が自分の希望に合っている              | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 女性が結婚・出産後もやめることなく働き続けることができる  | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 男女にかかわらず、能力を発揮できる             | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 職場内に、仕事や研究と家庭を両立している良きモデルがいる  | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 職場内に、仕事や研究と家庭の両立について相談できる人がいる | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 育児や介護に関する支援制度が充実している          | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 育児や介護のための短時間勤務体制がとりやすい        | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 育児や介護のために休業しても、人事評価で不利にならない   | 1    | 2      | 3         | 4      |
| 産休および育休中の代替要員体制が整っている         | 1    | 2      | 3         | 4      |

c. 現在の大学環境は、仕事や研究と家庭生活を両立しやすい状況にありますか。

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 両立しやすい         | 2. どちらかといえば両立しやすい |
| 3. どちらかといえば両立しにくい | 4. 両立しにくい         |

問2 本学の両立支援制度について伺います

a. 本学両立支援企画室で実施している以下のサービス・制度を知っていますか。

それぞれ該当する番号に○印をつけてください。

|                            | 知っている     |           | 知らない |
|----------------------------|-----------|-----------|------|
|                            | 利用したことがある | 利用したことがない |      |
| 両立支援企画室ホームページ、ニュースレター      | 1         | 2         | 3    |
| 両立支援企画室主催セミナー、シンポジウムなどへの参加 | 1         | 2         | 3    |
| 総合相談窓口                     | 1         | 2         | 3    |
| 女性専用休憩室・マタニティコーナー（搾乳室）     | 1         | 2         | 3    |
| 資料ライブラリー                   | 1         | 2         | 3    |
| メンター制度                     | 1         | 2         | 3    |
| 研究支援要員制度                   | 1         | 2         | 3    |

b. 本学における「両立支援企画室」および「仕事と家庭生活の両立の推進」に対するご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

次に該当する方は、引き続きアンケートにご協力をお願いいたします

- ・ 小学校就学前のお子様をお持ちの方
- ・ 小学生のお子様をお持ちの方
- ・ 妊娠中の方

複数お子様をお持ちの方は、末子の状況をお答えください。

該当しない方は、こちらでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。



**1～3 を選んだ方**

b1. どの施設を利用しましたか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

- 1. 自宅近くの施設
- 2. 大学（職場）近くの施設
- 3. さつき保育園内の病後児保育
- 4. その他（ ）

b2. 平成 20 年 1～12 月の間におよそ何回ぐらい利用しましたか。（ ）回 / 年

**a. で 4 を選んだ方**

b3. 利用したことがない理由について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

- 1. 利用する機会がなかった
- 2. 利用できる適当な施設がなかった
- 3. 自分または家族が世話をした
- 4. 病気中の子どもを預けるのが不安だった
- 5. 料金が高かった
- 6. その他（ ）

問 5 病後児保育・病児病気保育の利用希望について伺います

a. 次の施設があったら利用しますか？ あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

- 1. 西千葉キャンパス内に「病後児保育」があれば利用したい
- 2. 本学大学附属病院内に「病児病気保育」があれば利用したい
- 3. 利用しない

**1～2 を選んだ方**

b1. 保育料金について、適当だと思ふ番号をそれぞれ 1 つずつ選んで○印をつけてください。

- <登録料>
- 1. 年間 2,000 円
  - 2. 年間 5,000 円
  - 3. 初回のみ 10,000 円
  - 4. 初回のみ 15,000 円
  - 5. その他（ ）

- <利用料>
- 1. 1 日 5,000 円
  - 2. 半日 2,500 円
  - 3. 1 時間 700 円
  - 4. その他（ ）

**3 を選んだ方**

b2. 利用しない理由について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

- 1. 自宅から遠い
- 2. 保育内容や環境が心配
- 3. 保育料金の経済的負担が大きい
- 4. その他（ ）

c. その他病後児保育・病児病気保育の希望などについて自由なご意見をお聞かせください。

[ ]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。





## 妊娠中の方

問3 お子様の育児方法・学内の保育施設の利用予定について伺います。

a. 今後、学内保育園の利用を希望しますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

1. はい

2. いいえ

3. 未定



**2を選んだ方**

b. 学内保育園利用を希望しない理由について、あてはまる番号に○印をつけてください。

1. 自宅から遠い

2. 料金が高い

3. 認可保育園でない

4. 保育内容や環境が心配

5. 入園条件が合わない

6. その他 ( )

c. その他、病後児保育・病児病気保育の希望などについて自由なご意見をお聞かせください。

( )

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 本学における両立支援に関するニーズ調査実施概要

### 1. 調査の目的

本学における保育施設（病後児保育など）の拡充に向けて、本学に勤務する教職員および大学院学生を対象に、仕事（教育研究等）と子育てや介護などを含めた家庭生活の両立支援・子育て支援のニーズを把握し、本学における今後の施策に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の対象者 本学に勤務する全教職員（非常勤を含む男女）および在籍する全大学院生（男女）

### 3. 調査の時期 平成 20 年 12 月 24 日～平成 21 年 2 月 7 日

### 4. 回答方法

#### (1) WEBによる回答（1月31日まで回答可能）

学内からは、WEBによるご回答・提出も可能です。

調査回答先（学内のみアクセス可能） <http://wlb-chiba-u.jp/>

#### (2) 本紙による回答

両立支援企画室までご持参・郵送・FAXにてお送り頂くか、学内便で両立支援企画室までお送りください。

### 5. 調査結果の取り扱いおよび公表

回答頂いた結果は統計的に集計・分析し、本学の両立支援のための基礎資料として利用します。

結果の公表にあたっては、回答者個人が特定されないよう十分配慮し、個々の回答をそのままで公表することはありません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

#### 〔個人情報の取り扱いについて〕

国立大学法人千葉大学（以下「本学」といいます。）は、本学の学生、卒業生、受験生、附属病院の患者その他本学を利用される皆様に関して、本学が保有する個人情報を個人の重要なプライバシーとして保護することが本学の社会的責務であり、また、これは大学の教育・研究を行う上でも極めて重要なことであると考えます。本学は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき、本学独自の基準のもと、提供された個人情報を利用目的の範囲内に限って取り扱い、その正確性を保持し、安全性を確保するなど、個人情報の収集・管理等に関する適正な取扱いを確保するよう努力いたします。

### 6. 本調査に関する問合せ先

千葉大学 両立支援企画室 <http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/>

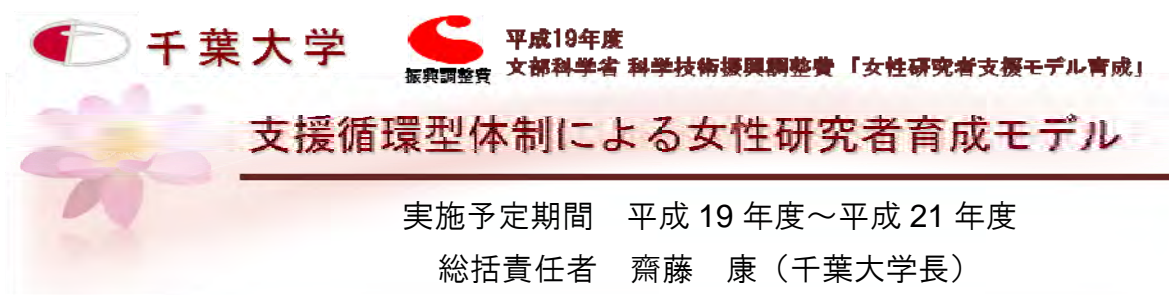
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

TEL : 043-290-2020（内線 4043） E-mail: [youritsu@office.chiba-u.jp](mailto:youritsu@office.chiba-u.jp)



本調査は、平成 19 年度 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」  
千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業の一環で実施するものです。

## 付録2 千葉大学「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業



### <概要>

本学では平成19年度に、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援育成モデル」に採択され、「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」事業に取り組んでいる。

本事業では、女性研究者が研究キャリアの継続に必要な支援体制を整備し、相互支援や後進の支援に自らあたることで、キャリアへの強い意志を培うとともに、女子学生に向けたキャリアガイダンスを実施することで、卒業生や地域との連携に基づく支援循環体制強化に取り組んでいる。

具体的には、次の3点に重点を置いて実施している。

#### 1. 両立支援の基盤づくり

各年代層の女性研究者が、研究と家庭生活を両立できるように、育児や介護などに応じた「柔軟な勤務制度への改革」、両立を支援するための「研究支援要員配置」などを行う。

#### 2. 支援と人的資源の循環づくり

支援を受けた女性教員が組織運営等を学びながらピアサポートや大学院生のメンターに加わり、自らが受けた支援を相互支援や女性研究者の育成というかたちで還元する支援循環体制をつくる。

#### 3. 意識改革

ホームページやニュースレター、リーフレットの配布による広報活動をはじめ、各部局への両立支援室の設置、また各部局での女性研究者育成を発表し、学長が認証するしくみの構築、各研究者に対するFDを通して、両立支援に関する意識改革を行う。

### 付録3 本学における女性研究者比率

| 部局名                             | ＜平成 18 年度＞<br>平成 19 年 1 月時点 |     |     |       | ＜平成 20 年度＞<br>平成 20 年 5 月時点 |     |     |       |
|---------------------------------|-----------------------------|-----|-----|-------|-----------------------------|-----|-----|-------|
|                                 | 男性                          | 女性  | 合計  | 女性比率  | 男性                          | 女性  | 合計  | 女性比率  |
| 文学部                             | 48                          | 13  | 61  | 21.3% | 49                          | 12  | 61  | 19.7% |
| 教育学部・大学院教育学研究科                  | 88                          | 31  | 119 | 26.1% | 90                          | 34  | 124 | 27.4% |
| 法経学部                            | 47                          | 7   | 54  | 13.0% | 47                          | 7   | 54  | 13.0% |
| 看護学部・大学院看護学研究科                  | 5                           | 53  | 58  | 91.4% | 7                           | 49  | 56  | 87.5% |
| 理学部・大学院理学研究科                    | 82                          | 5   | 87  | 5.7%  | 90                          | 8   | 98  | 8.2%  |
| 工学部・大学院工学研究科                    | 186                         | 8   | 194 | 4.1%  | 161                         | 7   | 168 | 4.2%  |
| 園芸学部・大学院園芸学研究科                  | 59                          | 6   | 65  | 9.2%  | 64                          | 7   | 71  | 9.9%  |
| 大学院人文社会科学研究科                    | 18                          | 4   | 22  | 18.2% | 20                          | 4   | 24  | 16.7% |
| 大学院融合科学研究科<br>(平成 19 年：自然科学研究科) | 67                          | 5   | 72  | 6.9%  | 54                          | 5   | 59  | 8.5%  |
| 大学院医学研究院                        | 156                         | 26  | 182 | 14.3% | 154                         | 23  | 177 | 13.0% |
| 大学院薬学研究院                        | 51                          | 10  | 61  | 16.4% | 44                          | 13  | 57  | 22.8% |
| 大学院専門法務研究科                      | 15                          | 3   | 18  | 16.7% | 12                          | 4   | 16  | 25.0% |
| 合 計                             | 822                         | 171 | 993 | 17.2% | 792                         | 173 | 965 | 17.9% |

## 千葉大学における両立支援ニーズ調査報告書

平成 21 年 5 月発行

発行 国立大学法人 千葉大学 両立支援企画室

本調査に関する問合せ先  
千葉大学 両立支援企画室  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33  
TEL : 043-290-2020 (内線 4043)  
<http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/>  
E-mail: [ryouritsu@office.chiba-u.jp](mailto:ryouritsu@office.chiba-u.jp)

(C) 2009 Chiba University. All Rights Reserved



国立大学法人 千葉大学  
National University Corporation  
Chiba University